

講義要綱

OSAKA CHIYODA JUNIOR COLLEGE

2023

大阪千代田短期大学

本学の建学精神・教育理念・教育方針 (SHIP)

建学の精神

本学は、弘法大師の興学精神に則り、将来、教養あり且つ有為な社会人としての資質を養い、創造的な生活をなし得る人材を育成する高等教育を行う。

教育理念

人格の発展と豊かな成長を図る『人間教育』を目的とし、学問的知識、実際の技量、人間性を培う教育を行う。

教育方針

「SHIP」の追求

Small	:	少人数教育
Heartful	:	あたたかい心のふれあいを大切に
Intellectual	:	豊かな知性と広い視野を養う
Practical	:	実践的な知識と能力を身につける

3つのポリシー

建学の精神を実現するため、以下の3つのポリシーを定める。

1. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

幼児教育科では、人間の生涯発達の視点から、子ども・障害者の教育や福祉支援に関する学習により、専門的知識・技術及び倫理観を身につけ、幼稚園教諭・保育士・保育教諭を始めとする教育・福祉専門職として活躍できる人材の養成を目的として、以下の能力を有するに至った者に短期大学士の学位を授与する。

- 1) 子どもの保育・教育に対する情熱・使命感・責任感を身につけている。
- 2) 保育・幼児教育に関する専門的知識・技術を修得し、実践力を身につけている。
- 3) 課題探究能力を持ち、自ら解決しようとする姿勢を身につけている。
- 4) 子どもとその家族を始めとする人権を尊重する心と術を身につけている。

2. カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

幼児教育科では、質の高い保育士・幼稚園教諭・保育教諭を養成するために、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施している。

- 1) 広く人格形成に資する一般教養科目を設置している。
- 2) 学習効果を高め学生一人ひとりの成長を図るために、少人数による授業の実施に努めている。
- 3) 知識活用力、論理的思考力、課題探究・解決力、表現力、コミュニケーション力など、社会人・地域の一員として必要不可欠な能力を育成するために、参加型・双方向型の授業（ゼミナール等）を実施している。
- 4) 保育士資格と幼稚園教諭二種免許状を認定するための専門的知識・技術及び倫理観を体系的に身につけるために、資格に関する専門科目を設置している。
- 5) 高い倫理性に基づいた実践力を養うために、実習科目を重視し、丁寧な個別指導を実施している。
- 6) 保育学・幼児教育学と隣接した分野の学びを提供し、関連資格の取得を支援するために、本学の地域教育・福祉総合センターとの連携体制を作っている。

3. アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れの方針）

本学の教育理念、教育方針に共感し、教育・保育・福祉分野で地域・社会に貢献することができる次のような学生を受け入れます。

- 1) 幼児教育・保育に関心を持ち、将来保育者になりたいという強い意志のある人
- 2) 高等学校等における基礎的な学力を有し、幼児教育・保育に関する専門的知識・技能を高めることができる人
- 3) 教育的な探究ができる応用力・活用力・創造力を高めようとする人
- 4) 保育者としてのマナー・モラルを遵守し、多様な考えを受け入れ、尊重し、協調できる人
- 5) 子どもを取り巻く社会に関心を持ち、積極的に子どもや保護者に関わり、社会に貢献しようとする意欲を持つ人

目 次

幼児教育科 1 回生 2023 年度入学生	3	幼児教育科 2 回生 2022 年度入学生	57
日本の歴史	5	日本国憲法	59
ゆずのお寺で空海を学ぶ	6	英語 C	60
日本国憲法	7	英語 D	61
人権を学ぶ	8	コンピュータ・リテラシ C	62
生物の多様性	9	体育理論	63
英語 A	10	体育実技	64
英語 B	11	キャリアデザイン II	65
韓国語 A	12	保育内容の指導法 (健康 I)	66
韓国語 B	13	保育内容の指導法 (人間関係)	67
コンピュータ・リテラシ A	14	保育内容の指導法 (環境)	68
コンピュータ・リテラシ B	15	保育内容の指導法 (言葉 I)	69
データサイエンス入門	16	保育内容の指導法 (言葉 II)	70
キャリアデザイン I	17	保育内容の指導法 (造形表現 I)	71
幼児と健康	18	保育内容の指導法 (造形表現 II)	72
幼児と人間関係	19	保育内容の指導法 (音楽表現 I)	73
幼児と環境	20	保育内容の指導法 (音楽表現 II)	74
幼児と言葉	21	保育内容の指導法 (総合表現)	75
幼児と表現	22	教育制度論	76
表現技術 (ピアノ I)	23	特別支援教育・保育演習	77
表現技術 (ピアノ II)	24	保育方法論	78
表現技術 (造形 I)	25	乳幼児理解	79
表現技術 (造形 II)	26	教育相談	80
保育内容総論	27	教育実習	81
教育学	28	教育実習指導	82
教職・保育者論	29	保育・教職実践演習	83
教育心理学	30	社会的養護 II	84
特別支援教育	31	子ども家庭支援の心理学	85
教育課程論	32	子どもの食と栄養	86
教育実習 I	33	乳児保育 II	87
教育実習指導	34	子育て支援	88
保育原理	35	保育実習 I (福祉施設)	89
子ども家庭福祉	36	保育実習指導 I (福祉施設)	90
社会福祉	37	保育実習 II	91
子ども家庭支援論	38	保育実習指導 II	92
社会的養護 I	39	保育実習 III	93
子どもの保健	40	保育実習指導 III	94
乳児保育 I	41	器楽活用法 I	95
保育実習 I (保育所)	42	こども音楽療育演習	96
保育実習指導 I (保育所)	43	こども音楽療育実習	97
保育実習指導 I (福祉施設)	44	ゼミナール II	98
こども音楽療育概論	45	ゼミナール II	99
キャンパスライフサポート	46	ゼミナール II	100
ゼミナール I	47	ゼミナール II	101
ゼミナール I	48	ゼミナール II	102
ゼミナール I	49	ゼミナール II	103
ゼミナール I	50	ゼミナール II	104
ゼミナール I	51	ゼミナール II	105
ゼミナール I	52	ゼミナール II	106
ゼミナール I	53	ゼミナール II	107
ゼミナール I	54		
ゼミナール I	55		
ゼミナール I	56		

科目ナンバリングについて

下表の3つの記号を組み合わせたものを「科目ナンバリング」と言います。

科目ナンバリング = 科目区分 + 科目レベル + 授業形態

科目区分		記号
基 礎		
一 般	文化と歴史	LH
	社会と人間	LS
	地球と自然	LN
外国語		LF
情報処理		LI
保健体育		LP
キャリア		LC
専 門		
保育内容・領域		MF
指導法		MT
保育教職基礎		MB
保育福祉		MW
関連・発展科目		MA
ゼミナール		MS

科目レベル	記号
レベル	
概論・入門	<u>1</u>
詳細・発展	2

授業形態	記号
講 義	<u>L</u>
演 習	E
実技・実習	P
現地実習	T

これは科目の特徴を表す記号で、例えば「社会福祉」の場合、上の表で

保育福祉に関する科目 = MW, 概論・入門的科目 = 1, 講義による授業 = L
 なので「MW1L」が科目ナンバリングです。



講義要綱

幼児教育科 1 回生
2023 年度入学生

日本の歴史

原田 敬一

LH1L

単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・春夏		
学修準備時間			60

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
◎ 1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	3.探究・主体性	○ 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

【講義の狙い】

歴史を暗記ものと思っていませんか。私は、歴史は、素材を時間と空間にとって、考えていくものだと考えています。小さな材料から少しずつその時代や社会を見えるようにし、意味を考えてみる。歴史好きも歴史嫌いも引き受けたい。

【講義の概要】

主に日本史に素材を取り、たまに世界史にも目を向ける。プリントやパワーポイントも使うが、受講生との質疑応答から授業を始める。

● 到達目標

日本の歴史に関する興味関心をもつとともに、諸外国との関連で日本史を学ぶ楽しさを実感することができるようになる。

履修のルール

特になし

予習・復習の方法「自主学習ガイド」

参考文献は毎回示すので、できるだけ多く読んでほしい。

課題に対するフィードバックの方法

授業の感想をリフレクションペーパー等でやり取りし歴史に対する関心を深め学びの持続・発展につなげる。

授業計画

1. 〈歴史〉って何？—いざ入門	私たちの話している日本語はいつから日本語なのか。平安時代の謎々「父と母」から始めます。古代語から現代語への歴史。知識から思考力への旅。
2. 〈人類の誕生〉—サルからヒトへ	地球の誕生、蛋白質の発生、生命の誕生、と長い物差しの中に、人類史を置いてみるとどうなりますか。
3. 人は何を食べていたのか—穀物とイモ	主食に何を食べるのか。人類はそれと格闘しながら30万年を生きてきました。穀物派、イモ派、トウモロコシ派など。その違いが何にたどり着いたのか。
4. 〈国〉の誕生—その起源	日本列島にいつ〈国〉が生まれたのか。何が備わっていたら〈国の誕生〉になるのでしょうか。〈にほん〉ではなく〈じつほん〉だったかも。サッカーも取りあげるか。
5. 蝦夷・熊襲・隼人—周辺の人々	日本列島にわたって来た人類は、誰だったのか。8世紀の史料は、漢字を使ってさまざまな表現をしています。律令国家との関係もさまざまでした。
6. 富山県・逆さ日本地図— 「環日本海・東アジア諸国図」の面白さ	地図は空間を記録する一つの方法です。1994年に作成された富山県の地図(2012年改訂)は、今まで見えていなかったことが見えてきます。
7. 〈地球は丸い〉—野菜の世界史	何が野菜で何が果物、というよくあるクイズ。ではなく、私たちの食べている野菜は、いつから食べられるようになったのだろうか。
8. 〈#わきまえない女〉たちの時代	男らしさ、女らしさ、という感覚の古さ、と言われて数十年。女性も男性も活躍したから今の人類社会ができたのだけど。時代を超越して取り上げてみよう。
9. 〈刀剣乱舞〉—いつから刀は大事になったのか	邪気払いに使う大事なものは何？刀大好きな人は、もう一度考える機会を持ちましょう。
10. 〈戦国時代〉の意味	アニメでもテレビでも小説でも人気のある〈戦国時代〉。ヒーローがいっぱいいて活躍する、そんな時代、と思ってませんか。日本列島の外からも見てみましょう。
11. 〈江戸時代〉の面白さ	〈江戸しぐさ〉は現代人の創作ですが、もっと面白い江戸時代人。鎖国はしていても世界が江戸にあった。
12. 〈憲法〉の世界史	日本は大日本帝国憲法と日本国憲法を作りました。憲法を持たない近代国家はUK。
13. 〈50年戦争〉—日本と世界	近代日本は、どこで戦ってきたのでしょうか。戦争を長い時間枠で見直してみよう。
14. 〈戦後〉って何？	いつから「戦後」でしょうか。それに先立つ用語は何？「戦後」で捉えられる事と捉えられない事。
15. 将来の職業参加(保育者等)をはじめ人生を歩むにあたって歴史に学ぶ姿勢を生かす意義についてまとめとする。(試験は別途実施する。)	

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法	
試験	40		
レポート	0		
その他	60	授業への参加状況 30%	授業内の小テスト 30%

教科書等

● 教科書等

特になし。

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

授業前後に適宜対応します。

実務経験

ゆずのお寺で空海を学ぶ

高橋 成明

LH1L

単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・春夏		
学修準備時間			60

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

1.情熱・使命感・責任感 2.知識・技術 3.探究・主体性 ④ 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

21世紀は「このころの時代」といわれている。物質的な進歩が見られた反面、自然環境の変化・感染症等による世界的な国難ともいえる状況が発生しています。私たちを取り巻く社会状況が変化していく中で日々の生活をどう生きていくのか、「豊かな心を育む」ともいわれる仏教の教えを中心に、なるべく平易な言葉・表現を用いながら皆さんと共に考えていきたい。

● 到達目標

父・母をご縁としてこの世に生まれた私たちが、さまざまな状況変化の中で、楽しく心地よく生きていくためのヒントを見出す。また、仏さまの説く自然観や真理に触れ、子供たちに「生命尊重・思いやりの心・感謝の心・正しい道徳性(モラル)の芽生え」を育てていく「保育」はどうあるべきか、について考える機会としたい。

履修のルール

予習・復習の方法「自主学習ガイド」

配布プリントを再読し、レポート提出に向けて自身の考えや意見をまとめておいてください。

課題に対するフィードバックの方法

レポート提出後に生徒一人一人に対してコメントを返す。

授業計画

1. 建学の精神に説く弘法大師空海と盛松寺について
2. 仏教から学ぶ保育1—生命尊重—
3. 子供は親を選んで生まれてくる
4. 仏教から学ぶ保育2—共同自立、自主的精神の芽生え—
5. 仏教から学ぶ保育3—正しい言葉遣いと努力する心—
6. 仏教から学ぶ保育4—よき社会人をつくる—
7. 仏教から学ぶ保育5—仏教に学ぶ保育の原点—
8. 生かせいのち—すべての〈いのち〉はつながっている—
9. ありがとう—恩に報い、感謝の心で—
10. ありがとう—自利・利他を生きる—
11. 仏さまの説く死生観(ししょうかん)—私たちはこの世に生まれ何処に向かうのか—
12. 希望の中に幸福を見出す
13. 光り輝く心を持つ人は、その笑顔で人々を和ませ自らも幸せの道を歩む
14. 仏さまの慈悲(じひ)・慈愛(じあい)について
15. 楽しく幸せに生きる—われわれの目指すべき理想像—

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・レポート提出(100%) 授業で取り上げた課題について自分の意見を述べるレポートを1回実施する。

教科書等

● 教科書等

配布プリント

● 参考書

・「子どもは親を選んで生まれてくる」池川 明 日本文教社
・「いのちの木(ポプラせかいの絵本)」ポプラ社
※すべて図書室にあります。参考にしてください。

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

授業の前後に受付します。

実務経験

日本国憲法

森 征樹

LS1L

単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・秋冬		[幼必]
学修準備時間			60

授業内容

● 目的と概要

われわれの社会では、憲法の内容を分かなければ理解できない様々な問題が日々起こっている。この講義では、時事問題や過去の裁判例などの具体的な事例を取り上げ、現代社会における「憲法問題」をどのように読み解けばよいのかを考察する。さらに日本国憲法の基本的な構造と原理を学ぶことによって、現代社会の問題点について、自己の意見を論理的に主張する力を身につける。

● 到達目標

講義で扱う「憲法問題」、「人権問題」を考えるにあたって、最低限必要な知識を身につけるとともに、それらの問題に対して自分の意見を持って解決策を探り、自分の主張を的確に表現できるようにする。すなわち、最低限の暗記は必要だが、自身の主張を論理的に形成して（説得力のある）文章に記すようになることが大事である。

履修のルール

出席することは最低限の必要条件であり、積極的な授業への参加および予習・復習が必須である。授業で解説したところは、必ず教科書を読み込んで復習し、理解できていないところがないようにすること。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

教科書をよく読み、理解できないところを無くすようにすること（少なくとも何がどう分からないのかを洗い出しておくこと）。授業の中で言及する問題点について、自分の考えを持つようにすること。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーなどを使って講評する。

授業計画

1. ガイダンス／憲法とは何か
2. 人権とは何か／子どもの人権・外国人の人権
3. 新しい人権／プライバシー権・自己決定権
4. 法の下での平等／性差別とは
5. 表現の自由／なぜポルノは規制されるのか
6. 職業選択の自由（営業の自由）
7. 生存権／人間らしく生きるということ
8. 教育を受ける権利／誰が教育内容を決めるのか
9. 平和主義／戦争が起きないために何をする
10. 立法権／国会は何をするところか
11. 内閣／政府がしなければならないこと
12. 裁判所①／裁判の種類・内容
13. 裁判所②／司法審査制とは何か
14. 地方自治／住民投票で決着を！
15. 憲法改正／憲法は改正すべきなのか

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	80	筆記試験を行う。
レポート	0	
その他	20	受講態度、講義への参加姿勢、授業中課題、小テスト、など

教科書等

● 教科書等

森英樹『大事なことは憲法が教えてくれる：日本国憲法の底力』
新日本出版社、¥1,760。

● 参考書

南野森（監修）、開発社（編集）『10歳から読める・わかるいちばんやさしい日本国憲法』東京書店、¥1,408。
曾我部真裕、横山真紀（編集）『スタディ憲法〔第2版〕』法律文化社、¥2750。

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	反転授業	◎ ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	◎ 双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

授業開始前および終了後に質問等を受け付ける。

実務経験

人権を学ぶ

黒田 浩継

LS1L

単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・春夏		
学修準備時間			60

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	3.探究・主体性	◎ 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

《目的》

- ・現代社会に存在する様々な人権問題の具体的な事例を当事者の視点から考察し、人権を尊重する考え方の重要性・必要性について理解を深める。
- ・人権問題を自らの生き方につなげ、人権を尊重する人間として他者との関わりの大切さについて考え、差別のない社会の実現に向けて行動できる実践力を身に付けることをねらいとする。

《概要》

「子どもの人権」を中心に、保育者に必要な最低限度の人権に関わる知識を学習する。学習に当たっては当事者の視点に基づいた教材を活用し、多様な考え方があることを体験できる参加体験型ワークショップ等を取り入れる。

● 到達目標

- ・人権に関わる様々な問題についての理解を深め、課題解決に向けた実践力を身に付ける。
- ・様々な人権問題を自分事としてとらえ、将来、保育者として子どもやその保護者と接する際に役立つ知識と力を身に付ける。

履修のルール

- ・本学の1回生を対象とした選択必修科目
- ・2回生、高野山大学の学生も希望すれば受講できる。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

授業中に適宜指示するが、予習については授業計画を参考に最初の授業で配布する「ゆまにてなにわ」を事前に読んでおく。

課題に対するフィードバックの方法

授業の最後に「授業振り返りシート」を完成させて提出する。提出されたシートは点数化し、次回の授業で返却する。

授業計画

1. ガイダンス「人権を学ぶ」で何を学ぶのか？
2. 「人権」ってなに？—誰もが幸せに生きていくために—
3. 子どもの人権Ⅰ「子どもの権利条約—子どもは権利の主体」
4. 子どもの人権Ⅱ「児童虐待と体罰」
5. ちがいを豊かさにⅠ「在日韓国朝鮮人の人権問題」
6. ちがいを豊かさにⅡ「コリアタウンフィールドワークⅠ」
7. ちがいを豊かさにⅢ「コリアタウンフィールドワークⅡ」
8. ちがいを豊かさにⅣ「多文化共生社会の実現に向けて」
9. 障がい者の人権と合理的配慮—ともに生きる社会とは
10. いじめとハラスメント（セクハラ、パワハラ）
11. SDGsと人権Ⅰ「子どもの貧困問題」
12. SDGsと人権Ⅱ「ジェンダーと男女平等教育」
13. SDGsと人権Ⅲ「性の多様性—性的マイノリティの人権」
14. 差別のない社会をめざしてⅠ「アサーティブな自己表現」
15. 差別のない社会をめざしてⅡ「子どもたちの人権尊重」

第6回、第7回についてはコリアタウンのフィールドワークを実施するので、現地までの交通費が必要。

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	60	筆記試験を実施する(配布資料、ノート持ち込み可)。
レポート	0	
その他	40	受講態度、授業への参加・取り組み姿勢、「授業振り返りシート」の提出状況

教科書等

● 教科書等

講義内で配布する資料(「ゆまにてなにわ」、プリント)

● 参考書

授業中に適宜紹介する

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

随時、アドミッションオフィスにて

実務経験

大阪府教育庁、大阪府教育センターにおいて人権教育を担当。現在、大阪府の人権に関わる委員会の委員(大阪府研究調査開発事業)を務める。この経験をもとに保育者に必要な人権に関する基本的内容について指導する。

生物の多様性

島田 和秀

LN1L

単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・春夏		
学修準備時間			60

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

1.情熱・使命感・責任感 2.知識・技術 3.探究・主体性 ④ 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

地球は、様々な偶然の重なりの中で生命を誕生させた。誕生した生物は、地球環境の下で進化をして多様な生物となった。また、生物の活動が地球環境を変化させ今日、多様な生物が生きる地球となっている。生物の多様性を進化と環境との関係から理解できるようにしていく。

● 到達目標

宇宙の誕生、太陽系、地球の誕生の過程について理解する。
地球が様々な偶然の中で生命を誕生させた過程で、物質の進化があったことを理解する。
生物の活動が地球環境を変えていったこと、それによって生物が進化していったこととの関連を捉える。
進化の過程で多様な生物が生まれてきたことについて理解する。

履修のルール

ノートをとること。授業終了後にノート提出を課題とする。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

毎回の授業に対し、考察を書く。

課題に対するフィードバックの方法

ノートの内容についてそれぞれ個別に指導する。

授業計画

1. 宇宙の誕生、地球の誕生
2. 生命の起源、進化と地球環境の変化
3. カンブリア紀の生物
4. 植物の進化と多様性
5. 植物観察実習
6. 節足動物の特徴
7. 昆虫採集
8. 脊椎動物の陸上への進化の過程
9. 鶏の卵の発生観察
10. 鶏の解剖
11. 恐竜と鳥類
12. 哺乳類の進化
13. 食肉目、犬と猫について
14. 霊長目と人の進化
15. 動物園実習

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	70	講義内容についての筆記試験。到達目標に対して理解を問う筆記試験を行う。
レポート	0	
その他	30	ノートの考察について、授業の理解度を評価する。

教科書等

● 教科書等

講義で配布する資料
天王寺動物園実習（実習学生負担：入園料 ¥500、現地までの交通費が必要です。）

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	④ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

昼休み、空き時間で対応

実務経験

英語 A

Peter Shelly

LF1E

単位	演・1	回数	15
年次 学期	1年・ 春夏／秋冬		[幼選]
学修準備時間			15

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	3.探究・主体性	4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

This course focuses on helping students improve their English speaking communication skills and is great for relative beginners. This course is suitable for learners whose reading, grammar, and vocabulary knowledge is greater than their speaking ability. A willingness to try to use English in class, as well as actively participate in role playing dialogues is expected. Each lesson focuses on a clear topic and teaches practical English a student can use outside of class. The situations covered are similar to normal ones a person may find herself in abroad. Although the course is conducted using American English, other accents can be heard on the class CD. The course consists of 15 lessons, plus a final exam, each within a 90 minute class.

● 到達目標

The learning objectives are focused on helping each student develop his/her confidence and ability to use English actively to communicate with native speakers. We will explore and discuss each topic and use the target language through two-part conversational activities. Two simple model dialogues will be presented to, and practiced by the class each lesson. Some memorization of basic phrases and vocabulary will be required. Through further controlled practice using visual and written prompts, students will expand their ability to communicate in English in a similar social situation.

履修のルール

Because we are studying a language, each student is strongly urged to attend every lesson and actively participate in class. Each student is also expected to bring a basic English/Japanese dictionary to every lesson. This can be either a paper or electronic dictionary, but NO cell/smart phones can be used during class.

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

Please prepare for each class by reading the unit's main conversation beforehand, as well as reviewing any vocabulary or phrase list provided. Additional material or assignments to help you become familiar with the topic may be provided ahead, too. Please actively participate and try in each class, complete and turn in the assigned homework on time, and learn the vocabulary and phrases covered in each unit.

課題に対するフィードバックの方法

When possible, the correct answers will be provided immediately after a test for student corrections and questions.

授業計画

1. Class Introduction / Tell me about your family (start)	16. Final Exam
2. Tell me about your family	17.
3. I like classical music best	18.
4. What blood type are you?	19.
5. What a beautiful coat!	20.
6. Would you like to come over for coffee?	21.
7. I'm taking a computer class these days	22.
8. I'm going to wash the car	23.
9. Review of Units 1, 2, 3, 4, 5, 8, 9 + Midterm exam	24.
10. Do you remember when you were in high school?	25.
11. Would you like to try some Japanese food?	26.
12. We're flying to Singapore	27.
13. I have a terrible headache	28.
14. I'm afraid of snakes	29.
15. Let's keep in touch!	30.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	24	Final Exam [24%]
レポート	0	
その他	76	- Non-academic grade [20% total] - Academic grade [56% total] ・ Homework (32%) ・ Mini exams (16%) ・ Mid-term Exam (8%)

教科書等

● 教科書等

Making Friends 2 with Self-Study CD マクミラン ランゲージハウス ¥2,530(税込)

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

I do not hold formal office hours. I will do my best to find a mutually convenient time that we can meet to discuss any questions, problems, or concerns you may have. Below are the ways you may contact me to set up an appointment:

- ・ Mr. Peter D. Shelly
- ・ peterdshelly@gmail.com (the easiest and best way to contact me - please include your name in English)
- ・ 0721-68-8636 (home telephone _ I have no cell phone)
- ・ 3-21-3 Mikanodai, Kawachinagano-shi, Osaka-fu 586-0044

実務経験

英語 B

鯉坂 はるよ

LF1E

単位	演・1	回数	15
年次 学期	1年・ 春夏／秋冬		[幼選]
学修準備時間			15

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

- | | | | |
|--------------|---------|----------|---------|
| 1.情熱・使命感・責任感 | 2.知識・技術 | 3.探究・主体性 | 4.人権・共感 |
|--------------|---------|----------|---------|

授業内容

● 目的と概要

〈目的〉 英語の絵本を読むことで、英語を学び、英語圏の子どもの世界、子どもの文化も学ぶことを目的とする。小学校から英語を学ぶこととなり、英語を取り入れる幼稚園、保育所、こども園が増加しているため、幼稚園、保育所、こども園でどのように英語を取り入れているのかも知る。

〈概要〉 (1) 英語の絵本を読み、語句の意味、文法を学び、絵本の世界を知る。

(2) 英語圏の子どもの世界や英語圏の子どもの遊びを知る。

(3) 英語圏の子どもの遊びや英語の手遊びを体験する。

(4) 幼稚園、保育所、こども園での英語の取り入れ方を体験する。

(5) 自分で絵本のストーリーを考え、英語にし、英語の絵本を作成する。

● 到達目標

(1) 英語の知識、英語圏の子どもの世界、英語圏の子どもの文化の知識を習得する。

(2) 外国の絵本の知識を習得する。

(3) 幼稚園、保育所、こども園での英語の取り入れ方を理解する。

(4) 英語の子どもの遊びや手遊びができる。

(5) 英語のオリジナル絵本を作成する。

履修のルール

グループワーク、プレゼンテーション等に積極的に参加すること。

予習・復習の方法「自主学習ガイド」

毎回授業開始時に前回授業の振り返り小テストを行うので、学んだことを復習しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

小テストを実施した後に、解説を行う。

授業計画

1. 授業の進め方、様々な海外の絵本、先輩の作成した英語絵本の紹介
2. 英語の絵本 Little Blue and Little Yellow の作者を知る
3. Little Blue and Little Yellow の内容を理解する
4. Little Blue and Little Yellow の作者が伝えたいこと
5. 英語の絵本、イギリス民謡発祥の英語の手遊び
6. 英語の絵本に出てくる遊びを学ぶ
7. 英語の絵本に出てくる遊びを学び、体験する
8. 幼稚園、保育所、こども園での英語
9. 子どもの英語の歌 Grandfather's Clock の背景を知る
10. 子どもの英語の歌 Grandfather's Clock の内容を理解する
11. 米国民謡発祥の英語の手遊び 英語の絵本のストーリーを考える (ディスカッション・ディベート、グループワーク)
12. 絵本のストーリーを英語にする (グループワーク)
13. 英語の絵本を作成する (グループワーク)
14. 作成した絵本の発表 (プレゼンテーション)
15. 作成した絵本の発表のふりかえり、試験について

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	50	筆記試験を行う (60%)。
レポート	0	
その他	50	英語の絵本を作成する際のグループワークの参加状況や、絵本の発表 (プレゼンテーション) や、完成した絵本も評価に入れる (40%)。舞授業最初に、前回の振り返り小テストを行う (10%)。

教科書等

● 教科書等

適宜プリントを配布する。

● 参考書

授業中に適宜紹介する。

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	◎ ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
◎ 学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

火、水、木、金曜日の昼休み。研究室にて。

実務経験

韓国語 A

金光敏

LF1E

単位	演・1	回数	15
年次 学期	1年・春夏		[幼選]
学修準備時間			15

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

1.情熱・使命感・責任感 2.知識・技術 3.探究・主体性 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

韓国語に入門基礎を軸にして、読める、書ける、話す、聞くをめざした実用的な授業展開に取り組みます。また、言語の背景となる文化理解、現代韓国の基礎理解などもおりまぜて、朝鮮半島全体への関心を高める授業に取り組みたいと思います。

● 到達目標

15回の授業を終えて、ハングルの習得と簡単な会話ができることをめざします。また、韓国へのさらなる関心の高まりを実感できるよう、都市名などの地理や伝統文化、現代韓国に関わる用語習得などに取り組んでもらいます。

履修のルール

言語習得は積み重ねが不可欠です。週間ペースではなかなか前進しません。毎週の授業前に必ず復習を丁寧に続けることを勧めます。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

翌週の授業までに必ず復習をして臨んでください。言語は積み重ね。短時間でいいので復習をしておくともちががなく習得が早いです。

課題に対するフィードバックの方法

レポート提出をしてもらい、添削をして返却します。かならず、見直してください。

授業計画

1. 韓国と韓国語の理解
2. ハングルのつくりと読み (1) ハングルの歴史
3. ハングルのつくりと読み (2) 反切表の習得
4. ハングルのつくりと読み (3) 反切表の練習
5. 挨拶と自己紹介 会話のステップ
6. 肯定と疑問文
7. 否定文
8. 動詞の活用 (1) パッチムのあるとない動詞の活用
9. 動詞の活用 (2) 変則的な動詞の活用
10. 動詞の活用 (3) 否定、可能、不可能
11. 形容詞の活用 (1) 形容詞の基本活用と変則活用
12. 形容詞の活用 (2) 形容動詞の活用
13. 現在形と過去形 (1) 基本活用
14. 現在形と過去形 (2) 変則活用
15. まとめ 発話と筆記の練習

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	60	筆記試験を行います。
レポート	0	
その他	40	授業ごとに小レポートを提出してもらいます。

教科書等

● 教科書等

できる韓国語初級 (1) 新大久保学院 税込み ¥2,200

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

毎週授業終了後に個別の質問を受け付けます。

実務経験

韓国語 B

金光敏

LF1E

単位	演・1	回数	15
年次 学期	1年・秋冬		[幼選]
学修準備時間			15

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	3.探究・主体性	4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

前期の授業内容を踏まえて、さらに基礎理解を深め、実用的に使える語彙、表現の拡大をめざします。単語習得に力を入れることで、実際の使える韓国語に取り組みます。

● 到達目標

韓国語能力検定の2級、3級レベルをめざします。

履修のルール

週に1度の授業だけでは能力は伸びません。かならず、週に1回以上、復習時間を持ってください。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

翌週の授業までに必ず復習をして臨んでください。言語は積み重ね。短時間でいいので復習をしておくともちがいがなく習得が早いです。

課題に対するフィードバックの方法

授業ごとにミニレポートの提出をしてもらいます。それを添削して返却します。

授業計画

1. 復習 肯定、疑問、否定
2. 復習 動詞、形容詞の活用
3. 表現 仮定形の活用
4. 表現 動詞の連体形の活用
5. 表現 動詞と形容詞の過去形
6. 表現 語尾の締めくくり方
7. 表現 漢字語と固有語
8. 表現 外来語表現
9. 数の数え方 固有語と漢数字
10. Kpop から韓国語を学ぶ 流行表現を見る
11. Kpop から韓国語を学ぶ 発音にチャレンジ
12. Kpop から韓国語を学ぶ 表現の特殊性を見る
13. 韓国詩へのまなざし 尹東柱と朝鮮語
14. 韓国詩へのまなざし 尹東柱の詩朗読
15. まとめ 韓国語へのさらなる興味を見つけるために

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	60	筆記試験を実施します。
レポート	0	
その他	40	授業ごとにミニレポートを提出してもらいます。

教科書等

● 教科書等

できる韓国語初級 (1) 新大久保学院 税込み ¥2,200

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

授業終了後にいつでも個別質問を受け付けます

実務経験

コンピュータ・リテラシ A

森 大樹

LI1E

単位	演・1	回数	15
年次 学期	1年・春夏		[幼選]
学修準備時間			15

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

1.情熱・使命感・責任感 2.知識・技術 3.探究・主体性 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

インターネットやメール、文書作成、プレゼンテーションなどコンピュータに対する情報活用能力は、将来の就業においても大切な要素のひとつである。さらに近年、各種情報がデジタル化された結果、デジタルカメラやクラウドなど、ICT環境の運用能力も必要とされるようになった。

[目的] 本科目の目的は ICT 機器の活用方法を習得することである。ワードやグーグルクラスルーム、表計算を使って具体的な課題の演習をおこない、情報リテラシーを自然と身に付け、同時に専門分野などへの応用ができる力を習得する。

[概要] 次の授業計画に示したように、グーグルクラスルームやワード等の持つそれぞれの基本機能について演習をおこないながら、コンピュータの基礎的な技能が自然と身につくように構成してある。作成したテーマ課題を授業時にプレゼンテーションし、相互学習をする。

● 到達目標

各自持参するノート PC の使用方法、グーグルクラスルームやワード等のソフトウェアの操作方法を学び、基本的な文書や簡単な表の作成がスムーズに出来るようになること。また単に例文通りに入力するだけでなく、全体の構成、体裁などについて各自が創意工夫して文書や表の作成ができるようになること、情報リテラシーを身に付けることを目標としている。

履修のルール

「コンピュータ・リテラシ A」、「コンピュータ・リテラシ B」はカリキュラム内容が連続しているため、合わせて履修すること。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

授業後には、授業時にできなかった課題を必ず最後まで完成させておくこと。また、授業時間内に完了した課題についても、もう一度復習し、学習内容を整理すること。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題に対して次回授業時に解説を行う。

授業計画

1. オリエンテーション、情報モラル
2. ノート PC 環境、メール、ブラウザの設定
3. グーグルクラスルームの使い方
4. グーグルミート、グーグルドライブの使い方
5. タイピング課題
6. 情報処理の基礎・情報検索・図書館利用法
7. 自己紹介文作成と印刷
8. 文書作成演習 (1) ページ設定、文字列操作
9. 文書作成演習 (2) 表の作成、印刷
10. 文書作成演習 (3) 画像挿入、図形描画
11. おたより作成
12. 表計算 (1) 関数による統計処理と情報分析
13. 表計算 (2) グラフ作成
14. パワーポイントを活用したプレゼンテーション資料の作成
15. 総合演習問題

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	受講態度 (40%)、課題等 (60%)。課題への取り組み、授業態度を重視する。

教科書等

● 教科書等

『これからの保育のための ICT リテラシー & メディア入門』株式会社みらい 2022 年 4 月発刊

ISBN : 978-4-86015-578-0 価格 : ¥3,300 (税込)

自分専用のノート PC を各自購入し、授業に各自持参すること。大学生協モデルも販売するので、どの機種を買っていいか迷う場合は生協モデルを購入してください。

ノート PC 推奨スペック→グーグルクロームが動作するもの。画面 10 インチ以上。キーボード付き。

● 参考書

講義時に適宜紹介

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

火曜～金曜の昼休み・森研究室 (704)

実務経験

コンピュータ・リテラシ B

森 大樹

LI1E

単位	演・1	回数	15
年次 学期	1年・秋冬		[幼選]
学修準備時間			15

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	◎ 3.探究・主体性	4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

インターネットやメール、文書作成、プレゼンテーションなどコンピュータに対する情報活用能力は、将来の就業においても大切な要素のひとつである。さらに近年、各種情報がデジタル化された結果、デジタルカメラやクラウドなど、ICT環境の運用能力も必要とされるようになった。

[目的] 本科目の目的は ICT 機器の活用方法を習得することである。ワードやパワーポイント等を使って具体的な課題の演習をおこない、これらの技能を自然と身に付け、同時に専門分野などへの応用ができる力を習得する。

[概要] 次の授業計画に示したように、ワードやパワーポイント等の持つそれぞれの基本機能について演習をおこないながら、コンピュータの基礎的な技能が自然に身につくように構成してある。作成したテーマ課題を授業時にプレゼンテーションし、相互学習をする。

● 到達目標

ワードやパワーポイント等のソフトウェアの操作方法を学び、基本的な文書作成やプレゼンテーションがスムーズに出来るようになること。また単に例文通りに入力するだけでなく、全体の構成、体裁などについて各自が創意工夫して文書や表の作成ができるようになることを目標としている。

履修のルール

「コンピュータ・リテラシ A」、「コンピュータ・リテラシ B」はカリキュラム内容が連続しているため、合わせて履修すること。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

授業後には、授業時にできなかった課題を必ず最後まで完成させておくこと。また、授業時間内に完了した課題についても、もう一度復習し、学習内容を整理すること。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題に対して次回授業時に解説を行う。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 学園祭ポスター制作 (1) 課題説明
3. 学園祭ポスター制作 (2) デザイン完成
4. 名前シール作成
5. 「情報機器の活用と保育」課題説明
6. パワーポイント (1) 自己紹介作成
7. パワーポイント (2) 研究発表スライド
8. パワーポイント (3) 地図の作成
9. パワーポイント (4) 運動会プログラム
10. パワーポイント (5) 園生活ポスター
11. パワーポイント (6) 思い出のスライドショー
12. パワーポイント (7) 手遊び動画
13. 保育指導案 (1) 表様式作成
14. 保育指導案 (2) 内容完成
15. 総合演習問題

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	受講態度 (40%)、課題等 (60%)。課題への取り組み、授業態度を重視する。

教科書等

● 教科書等

『これからの保育のための ICT リテラシー&メディア入門』株式会社みらい 2022年4月発刊
ISBN: 978-4-86015-578-0 価格: ¥3,300 (税込)
自分専用のノート PC を各自購入し、2 回目の授業に各自持参すること。大学生協モデルも販売するので、どの機種を買っていいか迷う場合は生協モデルを購入してください。
ノート PC 推奨スペック→グーグルクロームが動作するもの。画面 10 インチ以上。キーボード付き。

● 参考書

講義時に適宜紹介

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
◎ 学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

火曜～金曜の昼休み・森研究室 (704)

実務経験

データサイエンス入門

森 大樹

LI1L

単位	講・1	回数	8
年次 学期	1年・夏		
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	3.探究・主体性	4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

[目的] 本授業は全学生に向けて卒業必修科目として開講され、データサイエンスを中心とした科目です。

現在、社会の急速な ICT 化にともない、様々な場面で ICT を活用して社会の問題解決、データ分析活用ができる能力が求められています。本学においても現代社会で求められるデータの分析と活用能力、AI の理解とプログラミング、情報モラル、教育・保育現場での ICT 活用等について学びます。

[概要] 本授業で身に付けられる能力は次の通りです。

- ・ Society5.0 の概念を学ぶ (クラウド、ビッグデータ、IoT、AI)
- ・ 人工知能 (AI) とプログラミングの基本的思考方法
- ・ 情報モラルや情報セキュリティについての基礎事項
- ・ 保育現場での ICT 園務支援システムの基礎事項
- ・ 様々な場面でのデータ集計、分析と解釈、統計処理。

● 到達目標

- ・ 現在のグローバル社会において求められる、Society5.0、情報モラル、情報セキュリティ、AI 等の情報学・データサイエンスの基礎概念を理解し、説明できること。
- ・ データサイエンスの身近な活用事例を理解し説明できるようになること。
- ・ 統計処理とグラフの作成ができるようになること。

履修のルール

「コンピュータ・リテラシ A」「コンピュータ・リテラシ B」を履修していること。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

授業後には、授業時にできなかった課題を必ず最後まで完成させておくこと。また、授業時間内に完了した課題についても、もう一度復習し、学習内容を整理すること。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題に対して次回授業時に解説を行う。

授業計画

1. Society5.0 の概念 (森)
2. 情報倫理、情報セキュリティ
3. AI とプログラミング
4. 保育現場での ICT 活用
5. データの分析と統計 (1) データ集計
6. 統計データから考える河内長野市の現状と課題 (河内長野市)
7. データの分析と統計 (2) グラフ
8. データの分析と統計 (3) 考察
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・ 受講態度 (40%)、課題等 (60%)。課題への取り組み、授業態度を重視する。 ・ 各授業時の演習課題を必ず提出すること。

教科書等

● 教科書等

- ・ 講義時に資料を Google Classroom で配布する。
- ・ ノート PC を各自毎回持参すること。

● 参考書

- ・ 講義時に指示する。

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL (課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
◎ 学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	◎ 双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

火曜～金曜の昼休み・森研究室 (704)

実務経験

キャリアデザイン I

阪田 啓代

LC1L

単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・夏秋冬*		
学修準備時間			60

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
◎ 1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	3.探究・主体性	4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

本講義では、職業に関する基本的な情報・知識を学び、職業選択に必要なスキルを身に付けることを目的とする。また、幼児教育をはじめ様々な分野で活躍する社会人・職業人の話や聞き取り、その内容についてのグループワーク等を通して、働くことの意味について考える。コロナ禍で仕事を取り巻く環境が大きく変わりつつあるなかで、自分の将来を描ける職業観を探究しよう。

● 到達目標

- ・現代社会に関心を持ち、職業や労働についての情報や知識を理解する。
- ・職業イメージを持ち、卒業後の進路について具体的に考えられる。
- ・社会人としての基礎的な素養を身に付ける。

履修のルール

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

予習、復習については授業内で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題(小テストやレポート等)については、授業のなかで解説、講評を行う。

授業計画

1. オリエンテーション/キャリアとは何か
2. 卒業後のキャリアをイメージするー幼稚園等ー
3. 卒業後のキャリアをイメージするー福祉施設ー
4. 卒業後のキャリアをイメージするー企業ー
5. ソーシャルスキルを身に付ける(挨拶・言葉遣い等)
6. 「働くこと」について考える
7. 働くことの基礎知識ー契約と労働条件ー
8. 働くことの基礎知識ー法人・求人先理解ー
9. 働くことの基礎知識ー様々な雇用形態ー
10. 非正規雇用の現状と課題
11. 採用試験の概略と模擬体験
12. 進路選択とキャリア理論
13. 自己分析・自己紹介書の作成①自己の棚卸し・自分の強みと弱み
14. 自己分析・自己紹介書の作成②キャリア・アンカー
15. まとめー進路・就職活動計画を考えるー

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	50	筆記試験を行う。
レポート	0	
その他	50	授業への取り組み状況、授業内課題及び職業人への聞き取り課題などで総合的に評価する。

教科書等

● 教科書等

- ・プリント教材を配布
- ・進路就職ハンドブック

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	◎グループワーク
学生によるプレゼンテーション	◎実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

月～金 実習・キャリアサポート室で随時

実務経験

2級キャリアコンサルタント技能士、国家資格キャリアコンサルタントとして、本学の進路指導を担当する部署で学生のキャリア支援を行っている。

幼児と健康

本山 司

MF1E

単位	演・1	回数	8
年次 学期	1年・春／夏		[幼必] [保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	3.探究・主体性	4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

領域「健康」の指導について、幼児の健やかな心と体を育てるための基本的な生活習慣や安全な生活、運動発達などの側面から理解する。

● 到達目標

乳幼児期の運動発達の特徴を通して、身体の諸機能の発達と生活習慣について理解する。また、その健康課題を理解することにより、乳幼児の健やかな発達はどうかを考へる力を身につける。

履修のルール

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

授業内で指示する章について、事前に予習をしておくこと。また、既習事項について復習をし、理解を深めておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

課題等のフィードバックは、次時の授業冒頭で解説、説明する。筆記試験等は成績発表後に希望があれば開示、解説を適宜実施する。

授業計画

1. 領域「健康」からみる乳幼児期の生活環境
2. 健康とは—その定義と乳幼児の健康の意義—
3. 現代における乳幼児の身体的・生理的発達
4. 発達の特徴からみる乳幼児期の基本的な生活習慣
5. 乳幼児期の運動発達の特徴
6. 乳幼児期に起こりやすい怪我と病気
7. 年齢別、発達の特徴による乳幼児期の生活リズムの形成
8. 保育現場での乳幼児期の遊びと安全への意識
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	50	筆記試験 (50%)
レポート	0	
その他	50	・学習のまとめの発表内容及び成果 (50%)

教科書等

● 教科書等

・秋田喜代美、三宅茂夫監『シリーズ知のゆりかご 子どもの姿からはじめる領域・健康』みらい ¥2,530 (税込)

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

<input checked="" type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input checked="" type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	<input type="checkbox"/> その他:

オフィスアワー

木曜日以外の昼休み(12:50～13:15)に研究室にて随時受け付ける。

実務経験

小学校教諭として17年間勤務し、保健体育や健康教育の指導経験がある。この経験をもとに教育、保育現場における健康の基本的な内容を指導する。

幼児と人間関係

茂野 仁美

MF1E

単位	演・1	回数	8
年次 学期	1年・秋		[幼必] [保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

1.情熱・使命感・責任感 ◎ 2.知識・技術 3.探究・主体性 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

現代社会における人間関係の育ちについて理解し、幼児教育における他者との関係の中で育つ、人と関わる力について理解する。

● 到達目標

領域「人間関係」の基盤となる乳幼児期の人間関係の発達について、保育環境を中心として理解する。また、現代社会における乳幼児を取り巻く人間関係についての課題を理解する。

履修のルール

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

シラバスの内容に沿って、教科書を授業前に目を通しておくこと。
授業で配布された、各単元のまとめのプリントに沿って、授業内容をまとめるなどの復習をすること。

課題に対するフィードバックの方法

随時メールや Classroom を活用して行う。

授業計画

1. 乳幼児期の育ちと領域「人間関係」
2. 0, 1 歳児の人との関わりと保育
3. 2, 3 歳児の人との関わりと保育
4. 4, 5 歳児の人との関わりと保育
5. 特別な支援を必要とする子どもの人間関係を支える
6. 子どもの育ちを支える保護者と保育者の人間関係
7. 子どもの育ちに関わる地域の人々との人間関係
8. まとめ：人間関係を築くことの基本
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	50	筆記試験 (50%)
レポート	0	
その他	50	授業内での課題やグループワーク (態度や積極性も含む) (50%)

教科書等

● 教科書等

田代和美・榎本真実『演習 保育内容 人間関係—基礎的事項の理解と指導法—』¥1,760 (税込)
平成 29 年告示『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 ¥550 (税込)

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	◎ ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	◎ 双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

メールや Classroom を活用して随時

実務経験

幼稚園、保育所において、0 歳から 5 歳児の各クラスでの勤務経験と、保育カウンセラーとして保育現場での子ども理解に関する助言の業務をもとに、指導する。

幼児と環境

坂本 渉

MF1E

単位	演・1	回数	8
年次 学期	1年・夏		[幼必] [保必]
学修準備時間			30

授業内容

● 目的と概要

幼児期の保育は環境を通して行うものである。領域「環境」について、保育における子どもをとりまく環境とのかかわりについて実践的に学ぶ。保育における環境の意味や重要性について考えとともに、体験を通して環境への理解を深めることを目的とする。

● 到達目標

- 1) 子どもと環境とのかかわりについて理解する。
- 2) 幼稚園教育要領に示された幼児教育の基本や保育所保育指針に示された保育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらいおよび内容を理解する。
- 3) 人的・物的環境、空間的環境の構成を具体的に考えることができる。

履修のルール

ペアワークやグループワーク等に積極的に参加すること。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

予習：次回までに予習すべき内容と準備物について授業内で指示する。

復習：教科書や配布プリント等の内容の整理、演習授業では実践の振り返りを行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説する。また、実践の振り返りについては個別に添削を行う。

授業計画

1. 領域「環境」の意義・ねらい・内容
2. 子どもをとりまく人的環境—友だち・保育者—
3. 子どもをとりまく物的環境①保育室・園庭・遊具
4. 子どもをとりまく物的環境②身近な素材の特性に気づく
5. 子どもをとりまく物的環境③人工物と自然物
6. 子どもをとりまく自然環境—自然を感じとる力—
7. 子どもをとりまく社会的環境—地域社会とのかかわり—
8. 保育における環境の捉え方—環境構成の方法—
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	70	筆記試験を行う。
レポート	0	
その他	30	授業内課題〔作品含む〕、課題発表、授業への参加状況

教科書等

● 教科書等

田宮 緑『体験する 調べる 考える 領域「環境」』第2版萌文書林 ¥2,200 (税込)
どろだんごキット ¥370 (税込)

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	◎グループワーク
学生によるプレゼンテーション	◎実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

火・水・木・金の昼休み

実務経験

幼稚園教諭、主任教諭、また、保育所保育士として勤務。
この経験をもとに保育の基本を指導する。

幼児と言葉

坂本 渉

MF1E

単位	演・1	回数	8
年次 学期	1年・春		[幼必] [保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	◎	2.知識・技術	3.探究・主体性
			4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

三法令(幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領)に示された領域「言葉」のねらいおよび内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。また、言葉の育つ道筋と保育者のかかわりや役割について知る。

● 到達目標

- 1) 保育の基本等を踏まえ領域「言葉」のねらいおよび内容を理解する。
- 2) 乳幼児が言葉を獲得していく発達過程を理解する。
- 3) 言葉によって育まれる力を理解し、それらを育むための保育者の指導や支援のあり方について検討することができる。

履修のルール

予習・復習の方法「自主学習ガイド」

予習：授業計画に記載されている内容に添って事前に教科書を読んでおくこと。

復習：教科書や配布資料を再読し、授業内容を整理しておくこと。演習授業では振り返りを行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説する。また、実践の振り返りについては個別に添削を行う。

授業計画

1. 言葉のもつ機能について
2. 領域「言葉」の意義・ねらい・内容
3. 言葉の育つ道筋と保育者のかかわり①言葉の前の言葉(0歳児)
4. 言葉の育つ道筋と保育者のかかわり②言葉を話せるようになってから(1・2歳児)
5. 言葉の育つ道筋と保育者のかかわり③3・4歳児の言葉
6. 言葉の育つ道筋と保育者のかかわり④5歳児・1年生の言葉
7. 言葉と児童文化財
8. 模擬保育：児童文化財を活用した保育
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	70	筆記試験を行う。
レポート	0	
その他	30	授業への参加状況(ペアワーク、グループワーク)、ミニレポート、受講態度による評価

教科書等

● 教科書等

近藤幹夫ほか『実践につなぐことばと保育』ひとなる書房 ¥2,200(税込)

● 参考書

授業中に適宜紹介する。

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

火・水・木・金の昼休み

実務経験

幼稚園教諭、主任教諭、また、保育所保育士として勤務。この経験をもとに保育の基本を指導する。

幼児と表現

大浦 知加

MF1E

単位	演・1	回数	8
年次 学期	1年・冬		[幼必] [保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

- 1.情熱・使命感・責任感 ○ 2.知識・技術 3.探究・主体性 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

- ・三法令(幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領)の領域「表現」のねらい及び内容の取扱いについて理解する。
- ・幼児の表現の特徴を理解し、その発達をサポートする環境構成や技術を実践的に学ぶ。
- ・さまざまな保育教材を通じた表現あそびを体験し、その表現方法を理解する。

● 到達目標

- ・領域「表現」の指導に関する、幼児が表現活動を行うための支援の在り方を理解し、知識・技術・表現力を身につける。
- ・幼児の表現の過程と特徴を理解して、領域「表現」を捉え、その指導を展開できる。
- ・保育教材を通じた、幼児が表現活動を行うための支援の方法を理解し、知識・技術・表現力を身につける。

履修のルール

- ・動きを伴うため、動きやすい服装と靴。
- ・配布する楽譜類はスケッチブックに貼り保存。
- ・スケッチブック・フェイスタオル持参。
- ・創作時は「ホチキス、カッター、のり、マジック、色鉛筆」等を持ってくる。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

- ・三法令の領域「表現」の内容を読んでおく。
- ・授業内容を振り返り、理解を深める。
- ・学習した内容の中で興味・関心を持った点を自主的に深める。

課題に対するフィードバックの方法

その場で、課題に応じた指導を返したり、補足説明をする。また、随時メールや Classroom を活用して行う。

授業計画

1. 幼児の表現における発達理解(身近なモノと関わり捉えた知覚を、オノマトペや色や形で表現する)
2. 幼児の表現する過程を体験し、感覚特性を理解する(リトミック、身ぶり表現)
3. コミュニケーション的要素を取り入れた表現(言葉、音による表現)
4. 総合的表現発表の骨組みを考える
(こどもたちに伝えるための表現方法について、グループ内でディスカッションを行い最良の方法を目指す)(グループワーク)
5. コミュニケーションとしての表現(発表を支える児童文化財の特性を知り、創作する)(グループワーク)
6. コミュニケーションとしての表現(発表を支える音や身ぶり表現を模索する)(グループワーク)
7. コミュニケーションとしての表現(総合的に創作していく)(グループワーク)
8. コミュニケーションとしての表現する方法をかたちにする(グループワーク)
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	50	実技試験(グループによるオペレッタ発表)
レポート	0	
その他	50	・オペレッタ創作への取り組み状況 ・授業内ミニレポート、振り返りレポート ・オペレッタ発表への取り組み状況(意欲・片付け含む) 上記を総合的に評価する。

教科書等

● 教科書等

- 編著:伊藤伸明『3つのコードで楽しく弾ける』ドレミ楽譜出版 ¥1,980(税込)
編著:木村鈴代『新たなの子どものうたあそび—現場で活かせる保育実戦—第2版』同文書院 ¥2,420(税込)
スケッチブック ¥300(税込)
※すべて、他の音楽・表現授業と共有、2年間継続して使用します。

● 参考書

- ・平成29年度 幼稚園教育要領(最新版)、保育所保育指針(最新版)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)
- ・保育のうた155(ひかりのくに)
- ・幼児の四季とみんなの歌(全音楽譜出版社)

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	◎ 反転授業	◎ ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
◎ 学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	◎ 双方向アンケート	◎ その他:チームで話し合い必要なものを学生が用意・集計する

オフィスアワー

お昼休み等(研究室)

実務経験

こども園・保育園へのリトミック、生活発表会指導者として勤務。音楽教室・幼児教室では合奏やオペレッタの舞台発表指導。長年、和楽器・管弦打楽器こどもオーケストラ、舞台発表等のイベントを主催、指導。自身も舞台表現家である。

表現技術(ピアノ I)

大浦 知加 ほか

MF1E

単位	演・1	回数	15
年次 学期	1年・春夏		[幼必] [保必]
学修準備時間			15

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	3.探究・主体性	4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

- ・ 幼児の表現方法を豊かにするための、様々な音楽表現あそびや歌唱、それに必要な音楽理論などを総合的に学ぶ。
- ・ ピアノ弾き歌いの基本的な演奏法を学び、その技術を向上させることにより、保育で活用できる力を身につける。

● 到達目標

- 幼稚園教育要領の領域「表現」のねらい及び内容の取り扱いについて理解し、
- ・ 保育に必要なピアノの演奏力を身につける。
 - ・ 保育現場で使われる幼児曲等を知り、歌える。
 - ・ 保育現場で行われる乳幼児の手あそびや音楽あそびを数曲、できる。

履修のルール

- ・ イヤホンは必ず持参すること。
- ・ 表現技術(ピアノ I)の単位修得済みであること。
- ・ ピアノ演奏を行うため、必ず爪は短くし、マニキュア等不要なものは取っておくこと。
- ・ スケッチブックに楽譜を貼るノリを持参すること。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

- ・ 授業時に学んだ予習方法を元に、毎日、ピアノに触れて練習する。
- ・ 季節の歌唱やピアノ以外の表現方法にも日常の中で意識し、保育者としての表現力を磨く。

課題に対するフィードバックの方法

授業内にフィードバックする。また、随時メールや Classroom を活用して行う。

授業計画

1. 領域「表現」のねらいからみるピアノと表現の重要性/ピアノ弾き歌い奏法
2. 保育現場での弾き歌い基本法、コード奏法(C:)
3. 保育現場での楽典・音符/ピアノ弾き歌い奏法
4. 保育現場での手あそびと音楽あそび—ことば・音・からだによる表現—
5. こどもの歌の歌唱(春)/ピアノ弾き歌い奏法
6. 春の歌を活用した保育現場での音楽あそび—こどもの発達と歌いかけ①—
7. 春の歌を活用した保育現場での手あそび—さまざまな感性を育む手あそびの意義①—
8. 新しい弾き歌いコード奏法(G:)
9. こどもの歌の歌唱(梅雨)/ピアノ弾き歌い奏法
10. 梅雨の歌を活用した保育現場での音楽あそび—こどもの発達と歌いかけ②—
11. 梅雨の歌を活用した保育現場での手あそび—さまざまな感性を育む手あそびの意義②—
12. 新しい弾き歌いコード奏法(F:)
13. こどもの歌の歌唱(夏)/ピアノ弾き歌い奏法
14. 夏の歌を活用した保育現場での音楽あそび—こどもの発達と歌いかけ③—
15. 夏の歌を活用した保育現場での手あそび—さまざまな感性を育む手あそびの意義③—

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	50	実技試験(日常授業の取り組み状況も含んだ演奏試験)(基本5曲を終了しておくこと)
レポート	0	
その他	50	授業内実技ミニテスト(歌唱、手あそび)の評価及び、課題(楽典、レポート)の取り組み状況等

教科書等

● 教科書等

編著:伊藤伸明『3つのコードで楽しく弾ける』ドレミ楽譜出版 ¥1,980(税込)
 編著:木村鈴代『新たなの子どものうたあそび—現場で活かせる保育実戦—第2版』
 同文書院 ¥2,420(税込)
 スケッチブック ¥300(税込)
 ※すべて、他の音楽・表現授業と共有、2年間継続して使用します。

● 参考書

- ・ 平成29年度 幼稚園教育要領(最新版)、保育所保育指針(最新版)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)
- ・ 保育のうた155(ひかりのくに)
- ・ 幼児の四季とみんなの歌(全音楽譜出版社)

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	◎反転授業	ディスカッション、ディベート	◎グループワーク
学生によるプレゼンテーション	◎実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

お昼休み等(研究室)

実務経験

保育園・こども園・小学校・中学校・高校、専門学校音楽講師勤務の経験と、現場保育者や教員への音楽授業指導経験を生かした指導法を展開する。また長年、ヤマハ音楽教室等で3歳~大人までのピアノ演奏指導や、和楽器や管弦打楽器、様々な楽器による合奏やリトミック、音楽遊び等を行ってきた。自身も和太鼓やピアノによる舞台表現家である。

表現技術(ピアノⅡ)

寄 ゆかり ほか

MF2E

単位	演・1	回数	15
年次 学期	1年・秋冬		[幼必] [保選]
学修準備時間			15

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

1.情熱・使命感・責任感 ◎ 2.知識・技術 3.探究・主体性 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

幼児の様々な表現方法を豊かにするための表現遊びや歌唱、弾き歌いのための伴奏方法、またそれに必要な音楽理論などを総合的に学ぶ。

また、ピアノの基本的な演奏法を学び、その技術を向上させることにより、保育で活用できる演奏(主に幼児教育現場での「弾き歌い」ができる)力を身につける。

● 到達目標

幼稚園教育要領の領域「表現」のねらい及び内容の取扱いについて理解し、

- ・保育に必要なピアノの演奏力を身につける。
- ・保育現場で使われる幼児曲等を知り、歌える。
- ・保育現場で行われる乳幼児の手遊びができる。

履修のルール

- ・イヤホンは必ず持参すること。
- ・表現技術(ピアノⅠ)の単位修得済みであること。
- ・ピアノ演奏を行うため、必ず爪は短くし、マニキュア等不要なものは取っておくこと。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

ピアノは日々の練習の積み重ねが大変、重要です。授業時に学んだ予習方法を元に、必ず毎日、ピアノに触れて練習するようにしてください。

課題に対するフィードバックの方法

実技ミニチェックでは、その場で各自に応じた指導を返している。また、楽典、レポートなどはClassroom等で各自の課題をコメントし、指導に活かしている。

授業計画

1. 領域「表現」のねらいからみるピアノの弾き歌い、コード練習
2. 保育現場での音楽遊び/保育に用いるコード練習
3. 保育現場での手遊び、身体遊び/保育に用いるコード練習
4. 季節の曲の歌唱(秋)とコード奏、弾き歌い
5. コードを使って歌の楽しさを味わう/簡単な伴奏で流れを止めない練習
6. 秋の歌唱曲を子どもたちと歌う/伴奏の違いによる曲のイメージ
7. 保育で使用するコード復習
8. コードを用いた弾き歌いと様々な伴奏形
9. 季節の曲の歌唱(冬)とコード奏/伴奏の違いによる曲のイメージ
10. 冬の歌唱曲を子どもたちと歌う
11. 実習で弾き歌いするために必要な力
12. 秋冬の歌唱曲を弾き歌いする。テンポ、曲想をつかみながら。
13. カデンツを用いたコード奏と伴奏形の復習
14. 四季を通じた弾き歌いのレパートリーを増やす
15. 子どもと歌を楽しむために演奏の必要な力

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	50	実技試験(日常の授業での取り組み状況も含んだ演奏試験)
レポート	0	
その他	50	授業内実技ミニテスト(歌唱、手遊び)の評価及び、課題(楽典、レポート)の取り組み状況等

教科書等

● 教科書等

編著:伊藤伸明『3つのコードで楽しく弾ける』ドレミ楽譜出版¥1,980(税込)
編著:木村鈴代『たのしい子どものうたあそび』同文書院¥2,200+税
※すべて表現技術(ピアノⅡ)の教科書を継続して使用します。

● 参考書

平成29年度 幼稚園教育要領(最新版)、保育所保育指針(最新版)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	◎反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	◎実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

お昼休み等(研究室)

実務経験

音楽教室においては、3歳児からピアノ、エレクトーンまでの鍵盤指導及び管楽器、打楽器指導を中心としたアンサンブル教育も行う。また現役保育者に対する保育内容に関する実技講習などの研修を多く行っている。

表現技術(造形 I)

東 景子

MF1E

単位	演・1	回数	15
年次 学期	1年・春夏		[幼必] [保必]
学修準備時間			15

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	◎	2.知識・技術	3.探究・主体性
			4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

この授業では、高校で美術を受講していた有無に関わらず、皆さんが保育者になるまでに身につけてほしい造形的な発想や構想力、技能や表現力を想定して実施する。具体的には、素材を活かす作品作りや、直接描く絵画とは違う、版画表現を取り入れた間接的な表現の習得、季節や行事に合った作品作りを取り入れて楽しむ。

● 到達目標

1. 課題作品の演習を通して、素材や技法に対する理解を深め、表現や工夫する力を習得する事を目的とする。
2. 保育者になる学生自身が造形表現を楽しみ、保育現場でも活用出来る様に意識して取り組む事が出来る。

履修のルール

特に絵の具画材を使用する回では、多少汚れても構わない服装かエプロン等を持参の上受講する事。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

必要な道具と素材は告知するので、必ず事前に準備し持参する事。
各課題について確実に仕上げ、鑑賞会の際には、作品制作意図も説明できる様にする事。

課題に対するフィードバックの方法

作品鑑賞会の際にコメントをする、もしくは、課題とプリント返却時にメッセージを添える等の方法で行う。

授業計画

1. オリエンテーション、造形表現の意義 持ち物・準備物の確認
2. 大きなシートで遊ぼう！—身体で風を感じて—
3. 子どものなりたい職業の制服作り～素材を活かす～①職業選び
4. 子どものなりたい職業の制服作り～素材を活かす～②制作
5. 子どものなりたい職業の制服作り～素材を活かす～③完成撮影会
6. 触覚を楽しむ！①紙粘土遊び
7. 表現技法の紹介①スクラッチ ②はじき絵
8. 表現技法の紹介③ドリッピング
9. 表現技法を取り入れた作品制作～完成
10. 触覚を楽しむ！②—粘土でロール版画遊び—
11. 版遊びの紹介①—スタンピングと手型遊び①—絵本の紹介
12. 版遊びの紹介②—スタンピングと手型遊び②—
13. 版遊びの紹介③—ステンシルとローラー
14. 版遊びを取り入れた作品の完成
15. 作品鑑賞会

第1回目の授業には『教科書』『購入画材一式』『油性ネームペン』を持参する事。

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	準備物、制作課題提出、作品制作意図のまとめプリントで評価する。

教科書等

● 教科書等

槇英子『保育をひらく造形表現』萌文書林 ¥2,300 + 税
必要に応じてプリント資料を配布する。
購入の画材一式

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
◎ 学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

月・火・水・金の昼休み、図工室か研究室

実務経験

小中学校の図画工作・美術と併設の特別支援学級の美術(非常勤講師・常勤講師) 社会人向け生涯学習(カルチャーセンター) 木版画教室講師

表現技術(造形Ⅱ)

東 景子

MF2E

単位	演・1	回数	15
年次 学期	1年・秋冬		[幼必] [保選]
学修準備時間			15

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

1.情熱・使命感・責任感 2.知識・技術 3.探究・主体性 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

前期の表現技術(造形Ⅰ)に続き、皆さんが保育者になるまでに身につけてほしい造形的な発想や構想力、技能や表現力を想定して実施する。具体的には、素材を活かす作品作りや、季節や行事に合った作品作りを取り入れて楽しむ。

● 到達目標

1. 課題作品の演習を通して、素材や技法に対する理解を深め、表現や工夫する力を習得する事を目的とする。
2. 保育者になる学生自身が造形表現を楽しみ、保育現場でも活用出来る様に意識して取り組む事が出来る。

履修のルール

特に絵の具画材を使用する回では、多少汚れても構わない服装かエプロン等を持参の上受講する事。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

必要な道具と素材は告知するので、必ず事前に準備し持参する事。各課題について確実に仕上げ、鑑賞会の際には、作品制作意図も説明出来る様にする事。

課題に対するフィードバックの方法

作品鑑賞会の際にコメントをする、もしくは、課題とプリント返却時にメッセージを添える等の方法で行う。

授業計画

1. 地元のお祭りの制作①
2. 地元のお祭りの個人制作～共同制作②
3. 地元のお祭りの共同制作③完成一壁面展示
4. 表現技法の紹介④フロッタージュ
5. 表現技法の紹介⑤スパッタリング
6. 表現技法の紹介④⑤でコラージュ作品の完成
7. 落ち葉アート
8. 季節の造形①制作 1
9. 季節の造形①制作 2
10. 季節の造形②制作 1
11. 季節の造形②制作 2
12. 身近な素材の玩具作り①ペットボトルで
13. 身近な素材の玩具作り②ビニール袋で
14. 簡単なお面制作
15. 作品鑑賞会

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	準備物、制作課題提出、作品制作意図のまとめプリントで評価する。

教科書等

● 教科書等

槇英子『保育をひらく造形表現』萌文書林 ¥2,300 + 税
編著 花篤實・岡田愨吾『新造形表現 実技編』三晃書房 ¥2,000 + 税
必要に応じてプリント資料を配布する。
購入の画材一式

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
◎ 学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

月火水金の昼休み、図工室か研究室

実務経験

小中学校の図画工作・美術と併設の特別支援学級の美術(非常勤講師・常勤講師)、社会人向けの生涯学習(木版画教室)講師

保育内容総論

石上 浩美

MT1E

単位	演・1	回数	8
年次 学期	1年・春		[幼必] [保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○ 1.情熱・使命感・責任感	○ 2.知識・技術	○ 3.探究・主体性	○ 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が改定された。それに応じて、多様な背景のある子どもや家庭を支援し、就学前教育カリキュラムを作成できる専門知識と技能が求められるようになった。このような現状をふまえながら、保育内容5領域について俯瞰的に理解することがこの科目の大きな目的である。そして、公教育を担う保育者として適切な教育実践を行うことができるようになることをめざす。具体的には、アクティブ・ラーニング(AL)形式で様々な保育実践事例を紹介しながら、保育実践力の修得を目指す。さらに、現代の保育課題を明らかにし、それらへの具体的な対処方法・方略を探究する。

● 到達目標

1. 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の内容について論述ができる。
2. 年齢発達段階に応じた保育内容5領域に関する基礎知識をふまえた論述ができる。
3. アクティブ・ラーニング(AL)形式での議論に参加し保育実践力の基礎を修得できる。
4. 現代の保育課題に興味・関心を持ち、それらへの具体的な対処方法・方略を探究できる。

履修のルール

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

予習：シラバスを参考に教科書指定ページの精読(60分)

復習：授業内容などを参考にノート整理・事後学修課題を行う。(60分)

※授業資料・課題提出はGoogle Classroomを活用する。

課題に対するフィードバックの方法

- ・ 授業時全体アナウンス
- ・ Google Classroom コメント

授業計画

	授業の目的・目標、内容、授業計画と評価観点・方法の説明
1. オリエンテーション	
2. 教育・保育の基本と保育内容の理解/子どもの発達と理解	テキスト第1章 第2章
3. 5領域と保育内容/保育内容の基礎理解	テキスト第3章 第4章 第5章
4. 各年齢の保育内容① 0歳児から2歳児	テキスト第7章 第8章
5. 各年齢の保育内容② 3歳児から5歳、小学校との連携	テキスト第9章 第10章
6. 様々なニーズを支援する保育内容	テキスト第11章 第12章
7. 保育内容の発展的理解	テキスト第13章 第14章
8. 諸外国の保育内容達/保育内容総論まとめ	テキスト第15章
9.	
10.	
11.	
12.	
13.	
14.	
15.	

予習(事前学修)を重視する。毎回指定されたテキストページを精読の上授業に参加すること。

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	60	筆記試験:60% 知識・理解の習熟度合いについて
レポート	0	
その他	40	毎回のミニレポート(Google Form)内容:40% 思考・判断・表現の独創性について

教科書等

● 教科書等

小川圭子・日坂歩都恵・小林みどり編著(2021)『保育実践につながる保育内容総論』みらい (ISBN:9784860155605) ¥2,420

● 参考書

・文部科学省編 幼稚園教育要領解説(平成30年3月)フレーベル館 (ISBN9784577814475) ¥264

・厚生労働省編 保育所保育指針解説(平成30年3月)フレーベル館 (ISBN9784577814482) ¥352

アクティブラーニングへの取り組み

<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input checked="" type="checkbox"/> 反転授業	<input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input checked="" type="checkbox"/> グループワーク
<input checked="" type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向アンケート	<input type="checkbox"/> その他:

オフィスアワー

後日公表 メールおよびGoogle Classroomも常時活用

実務経験

教育学

松浦 善満

MB1L

単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・春夏		[幼必] [保必]
学修準備時間			60

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

○ 1.情熱・使命感・責任感	○ 2.知識・技術	3.探究・主体性	4.人権・共感
----------------	-----------	----------	---------

授業内容

● 目的と概要

教育実践を研究し構想する上で求められる、重要な柱である教育の歴史と原理について理論的な到達点を学び、それらに対する自己の見解を論じ、オリジナルの実践構想が行えるようになることを目的とする。

● 到達目標

教育実践を行う上で必要不可欠な知識・基本的理念を理解し、自己の見解を表明することが出来る。その延長で教育課程の自主編成試論をまとめることができる。

履修のルール

教職を志す受講生である点を鑑み、受講者間で問題意識や考え方を積極的に意見表明・交流することが望ましい。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

各テーマと関連する資料類を授業後に再読し、最終レポートの作成に備えること。また事前に配布する資料に関しては、目を通し予習を行うこと(それぞれ30分程度)。

課題に対するフィードバックの方法

次の課題を提起するまでに添削し、授業に活かすかたちで返却し、授業内容の理解度をはかりながらフィードバックを試みる。

授業計画

1. 教育とは何か
2. 教育学の歴史1(近代以前の教育)
3. 教育学の歴史2(教授学の成立以降)
4. 教育学の歴史3(国民国家の教育から子ども中心主義へ)
5. 教育学の歴史4(総括)
6. 日本の授業研究の歴史
7. 混迷する時代の教育改革1(新自由主義の改革)
8. 混迷する時代の教育改革2(新国家主義の改革)
9. 混迷する時代の教育改革3(教育改革国民会議の提案)
10. 新時代の教育構想1(現代子ども論の検討)
11. 新時代の教育構想2(現代教師論の検討)
12. 新時代の教育構想3(現代学校論の検討)
13. 教育課程の自主編成の歴史
14. 教育課程の自主編成の構想
15. 教育課程の自主編成試論の作成

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	平常点30点。授業中に課す提出物40点。最終課題30点。合計100点 平常点は授業への積極的参加態度を中心に評価する。授業中に課す提出物は5種類を予定。それぞれ8点満点。最終課題は、オリジナリティ、授業との関連性、リアリティの3つの観点で、30点満点で評価する予定。

教科書等

● 教科書等

特になし。毎回、レジュメおよび資料を配布する。

● 参考書

授業中に適時、紹介する。

アクティブラーニングへの取り組み

○ PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

水曜日の授業前後。7階研究室。

実務経験

教職・保育者論

板倉 史郎

MB1L

単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・春×2		[幼必] [保必]
学修準備時間			60

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

○ 1.情熱・使命感・責任感	◎ 2.知識・技術	3.探究・主体性	4.人権・共感
----------------	-----------	----------	---------

授業内容

● 目的と概要

学校教育・保育の目的と教員・保育士養成の変遷について概説し、現代社会における教職・保育職について、その意義、役割、資質、職務について学習する。

● 到達目標

教員、保育者の職務について理解する。

履修のルール

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

- ・配布する資料等を整理し、活用する。
- ・授業時に予習、復習について説明する。

課題に対するフィードバックの方法

講義で課すミニレポートに関しては、次回の講義で講評を行い、返却する。

授業計画

1. オリエンテーション、授業概要、諸注意
2. 教育とは何かー「教育」と「教師」
3. 教職とは何か①ー教師にはどのような資質、能力が求められるか
4. 教職とは何か②ー教師・教職の歴史、養成・採用・研修
5. 法令から見た教員ー教員の種類、身分、服務
6. 幼保連携(一元化)ー保育士と幼稚園教員、保育教諭
7. 教員・保育者の専門性①ー子ども理解
8. 教員・保育者の専門性②ー緊急時の対応
9. 教員・保育者の専門性③ー保・幼・小の連携と協働
10. 幼稚園教諭と保育士の職務の相違点、共通点
11. 教員以外の専門職スタッフとの連携・協働ーチーム学校
12. 地域社会、保護者との連携・協働
13. 学校・教員をとりまく現状と課題①ー教員評価、法定研修、体罰
14. 学校・教員をとりまく現状と課題②ーいじめ問題、カウンセリングマインド
15. 教職・保育職の意義及び教員・保育士の職務のまとめ

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	授業への参加状況(40%)、各講義で課すミニレポート(40%)、最終レポート(20%)により総合的に評価する。

教科書等

● 教科書等

- ・寄ゆかり、伊藤一雄編著『新しい保育基礎』サンライズ出版
- ・¥2,200(税込)

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	◎ ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	◎ 双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。

実務経験

- ・小学校現場にお家、長年にわたり教育活動を行ってきた。
- ・小学校現場において、実習生の指導を担当してきた。

教育心理学

茂野 仁美

MB1L

単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・夏×2		[幼必] [保必]
学修準備時間			60

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

- | | | | |
|--------------|---------|----------|---------|
| 1.情熱・使命感・責任感 | 2.知識・技術 | 3.探究・主体性 | 4.人権・共感 |
|--------------|---------|----------|---------|

授業内容

● 目的と概要

主に乳幼児期の発達に応じた学びや遊びなどの体験の在り方について学習する。また、人の発達に見通しを持ち、保育・教育を行っていくためには生涯にわたる人の発達や学習方略への理解も必要である。これらについての概要をとらえ、実践の土台となる理論を身につけることを目指す。

● 到達目標

乳幼児期の人の発達の諸理論について、理解する。
人の生涯にわたる発達を見通し、援助・支援のための理論について理解する。
乳幼児期にひつような学びと遊びの関係について、理解する。

履修のルール

予習・復習の方法「自主学習ガイド」

教科書の授業に関する箇所を、授業前に必ず目を通しておくこと。授業後は、ノートやプリントと、教科書の内容を照らし合わせて理解を深めるように努める。

課題に対するフィードバックの方法

随時メールや Classroom を活用して行う。

授業計画

1. 子どもの発達を理解することの意義
2. 子どもの発達と環境
3. 子ども観・保育観と発達理論からの視点
4. 社会情動的発達
5. 身体機能と運動機能の発達
6. 認知の発達
7. 言語の発達
8. 0,1,2 歳の発達
9. 3,4,5 歳の発達
10. 学童期から青年期までの発達
11. 成人期から老年期までの発達
12. 乳幼児期の学びに関する理論
13. 乳幼児期の学び〈遊び〉の過程
14. 乳幼児期の遊びを支える保育実践
15. まとめ～人の発達と保育の関係～

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	60	筆記試験 60% 教育心理学で学んだ基礎的な理論について問う。
レポート	0	
その他	40	授業中の課題への取り組み 40% 毎回学習したことについて、理解できたことや疑問、自分なりの考察をミニレポートにまとめ、当日中に提出する。(積極性や態度も含む)

教科書等

● 教科書等

大浦賢治『実践につながる新しい保育の心理学』ミネルヴァ書房
¥2,420 (税込)

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	◎ ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	◎ 双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

メールや Classroom を活用して随時

実務経験

幼稚園、保育所において、0歳から5歳児の各クラスでの勤務経験と、保育カウンセラーとして保育現場での子ども理解に関する助言の業務をもとに、指導する。

特別支援教育

宮本 直美

MB1E

単位	演・1	回数	8
年次 学期	1年・秋		[幼必] [保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	3.探究・主体性	4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

現代の特別支援教育に至る今日までの歴史の変遷、基本理念、制度、教育内容や保育内容について理解する。現代社会における特別なニーズを持つ子どもたちの実態について理解した上で、保育者として特別支援教育に関するシステム、指導法の基本的な理解をする。

● 到達目標

特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の特性や心身の発達、及び学習上又は生活上の困難さについて理解する。特別の支援を必要とする幼児、児童、生徒の教育課程や支援の方法、及び組織的な対応の必要性について理解する。

履修のルール

最初の授業時に指示する。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

次回の講義までに、講義内容に対応する教科書の章を読み予習しておくこと。復習しておくべき課題については授業中に指示する。全30時間。

課題に対するフィードバックの方法

後続の授業にて返却し、解説を行う。また、C classroomにて試験内容や回答について提示するので、各自確認し復習しておくこと。

授業計画

1. 特別支援教育の理念と基本的な考え
2. 特別なニーズを持つ子の理解①身体障がい・病弱・医ケア・重身等
3. 特別なニーズを持つ子どもの理解②知的障がい・発達障がい等
4. 特別な配慮を要する子どもの理解と支援
5. 個別の教育支援計画と個別の指導計画
6. 特別支援学校と支援学級、通級による指導における教育と自立活動
7. 幼稚園等・小学校・中学校における特別支援教育と仕組み～園内の支援体制について～
8. 障がい児支援の制度理解と地域における自治体や専門機関との連携
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	40	筆記試験
レポート	0	
その他	60	授業への参加状況、確認テストやミニレポート、授業態度による評価。

教科書等

● 教科書等

尾野明美・小湊真衣・奥田訓子 編『特別支援教育・保育概論』萌文書林 ¥2,000 + 税

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	◎反転授業	ディスカッション、ディベート	◎グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	◎双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

月・木・金の昼休みと放課後

実務経験

小学校現場において、特別支援教育コーディネーター及び通級指導教室担当者として、教育的なニーズのある児童への支援を行った。

教育課程論

坂本 渉

MB1L

単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・秋冬		[幼必] [保必]
学修準備時間			60

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

- 1.情熱・使命感・責任感 ○ 2.知識・技術 3.探究・主体性 ◎ 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

幼稚園・保育所等における「教育課程」「全体的な計画」の編成の基本的な考え方を理解し、その必要性和重要性を認識する。また、「教育課程」「全体的な計画」の編成および指導計画作成上の留意点や基本的知識を身につけるとともにカリキュラム・マネジメントと評価ならびに改善について理解することを目的とする。

● 到達目標

- 1) 「教育課程」「全体的な計画」の意義を理解し、説明できる。
- 2) 「教育課程」「全体的な計画」の編成方法や手順について説明できる。
- 3) カリキュラム・マネジメントの意義について説明できる。
- 4) 保育・教育の計画、実践、省察、評価の過程について理解、実践していく力を身につける。

履修のルール

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

予習: 授業中に指示した内容について、教科書等を熟読しておくこと。

復習: 授業内容を復習し、まとめ整理しておく。その際には、授業で学んだことを自分で説明できることを意識して行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

各回授業の冒頭に、前回授業の要点を再度説明する。また、必要に応じて個別に解説する。

授業計画

1. 保育における計画の意義と必要性
2. 長期指導計画と短期指導計画の考え方
3. 「教育課程」「全体的な計画」編成のための基本的事項と留意点
4. 幼稚園教育要領と「教育課程」「全体的な計画」の編成方法
5. 保育所保育指針と「全体的な計画」の編成方法
6. 幼保連携型認定こども園教育・保育要領と「全体的な計画」の編成方法
7. 保育における食育計画と保健計画
8. 保育における行事の意味と指導計画への位置づけ
9. 小学校との連携
10. 「全体的な計画」から「指導計画」へ
11. 指導計画作成のための基本的事項と留意点
12. 0歳児の発達と生活を踏まえた指導計画作成と展開
13. 1～2歳児の発達と生活を踏まえた指導計画作成と展開
14. 3～5歳児の発達と生活を踏まえた指導計画作成と展開
15. カリキュラム・マネジメントと保育の評価

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	70	筆記試験を行う。
レポート	0	
その他	30	授業への参加状況、ミニレポート、受講態度による評価

教科書等

● 教科書等

田中亨胤・三宅茂夫 編『シリーズ知のゆりかご 教育・保育カリキュラム論』(株)みらい ¥2,420 (税込)

内角府・文部科学省・厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 ¥550 (税込)

● 参考書

授業中に適宜紹介する。

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

火・水・木・金の昼休み

実務経験

幼稚園教諭、主任教諭、また、保育所保育士として勤務。この経験をもとに保育の基本を指導する。

教育実習 I

板倉 史郎、本田 和隆 ほか

MB2T

単位	実・2	回数	
年次 学期	1年・秋		[幼必]
学修準備時間			

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

- 1.情熱・使命感・責任感 ○ 2.知識・技術 ◎ 3.探究・主体性 □ 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

- この実習は、幼稚園教諭2種免許を取得するための実習である。実習を通じて、幼稚園教諭として必要な知識と技術を身につけ、教員としての資質を向上させることを目的としている。この実習は基礎的な実習として位置付き、2回生で実施する教育実習Ⅱに繋がるものである。
- 教育実習Ⅰでは、幼稚園の教育活動に参加し、幼稚園教諭の業務と役割について実践的に学ぶ参加実習を中心に行う。また、そこでの実習指導者指導のもと、幼稚園教諭に必要な資質、技能を習得する。

● 到達目標

- 幼稚園の機能、社会的役割および幼稚園教諭の業務内容を理解する。
- 幼稚園教諭の姿から子どもとのかかわり方の実際を学ぶ
- 保育計画(保育指導案)の立案を学ぶ
- 幼稚園教諭として必要な資質および知識、技術を身につける
- 幼児教育に対する考え方を深める

履修のルール

- 保育実習指導Ⅰ(保育所)への事前指導の出席が4/5に満たない者については、本実習への参加を認めない。
- 春夏期において教育学、教職・保育者論を含む20単位以上の取得を実習参加の原則とする。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

実習に必要な手続きや書類は期限内に必ず実施、提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

実習後に個人面談を行い、実習園の評価を開示したうえで、成果と課題について確認する。

授業計画

1. 実習ハンドブック参照
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・実習評価(75%) ・実習記録の内容(25%)

教科書等

● 教科書等

- 小櫃智子ほか『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,540(税込)
- 本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通) ¥750

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	◎実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。

実務経験

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

教育実習指導

板倉 史郎、本田 和隆

MB1E

単位	演・1	回数	15
年次 学期	1年通・ (2年春夏)		[幼必]
学修準備時間			15

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	◎ 3.探究・主体性	4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

本授業は、教育実習に参加するための事前・事後指導を行うことを目的とする。講義、演習で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連づけ、子ども理解と豊かな実践力の基礎を養うこと、及び幼稚園の子どもを取り巻く環境を理解することを目的としている。幼稚園の現状の理解やそこで求められる保育者としての力量を高めるための講義、演習を行う。

● 到達目標

- ・幼稚園の教育活動を理解する
- ・幼稚園の制度的理解を深める
- ・幼稚園教諭として必要とされる保育の内容を学ぶ
- ・幼稚園教諭として求められる基礎的な知識・技能を学ぶ
- ・子どもの発達の基礎知識に基づき、保育計画(保育指導案)が作成できる
- ・実習記録が書けるようになる

履修のルール

- ・事前指導は4/5以上の出席が必須。欠席した場合は次回までに講義配付資料等を受け取りに行くこと(板倉研究室)
- ・実習手続きがされない、課題未提出の場合、実習を中止することがある
- ・全15回を2年間にわたって履修

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

毎時、提示される課題等は必ず行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

提出課題については評価を行い、必要に応じて修正、加筆することで改善を図らせる。

授業計画

1. オリエンテーション(教育実習とは)
2. 幼稚園の役割と機能、幼稚園教諭の職務の理解
3. 幼稚園の一日の流れ
4. 保育技術の習得
5. 教育実習の目標と課題(カード作成)
6. 実習記録の構成
7. 実習記録の記述方法
8. 教育実習Ⅰ事前指導①～始めての実習に参加すること～
9. 教育実習Ⅰ事前指導②～実習での自己課題の確認～
10. 実習振り返りによる自己課題の明確化①
11. 実習記録の改善点～教育実習Ⅱに向けて～
12. 教育実習の目標と課題(カード作成)
13. 教育実習Ⅱ事前指導①～本実習の理解～
14. 教育実習Ⅱ事前指導②～自己課題の確認～
15. 実習振り返りによる自己課題の明確化②まとめ

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・授業に取り組む姿勢(受講態度)(30%) ・授業における参加状況(15%) ・実習課題提出、到達状況(35%) ・実習後の振り返り、まとめ、報告(20%)

教科書等

● 教科書等

- ・小櫃智子ほか『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,400 + 税
- ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通) ¥750

● 参考書

授業内で紹介する

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	反転授業	◎ ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
◎ 学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	◎ 双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。

実務経験

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

保育原理

石上 浩美

MW1L

単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・春夏		[保必]
学修準備時間			60

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○ 1.情熱・使命感・責任感	◎ 2.知識・技術	◎ 3.探究・主体性	◎ 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

保幼小連携をふまえ、「保育・教育とは何か」という根本的な問いを立て、その問いに対する自分なりの答えを探究することを大きな目的とする。そして、公教育を担う保育者として適切な教育実践を行うことができるようになることをめざす。具体的には、古代から現代にいたる西洋・日本の保育・教育思想家がこれまで示してきた保育・教育の定義・思想およびモデルをアクティブ・ラーニング(AL)形式で紹介しながら、教育および学校制度がどのように形成されてきたのかを歴史的に考察する。さらに、現在日本社会における学校教育・保育の課題を明らかにし、それらへの具体的な対処方法・方略を探究する。

● 到達目標

1. 保育・教育の理念、西洋・日本の教育思想史に関する基礎知識をふまえた論述ができる。
2. 幼稚園教育要領や保育所保育指針の内容について論述ができる。
3. 子どもの発達過程と教育の関係について論述ができる。
4. 現代社会における保育・教育の位置づけと課題について論述ができる。

履修のルール

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

予習：シラバスを参考に教科書指定ページの精読(60分)
復習：授業内容などを参考にノート整理・事後学修課題(60分)
※授業資料・課題提出はGoogle Classroomを活用する。

課題に対するフィードバックの方法

- ・授業時全体アナウンス
- ・Google Classroom コメント

授業計画

1. オリエンテーション 授業の目的・目標、内容、授業計画と評価観点・方法の説明
 2. 西洋の保育・教育1(古代)
 3. 西洋の保育・教育2(中世)
 4. 西洋の保育・教育3(近代1)
 5. 西洋の保育・教育4(近代2)
 6. 西洋の保育・教育5(現代)
 7. 日本の保育・教育1(縄文時代から平安時代まで)
 8. 日本の保育・教育2(鎌倉時代から室町時代まで)
 9. 日本の保育・教育3(江戸時代)
 10. 日本の保育・教育4(明治時代から第二次世界大戦前まで)
 11. 日本の保育・教育5(第二次世界大戦から現代まで)
 12. 現代の教育課題1(幼稚園教育要領・小学校学習指導要領の変遷)
 13. 現代の教育課題2(子どもの権利条約・虐待・貧困)
 14. 現代の教育課題3(保幼小連携において求められる保育者)
 15. 保育原理まとめ 西洋と日本の幼児教育について
- 予習(事前学修)を重視する。毎回指定されたテキストページを精読の上授業に参加すること。

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	60	筆記試験:60% 知識・理解の習熟度合いについて
レポート		
その他	40	毎回のミニレポート(Google Form)内容: 春学期:20% 夏学期:20% 思考・判断・表現の独創性について

教科書等

● 教科書等

石上浩美編著(2018)『教育原理-保育・教育の現場をよりよくするために-』嵯峨野書院(ISBN:9784782305744)¥2,200+税

● 参考書

- ・文部科学省編 幼稚園教育要領解説(平成30年3月)フレーベル館(ISBM9784577814475)¥264
- ・厚生労働省編 保育所保育指針解説(平成30年3月)フレーベル館(ISBM9784577814482)¥352

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	◎ 反転授業	◎ ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	◎ 双方向アンケート	◎ その他:

オフィスアワー

後日公表 メールおよびGoogle Classroomも常時活用

実務経験

子ども家庭福祉

本田 和隆

MW1L

単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・春夏		[保必]
学修準備時間			60

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

1.情熱・使命感・責任感 ○ 2.知識・技術 3.探究・主体性 ◎ 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

子どもたちが抱える多様な問題は、子どもと家庭を取り巻く社会的背景の急激な変化や、現代家族の変容と深く関わっている。子どもと家族に対する支援の必要性を念頭に、様々な法律や福祉制度の基本を幅広く学ぶ。あわせて、社会の発展に伴い変化してきた「子どものとらえ方」について学ぶ。
また、子どもや親への支援のしくみ・方法、地域を視野に入れた支援の基礎について学び、その課題や展望を学ぶ。
子どもの福祉を専門的な視点から考えられるように、視覚教材や事例を紹介し具体的に理解できるようにする。

● 到達目標

- 子ども家庭福祉を学ぶために必要な基礎知識を理解する
- 法制度をはじめとした子ども・家庭を支えるさまざまな制度の枠組みを理解する
- 現代の子育てに関わる問題の概要を理解する

履修のルール

春期「社会福祉」の学習内容と深く関係があるため関連して理解できるようにしておくこと。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

初回の講義において全体の流れと到達目標を説明するとともに、毎回の講義において予習・復習しておくべき課題を提示する。

課題に対するフィードバックの方法

都度、授業で確認する。

授業計画

- 超少子高齢社会における子ども家庭福祉①—子育て家庭の現状
- 超少子高齢社会における子ども家庭福祉②—子ども家庭福祉の基本的な視点
- 子ども家庭福祉の理念と専門職①—子ども家庭福祉の概念と理念
- 子ども家庭福祉の理念と専門職②—子ども家庭福祉の専門職と倫理
- 子ども家庭福祉の展開
- 子どもの権利擁護
- 子ども家庭福祉の法体系①—児童福祉法六法の概要
- 子ども家庭福祉の法体系②—児童福祉法六法以外の関連法
- 子ども家庭福祉の制度・事業
- 子ども家庭福祉の実施行政機関
- 子ども家庭福祉に関連する施設①—児童福祉施設とは
- 子ども家庭福祉に関連する施設②—社会的養護
- 地域の子育て家庭への支援の現状と課題
- 要保護・要支援児童への支援
- 子ども家庭福祉の動向とソーシャルワーク

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	70	筆記試験
レポート	0	
その他	30	授業への参加状況、ミニレポート、授業態度による評価

教科書等

● 教科書等

- 講義時にプリント教材を配布
- 芝野松次郎・新川泰弘・宮野安治・山川宏和編『子ども家庭福祉入門』ミネルヴァ書房 ¥2,420 (税込)

● 参考書

『保育福祉小六法』みらい

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	◎ 反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	◎ 双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

授業終了後、可能な限り対応する。

実務経験

社会福祉

溝淵 淳

MW1L

単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・春夏		[保必]
学修準備時間			60

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	3.探究・主体性	◎ 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

現代社会における多種多様な「生きづらさ」に焦点をあて、①なぜ「生きづらさ」が生じているのか、また、②なぜ、「生きづらさ」が当事者個人だけ（自己責任）ではなく、社会全体の取り組みの中で軽減・解消される必要があるのか、さらには、③「生きづらさ」を軽減・解消していくための仕組みや取り組みの実際について理解することを目指す。最後に、④保育士を含む対人支援の専門職に今後求められる視点や取り組みについても展望する。

● 到達目標

1. 福祉を必要とする人々を取り巻く様々な状況（生活問題など）を理解している。
2. 社会福祉の全体像を踏まえ、その知識を生かしながら保育士として実践する力量を身につけている。

履修のルール

- ・資料やノート等にメモしながら、話に耳を傾ける…といった姿勢の修得を念頭におくこと。
- ・わからない用語等をそのままにせず調べるようにすること。
- ・授業時に事前及び事後課題の内容を提示する。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

- ・事前課題が出された場合は、必ず取り組んだうえで授業に臨むこと。
 - ・授業後の事後課題が出された場合は、必ず取り組み提出すること。
- ※いずれも90分目安

課題に対するフィードバックの方法

毎回のコメントに対しては次回授業時に取り上げ、期末レポートについては、最終授業時に講評する。

授業計画

1. オリエンテーション 保育と社会福祉の関係 保育者に求められる役割
2. 社会福祉を支える考え方
3. 社会福祉の歴史の変遷 海外の動向との比較
4. 社会で暮らす人びとの生活課題 社会福祉と子ども家庭支援との関連
5. 社会福祉の制度と法体系 (1) 社会福祉制度と法体系の確立と展開
6. 社会福祉の制度と法体系 (2) 各制度と法体系の内容理解と相互の関連
7. 社会福祉を担う行政機関と社会福祉の財政
8. 社会福祉の施設とそこでの運営
9. 社会福祉の専門職と倫理
10. 社会福祉における支援活動 (1) 支援活動を支える考え方
11. 社会福祉における支援活動 (2) 支援活動の対象範囲とそれらへの理解
12. 社会福祉における相談援助 (3) 支援で用いられる方法と技術
13. 社会福祉の専門職と倫理
14. 社会福祉における権利擁護とサービスの質保証
15. 今後の社会福祉の動向と課題 地域共生社会 まとめ

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	40	授業内で取り上げた内容について、受講生が調べ、さらに掘り下げた上でまとめる形のレポート課題とする。受講生の主体性（自ら調べる、自ら深める、自らの見解を述べる…等）を最優先する形で評価する。
その他	60	授業への参加の度合い、授業へ取り組む姿勢、コメント、授業中の課題

教科書等

● 教科書等

適宜資料を配布する。

● 参考書

一般社団法人全国保育士養成協議会監修『ひと目でわかる保育者のための児童家庭福祉データブック 2022』（中央法規、¥1,320）
その他、適宜紹介する。

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	◎ 双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

- ・火曜日および金曜日の午後16時～17時 6階研究室で対応。
- ・質問・意見はコメントペーパーでも受け付ける。

実務経験

子ども家庭支援論

本田 和隆

MW1L

単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・秋×2		[保必]
学修準備時間			60

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

1.情熱・使命感・責任感 ○ 2.知識・技術 3.探究・主体性 ○ 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

現代の子育て家庭の抱える課題や現状について理解するとともに、子育て家庭への支援として保育者として求められているものは何かについて検討する。また、支援体制について理解するとともにニーズに応じた多様な支援の展開について学ぶこととする。

● 到達目標

1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。
2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。
3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。
4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する

履修のルール

最初の授業時に指示する

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

今回の講義までに、講義内容に対応する教科書の章を読み予習しておくこと。復習しておくべき課題については授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

都度、授業時に提示する。

授業計画

1. 子ども家庭支援・子育て支援の意義と役割
2. 少子高齢社会と子育て家庭をめぐる問題
3. 子育て家庭に対する支援の実施体制
4. 次世代育成支援の推進と子ども家庭支援・子育て支援施策
5. 保育者による子ども家庭支援の意義と基本
6. 保育士に求められる基本的態度
7. 保育士による子ども家庭支援の展開過程
8. 保育士による職員間・関係機関・専門職の連携・協働
9. 保育士による子育て支援の特性と展開
10. 保育環境を活用した子育て支援
11. 送迎場面を活用した子育て支援
12. さまざまな伝達手段を活用した子育て支援
13. さまざまな保育体験活動を活用した子育て支援
14. さまざまな児童福祉施設でおこなわれる子育て支援
15. 子ども家庭支援・子育て支援の課題と展望

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	55	子ども家庭支援に関わる基礎的な事項に対する筆記試験を行う。
レポート	0	
その他	45	授業への参加状況、確認テストやミニレポート、授業態度による評価。

教科書等

● 教科書等

才村純・芝野松次郎・新川泰弘編
『子ども家庭支援・子育て支援入門』
ミネルヴァ書房 ¥2,640(税込)

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	◎反転授業	ディスカッション、ディベート	◎グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

可能な限り、授業終了後に対応する。

実務経験

社会的養護 I

本田 和隆

MW1L

単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・秋冬		[保必]
学修準備時間			60

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	◎	2.知識・技術	◎
3.探究・主体性	◎	4.人権・共感	◎

授業内容

● 目的と概要

【授業目的】

本講では、社会的養護の意義と基本的原理の理解を深めることを目的とする。

【授業概要】

現代の子育てをめぐる諸問題が複雑化、多様化するなか、子どもとその家族が抱える悩みも深刻化している。都市化、核家族化が進む昨今では、家庭や地域の中だけでは問題解決が出来ない困難事例も増加しており、社会的な養護の必要性を高めている。問題を抱える児童の養護に関する現状理解や子どもの権利保障という視点から、社会的な養護を要する子どもと家族、それを取り巻く地域社会を支援するための基本的理念を学び、行政施策などの具体的な仕組みについて理解を深める。特に、多くの保育士が勤める乳児院や児童養護施設などの児童福祉施設の機能と、そこで働く保育士の役割について考察を深める。

● 到達目標

【到達目標】

社会的養護を要する子どもの現状に関心を持ち、子どもの権利擁護のための行政施策とその他の支援体制および保育士の具体的な役割に対する知見と考察を深めることができる。

履修のルール

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

教科書を中心に予習・復習をすること。範囲については、授業時に確認する。また、授業内容に関わるニュースに関心をもっておくことが大切である。

課題に対するフィードバックの方法

各回の課題について次回の講義でフィードバックを行う。

授業計画

1. 現代社会における社会的養護の意義
2. 社会的養護の理念と概念
3. 社会的養護の歴史の変遷
4. 子どもの人権擁護と社会的養護
5. 社会的養護の基本原則
6. 社会的養護における保育士等の倫理と責務
7. 社会的養護の仕組み
8. 社会的養護の実施体系
9. 児童福祉法改正と「新しい社会的養育ビジョン」
10. 家庭養護の推進—里親、ファミリーホーム、養子縁組
11. 社会的養護の実際① 乳児院、母子生活支援施設、児童心理治療施設
12. 社会的養護の実際② 児童養護施設、児童自立支援施設、自立援助ホーム
13. 社会的養護に関わる専門職と専門性
14. 児童福祉施設配置の職員：里親支援専門相談員、家庭支援専門相談員など
15. 社会的養護の施設等の運営管理

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	70	筆記試験
レポート	0	
その他	30	授業の参加状況、ミニレポート、授業態度による評価

教科書等

● 教科書等

芝野松次郎・新川泰弘・山川宏和編 (2021)『社会的養護入門』ミネルヴァ書房. ¥2,640 (税込)

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	◎	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	
学生によるプレゼンテーション		実習、フィールドワーク	◎	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

授業終了後、可能な限り対応する。

実務経験

子どもの保健

西村 玲子

MW1L

単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・春夏		[保必]
学修準備時間			60

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

1.情熱・使命感・責任感 ◎ 2.知識・技術 3.探究・主体性 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

小児期は人格や健康の基礎を形成する重要な時期である。

保育現場で生じる保健的問題に対処できるように、乳幼児期における心身の発育・発達、疾病の特徴等の専門的知識を習得することを目的とする。

● 到達目標

1. 乳幼児期の心身の発育・発達の特徴について理解している。
2. 乳幼児期に多い病気の特徴について理解している。
3. 小児期のかかわりの重要性について理解している。

履修のルール

予習・復習の方法「自主学習ガイド」

予習：毎回次の授業テーマを提示するので、事前にテキストを確認しておくこと。(30分程度)

復習：授業内容を復習しておくこと。(30分程度)

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説を行う。

授業計画

1. オリエンテーション 子どもの心身の健康と意義
2. 子どもの保健・福祉サービス ① わが国の母性保健
3. 子どもの保健・福祉サービス ② わが国の小児保健
4. 虐待について
5. 子どもの身体発育と保健 ① 発育・発達
6. 子どもの身体発育と保健 ② 脳・感覚器の発達
7. 子どもの運動機能の発達と保健
8. 子どもの生理機能の発達と保健 ① 体温・呼吸等
9. 子どもの生理機能の発達と保健 ② 消化吸収・排泄等
10. 子どもの生理機能の発達と保健 ③ 睡眠・免疫等
11. 子どもの精神機能の発達と保健
12. 子どもの主な病気 ① 感染症
13. 子どもの主な病気 ② アレルギー等
14. 子どもの主な病気 ③ 予防接種等
15. 重要ポイントの復習と到達度テスト

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	70	期末試験(筆記試験を行う)
レポート	0	
その他	30	授業内で小レポートもしくは小テストを行う。

教科書等

● 教科書等

新版 よくわかる子どもの保健 丸尾良浩 / 竹内義博 編著
ミネルヴァ書房 ¥2,420 (税込)

● 参考書

適宜紹介していく

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

非常勤講師控室 在室時

実務経験

乳児保育 I

石上 浩美

MW1L

単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・秋×2		[保必]
学修準備時間			60

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	3.探究・主体性	4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

乳幼児期は人の生涯発達における土台となる時期であり、この時期に出会った物事や人との関わりは、心身の発達に大きな影響を与える。そこで、現代社会における乳幼児と家族・家庭を取りまく環境や状況、乳幼児期特有の発達特性について知ること、乳幼児保育の歴史や意義、目的・方法等について学修する。一方、保育者に求められる乳幼児保育の基礎知識と技能について、先行研究や事例をふまえて実践的に学修する。子どもの発達及び最善の利益を保証するためにはどうすればよいか意識することがこの科目の目的である。

● 到達目標

1. 乳幼児保育の意義や目的、歴史的変遷について理解できる。
2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳幼児保育の現状と課題について興味・関心を持つことができる。
3. 乳児期の心身の発達の連続性や個人差についての基礎知識を理解し、それをふまえた保育内容について考えることができる。
4. 乳幼児保育における職員間の連携、保護者および地域の関係機関との連携について理解する。

履修のルール

予習・復習の方法「自主学習ガイド」

予習：シラバスを参考に教科書指定ページの精読（60分）

復習：授業内容などを参考にノート整理・事後学修課題を行う。（60分）

※授業資料・課題提出は Google Classroom を活用する。

課題に対するフィードバックの方法

- ・ 授業時全体アナウンス
- ・ Google Classroom コメント

授業計画

1. オリエンテーション	授業の目的・目標、内容、授業計画と評価観点・方法の説明
2. 乳児保育の意義と役割	テキスト第1章
3. 乳児保育の歴史	テキスト第2章
4. 日本における乳児保育の現状	テキスト第3章
5. 発達の連続的理解	テキスト第4章
6. 乳児保育の基本	テキスト第5章
7. 0歳児保育①	テキスト第6章
8. 0歳児保育②	テキスト第7章
9. 1歳児保育	テキスト第8章
10. 2歳児保育	テキスト第9章
11. 移行期の子どもへの関わり方と配慮	テキスト第10章
12. 子どもの病気と健康・安全	テキスト第11章
13. 障がいなど特別な配慮を要する子どもの保育	テキスト第12章
14. 保護者への子育て支援	テキスト第14章
15. 乳児保育における連携と協働	テキスト第15章

予習（事前学修）を重視する。毎回指定されたテキストページを精読の上授業に参加すること。

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	60	筆記試験：60% 知識・理解の習熟度合いについて
レポート	0	
その他	40	毎回のミニレポート（Google Form）内容：40% 思考・判断・表現の独創性について

教科書等

● 教科書等

大浦賢治編著（2023）『実践につながる新しい乳児保育—ともに育ち合う保育の原点がここに—』ミネルヴァ 書房
(ISBN:9784623094707) ¥2,640
(乳児保育Ⅱと共通テキスト)

● 参考書

・ 文部科学省編 幼稚園教育要領解説（平成30年3月）フレーベル館（ISBN9784577814475）¥264
・ 厚生労働省編 保育所保育指針解説（平成30年3月）フレーベル館（ISBN9784577814482）¥352

アクティブラーニングへの取り組み

<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input checked="" type="checkbox"/> 反転授業	<input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input checked="" type="checkbox"/> グループワーク
<input checked="" type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

後日公表 メールおよび Google Classroom も常時活用

実務経験

保育実習Ⅰ（保育所）

板倉 史郎、本田 和隆 ほか

MW2T

単位	実・2	回数	
年次 学期	1年・冬集		[保必]
学修準備時間			

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

○ 1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	◎ 3.探究・主体性	4.人権・共感
----------------	---------	------------	---------

授業内容

● 目的と概要

本実習は、保育士資格を取得するための実習である。実習を通じて保育士として必要な知識と技術を見につけ、その資質を向上させることを目的としている。

保育実習Ⅰ（保育所）では、保育士としての保育活動に参加し、実習指導者の指導のもと、保育士の業務と役割について実践的に学ぶ。また、活動に関わる計画、子どもや利用者の発達に応じた関わり方を学ぶ。

● 到達目標

- ・保育所の機能、社会的役割および保育士の業務について理解する
- ・保育士の姿から利用者との関わり方の実際を学ぶ
- ・保育計画の立案を学ぶ
- ・保育士として必要な資質および知識・技術を身につける
- ・保育に対する考え方を深める

履修のルール

- ・保育実習指導Ⅰ（保育所）への事前指導の出席が4/5に満たない者については、本実習への参加を認めない。
- ・実習までに保育原理、乳児保育Ⅰを含む35単位以上の取得を参加の原則とする。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

実習に必要な手続きや書類は期限内に必ず実施、提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

実習後に個人面談を行い、実習園の評価を開示したうえで、成果と課題について確認する。

授業計画

1. 実習ハンドブック 参照
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・実習評価 (75%) ・実習記録の内容 (25%)

教科書等

● 教科書等

- ・小櫃智子ほか『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,540 (税込)
- ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通) ¥750

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	◎実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。

実務経験

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

保育実習指導 I (保育所)

板倉 史郎、本田 和隆

MW1E

単位	演・1	回数	15
年次 学期	1年・通		[保必]
学修準備時間			15

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○ 1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	◎ 3.探究・主体性	4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

本授業は、保育実習 I (保育所) の参加するための事前・事後指導を行うことを目的とする。講義、演習で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連づけ、子ども理解と豊かな実践力の基礎を養うこと、及び保育所の子どもを取り巻く環境を理解することを目的としている。保育所の現状の理解やそこで求められる保育者としての力量を高めるための講義、演習を行う。

● 到達目標

- ・実習の目的を理解し、実習課題を明確にする
- ・保育所の制度的理解を深める
- ・保育所を利用する子どもと家族の生活を理解し、必要とされる保育・子育て支援の概要を学ぶ
- ・保育士として求められる基礎的な知識、技能の活用方法を学ぶ
- ・子どもの発達の基礎知識に基づき、保育計画(保育指導案)が作成できる
- ・実習記録が書ける

履修のルール

- ・事前指導は 4/5 以上の出席が必須。欠席した場合は次回までに講義配付資料等を受け取りに行くこと(板倉研究室)
- ・実習手続きがされない、課題未提出の場合、実習を中止することがある

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

毎時、提示される課題等は必ず行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

提出課題については評価を行い、必要に応じて修正、加筆することで改善を図らせる。

授業計画

1. オリエンテーション(保育実習とは)
2. 実習目的を基にした実習生カードの指導、記入
3. 実習目的に基づく自己課題の明確化
4. ソーシャルスキルに関わる演習
5. 実習記録の書き方①目的とねらい
6. 実習記録の書き方②子どもの動きと保育者の動き
7. 保育計画指導案の立て方①ねらいをもった指導案
8. 保育計画指導案の立て方②つけさせたい力
9. 実習先の制度的理解
10. 保育士に必要とされる専門性
11. 実習に関わる演習①一手遊び
12. 実習に関わる演習②絵本の読み聞かせ
13. 実習直前指導
14. 実習の振り返りによる自己課題の明確化
15. 実習報告会

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・授業に取り組む姿勢(受講態度)(30%) ・授業における参加状況(15%) ・実習課題提出、到達状況(35%) ・実習後の振り返り、まとめ、報告(20%)

教科書等

● 教科書等

- ・小櫃智子ほか『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,540(税込)
- ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通) ¥750

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	反転授業	◎ ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
◎ 学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	◎ 双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。

実務経験

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

保育実習指導 I (福祉施設)

板倉 史郎、本田 和隆

MW1E

単位	演・1	回数	15
年次 学期	1年秋冬・ (2年春)		[保必]
学修準備時間			15

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○ 1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	◎ 3.探究・主体性	4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

本授業は、保育実習 I (福祉施設) の参加するための事前・事後指導を行うことを目的とする。

講義、演習で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連づけ、子ども理解と豊かな実践力の基礎を養うこと、及び福祉施設を取り巻く環境を理解することを目的としている。福祉施設の現状の理解やそこで求められる保育者としての力量を高めるための講義、演習を行う。

● 到達目標

- ・実習の目的を理解し、実習課題を明確にする
- ・福祉施設の制度的理解を深める
- ・福祉施設を利用する利用者と家族の生活を理解し、必要とされる支援の概要を学ぶ
- ・保育士として求められる基礎的な知識、技能の活用方法を学ぶ
- ・利用者の発達の基礎知識に基づき、レクリエーション案が作成できる
- ・実習記録が書ける

履修のルール

- ・事前指導は 4/5 以上の出席が必須。欠席した場合は次回までに講義配付資料等を受け取りに行くこと (板倉研究室)
- ・実習手続きがされない、課題未提出の場合、実習を中止することがある

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

毎時、提示される課題等は必ず行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

提出課題については評価を行い、必要に応じて修正、加筆することで改善を図らせる。

授業計画

1. オリエンテーション (福祉施設実習とは)
2. 福祉施設実習の必要性
3. 実習目的を基にした実習生カードの指導、記入
4. 実習目的に基づく自己課題の明確化
5. ソーシャルスキルに関わる演習
6. 福祉施設実習記録の書き方①
7. 福祉施設実習記録の書き方②
8. 保育計画指導案の立て方①
9. 実習先の制度的理解
10. 福祉施設での保育士に必要とされる専門性
11. 実習に関わる演習①
12. 実習に関わる演習②
13. 実習直前指導
14. 実習の振り返りによる自己課題の明確化
15. 実習報告会

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・授業に取り組む姿勢 (受講態度) (30%) ・授業における参加状況 (15%) ・実習課題提出、到達状況 (35%) ・実習後の振り返り、まとめ、報告 (20%)

教科書等

● 教科書等

- ・小櫃智子ほか『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,400 + 税
- ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通) ¥750

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	反転授業	◎ ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
◎ 学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	◎ 双方向アンケート	◎ その他:

オフィスアワー

特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。

実務経験

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

こども音楽療育概論

小原 敦子

MA1L

単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・秋冬		[保選]
学修準備時間			60

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

<input type="radio"/> 1.情熱・使命感・責任感	<input checked="" type="radio"/> 2.知識・技術	<input type="radio"/> 3.探究・主体性	<input type="radio"/> 4.人権・共感
------------------------------------	--	--------------------------------	-------------------------------

授業内容

● 目的と概要

音楽療育の意義を理解する。

- ・各障害についての理解を深め、保育の場で障害児に対応できる力を身につける。
- ・一人一人の子どもの状態を把握し、適切な対応ができる力を身につける。
- ・保育における音楽と遊びの関係を学ぶ。
- ・各授業時の後半に前半の講義内容をより深く理解することを目的とした保育実技を行う。その際にはグループワークも意識し協力しながら保育技術を高める機会を持つ。

● 到達目標

一人一人の子どもに合わせて関わっていくことの大切さを理解する。

保育現場で適切な対応をしていくための具体的な手段を知る。

音楽を保育に活かす技術を身につける。

履修のルール

受講生は、運動のできる服装で参加すること。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

- ・ボランティア等に積極的に参加し、子どもと実際にふれあう機会を多く持つことが望ましい。
- ・授業中に紹介する参考文献を読む。
- ・授業中に紹介されるエプロンシアターやパネルシアターを作成し実習や保育現場で活用することが望ましい。

課題に対するフィードバックの方法

- ・授業時に質問に応じる時間をもつ。
- ・授業ごとに「今日学んだこと」をテーマにミニレポートを提出する。疑問に思うことがあればその紙面に書く。ミニレポートに返答する形でコメントを書き、4～5回ごとに返却する。

授業計画

1. 授業についての説明
2. 音楽療育とは
3. 音楽の心身に及ぼす影響：乳幼児編
4. 音楽の心身に及ぼす影響：児童編
5. 乳幼児の音楽を通じた発達
6. 児童の音楽を通じた発達
7. 成長と遊び①（身近な感覚に働きかける遊び）
8. 成長と遊び②（イメージ遊び）
9. ダウン症児の保育の実際
10. 自閉症児の保育の実際
11. 肢体不自由児の保育の実際
12. 軽度発達障害児の保育の実際
13. 通常保育における音楽を通じた保育
14. 障害児保育における音楽を通じた保育
15. まとめ—こども音楽療育士にとって大切なこととは

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	60	試験を行う
レポート	0	
その他	40	毎授業時の小レポート 30点 実技に取り組む態度（積極性 協調性など） 10点

教科書等

● 教科書等

授業時にプリント教材を配布する。

● 参考書

授業時に紹介する

アクティブラーニングへの取り組み

<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input checked="" type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	<input type="checkbox"/> その他:

オフィスアワー

水曜日 12:40～13:15 14:50～15:00 リズム室にて

実務経験

キャンパスライフサポート

鈴木 康子、宮本 直美

MA1E

単位	演・1	回数	8
年次 学期	1年・秋		
学修準備時間			15

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

- | | | | |
|--------------|---------|------------|---------|
| 1.情熱・使命感・責任感 | 2.知識・技術 | ◎ 3.探究・主体性 | 4.人権・共感 |
|--------------|---------|------------|---------|

授業内容

● 目的と概要

本科目では、自分の思いこみを点検しながら、他者の意見や客観的な情報を参考にして自己理解を図る。キャンパスライフについて、学習や生活などの多角的な視点から自己を客観的に眺め、内省的に振り返り、必要なサポート等について考えることができるようになる。自己のキャンパスライフについて、受講生が自らの課題として考える中で、最終的には現在の自分を理解し、相対化できるようになることを目指す。

● 到達目標

本科目では、自分の思いこみを点検しながら、他者の意見や客観的な情報を参考にして自己理解を図る。キャンパスライフについて、学習や生活などの多角的な視点から自己を客観的に眺め、内省的に振り返り、必要なサポート等について考えることができるようになる。自己のキャンパスライフについて、受講生が自らの課題として考える中で、最終的には現在の自分を理解し、相対化できるようになることを目指す。

履修のルール

グループワーク等に積極的に参加すること

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

毎回配布する感想用紙に授業内容のまとめと感想を記入し、次回の授業で提出すること。テキストの指定したページは事前に読んでおき、質問をまとめておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において、授業の感想やレポート等について講評する。

授業計画

1. キャンパスライフサポートとは(授業の概要説明)
2. キャンパスライフに必要なとされるもの(能力・スキル・知識・態度等)を考える
3. 学習面でのサポート
4. 生活面でのサポート
5. 自己理解
6. 大学等身近なサポートの活用
7. 自分のキャンパスライフサポート
8. 振り返り(個々に応じたキャンパスライフサポートとは)
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	授業への参加状況(グループ討議等)、ミニレポート、作成物等により総合的に評価する。

教科書等

● 教科書等

香月菜々子・古田雅明『キャンパスライフサポート』ミネルヴァ書房 ¥2,200

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

授業後

実務経験

ゼミナール I

鯉坂 はるよ

MS1E

単位	演・2	回数	30
年次 学期	1年・通		[保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
<input type="radio"/> 1.情熱・使命感・責任感	<input type="radio"/> 2.知識・技術	<input checked="" type="radio"/> 3.探究・主体性	<input type="radio"/> 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

- 【前期】 保育者を目指す学生に、大学での専門的な学び、技術の習得など養成校での学習全般を理解し、同時に大学生活へのスムーズな入り口として、教員によるプレゼミ担当となり、指導する。
- 【後期】 子どもの発達を踏まえながら、発達に沿った絵本やレクリエーションを考えることを目的とする。実習で、発達・年齢に応じてどのような絵本、遊びを考えたらよいか、検討する。絵本、遊びについて調べ、各自発表し、その内容について意見交換を行う。学んだことを踏まえ、保育教材も制作する。

● 到達目標

- 【前期】 1) 大学での授業方法、受講に際する姿勢を理解できる。
2) 大学での授業の受講をし、定められた課題に対応できる。
- 【後期】 1) 発達に沿った絵本について理解する。
2) 発達に沿ったレクリエーションについて理解する。
3) 保育教材を作成する。
4) グループワークにより、協調性が身に付いた。

履修のルール

グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションに積極的に参加すること。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

発表する絵本やレクリエーションについて調べ、発表できるように準備すること。発表後、復習し、実習でどのような絵本を読み、遊びを行うか考えること。将来的にも活用できる保育教材を制作すること。

課題に対するフィードバックの方法

発表後、ディスカッションするとともに、コメントする。

授業計画

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. (プレゼミ) 大学での履修とは。大学での講義の受け方～ノートを取るには～ 2. 指す夢は同じ～大学での夢を語り合う(各プレゼミごとの自己紹介を通して)～ 3. 入学前課題の確認①
保育者が必要な国語、数学力を理解する 4. 入学前課題の確認②
幼児教育には欠かせない「絵本」を通して 5. 入学前課題の確認③
「保育者のイメージ」「保育者に必要な漢字」を通して～保育者にとって必要な力とは～ 6. 入学前課題の確認④
自分の周辺にある「幼児教育施設」を理解する～実習に関連して～ 7. 大学でのレポートと論文の違い
～実際に経験することから～ 8. 大学での学びの方法
～アクティブラーニング～ 9. マナー講座を通して①
～社会人として必要な力を探る～ 10. マナー講座を通して②
～実演を伴った各自の課題を知る～ 11. マナー講座を通して③
～①②で経験したことをレポートにまとめる～ 12. グループワークによるプレゼンテーション力の向上 13. グループワークを通して仕上げたチーム別発表、自己評価 14. 専門ゼミを知る(2回生の研究テーマを聞く) 15. 専門ゼミを選択する(各自で見学、体験し、決定する) | <ol style="list-style-type: none"> 16. ガイダンス、卒業制作(絵本作成)について 17. 発達に沿った絵本(0歳児)
(プレゼンテーション、ディスカッション) 18. 発達に沿ったレクリエーション、絵本(0,1歳児)
(グループワーク、プレゼンテーション) 19. 発達に沿った絵本(2歳児)
(プレゼンテーション、ディスカッション) 20. 発達に沿ったレクリエーション(2歳児)
(グループワーク、プレゼンテーション) 21. 実習に向けての発達に沿った絵本、レクリエーション
(プレゼンテーション) 22. 発達に沿った絵本(3歳児)
(プレゼンテーション、ディスカッション) 23. 発達に沿ったレクリエーション(3歳児)
(グループワーク、プレゼンテーション) 24. 発達に沿った絵本(4歳児)
(ディスカッション) 25. 発達に沿ったレクリエーション(4歳児)
(グループワーク、プレゼンテーション) 26. 発達に沿った絵本(5歳児)
(ディスカッション) 27. 発達に沿ったレクリエーション(5歳児)
(グループワーク、プレゼンテーション) 28. 保育教材(0,1,2歳児)の制作 29. 保育教材(3,4,5歳児)の制作 30. 発達に沿った絵本・レクリエーションの振り返り、2回生に向けて |
|--|--|

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	授業に取り組む姿勢、課題により、総合的に評価する。

教科書等

● 教科書等

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input checked="" type="checkbox"/> グループワーク
<input checked="" type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	<input type="checkbox"/> その他:

オフィスアワー

火、水、木、金の昼休み。研究室にて。

実務経験

ゼミナール I

石上 浩美

MS1E

単位	演・2	回数	30
年次 学期	1年・通		[保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
<input type="radio"/> 1.情熱・使命感・責任感	<input type="radio"/> 2.知識・技術	<input checked="" type="radio"/> 3.探究・主体性	<input type="radio"/> 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

【前期】 大学での学び方(ノートの取り方、講義の受け方、レポートの書き方。事前学習への取り組み方法など)を、全ゼミ同様に学んでいく(学科共通内容)。

【後期】 子どもの特性や子どもと家庭を取り巻く環境に配慮した指導、子どもの発達特性に応じた児童文化教材を用いた指導について、保育原理、発達心理学の基礎知識を基盤とした保育者イメージ形成のための文献・事例調査(フィールドワーク)研究、オリジナル児童文化教材づくりのための準備を行う。

● 到達目標

【前期】 1) 大学での授業方法、受講に際する姿勢を理解できる。

2) 大学での授業を受講し、定められた課題に対応できる。

【後期】 1) 子どもの発達特性、多様な家庭環境、保育の意義について理解できる。

2) 子どもの発達段階・特性に応じたオリジナル児童文化教材づくりのためのイメージ形成ができる。

履修のルール

協同の意義を意識しながら互いに協力する

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

予習：シラバスを参考に事前配布資料の精読(60分)

復習：授業内容などを参考にノート整理・事後学修課題を行う。(60分)

※授業資料・課題提出は Google Classroom を活用する。

課題に対するフィードバックの方法

- ・ 授業時全体アナウンス
- ・ Google Classroom コメント

授業計画

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> (プレゼミ) 大学での履修とは。大学での講義の受け方～ノートを取るには～ 指す夢は同じ
～大学での夢を語り合う(各プレゼミごとの自己紹介を通して)～ 入学前課題の確認①
保育者に必要な国語、数学力を理解する 入学前課題の確認②
幼児教育には欠かせない「絵本」を通して 入学前課題の確認③
「保育者のイメージ」「保育者に必要な漢字」を通して
～保育者にとって必要な力とは～ 入学前課題の確認④
自分の周辺にある「幼児教育施設」を理解する～実習に関連して～ 大学でのレポートと論文の違い～実際に経験することから～ 大学での学びの方法～アクティブラーニング～ マナー講座を通して①～社会人として必要な力を探る～ マナー講座を通して②～実演を伴った各自の課題を知る～ マナー講座を通して③～①②で経験したことをレポートにまとめる～ グループワークによるプレゼンテーション力の向上 グループワークを通して仕上げたチーム別発表、自己評価 専門ゼミを知る(2回生の研究テーマを聞く) 専門ゼミを選択する(各自で見学、体験し、決定する) <p>・状況に応じて各回の順序・内容は変更することもある。</p> | <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション：本ゼミナールの目的・計画・評価方法 発達研究(1)
身体・認知発達に関する基礎を知る 発達研究(2)
遊び・社会性の発達に関する基礎を知る 発達研究(3)
言葉の発達に関する基礎を知る 発達段階・特性に応じた教材事例を知る(1) フレーベルの恩物 発達段階・特性に応じた教材事例を知る(2) 0～2歳対象 発達段階・特性に応じた教材事例を知る(3) 3歳～5歳対象 発達段階・特性に応じた教材フィールドワーク(1) 幼稚園 発達段階・特性に応じた教材フィールドワーク(2) 保育所 フィールドワーク報告(1) 口頭発表&ディスカッション フィールドワーク報告(2) 口頭発表&ディスカッション 発達支援と子育て支援 虐待・子育て支援について 発達支援と伴走支援 無戸籍・無国籍について(外部講師) ゼミナールIでの学び 期末レポート作成・提出 ゼミナールIでの学び 期末レポート発表 ゼミナールII準備 <p>・フィールドワーク調査は学内外で実施することもある。</p> |
|--|---|

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験		
レポート	50	先行研究・事例を参考に、子どもの発達段階・特性に応じたオリジナル児童文化教材づくりのための実践計画に関するレポート
その他	50	先行文献、事例調査(フィールドワーク)ミニレポート

教科書等

● 教科書等

資料配布

● 参考書

多数あるため適宜紹介する

アクティブラーニングへの取り組み

<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input checked="" type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input checked="" type="checkbox"/> グループワーク
<input checked="" type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

後日公表 メールおよび Google Classroom も常時活用

実務経験

ゼミナール I

板倉 史郎

MS1E

単位	演・2	回数	30
年次 学期	1年・通		[保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○ 1.情熱・使命感・責任感	○ 2.知識・技術	◎ 3.探究・主体性	○ 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

- ・大学での学び方（ノートの取り方、講義の受け方、レポートの書き方、事前学習への取り組み方法など）を、全ゼミ同様に学んでいく。
- ・保育者に必要な資質、能力について考える。
- ・保育を巡る情勢について学ぶ。

● 到達目標

- ・大学でのゼミナールの役割が理解できる。
- ・ゼミナールでの研究方法について理解できる。
- ・研究の手順が理解できる。
- ・自分がめざす保育者像を持つことができる。
- ・保育や子どもを巡って、どのようなことが起り、問題になっているかについて学ぶことで関心を深める。

履修のルール

- ・課題については、当日までにやり遂げる
- ・自分の意見や考えをもって、ゼミに参加する。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

- ・その都度、直接指導、連絡する。
- ・子どもや保育に関するニュース等に関心を持ち、自分なりに理解できるように取り組む。

課題に対するフィードバックの方法

面談で知らせる。

授業計画

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. (プレゼミ) 大学での履修とは。大学での講義の受け方
～ノートを取るには～ 2. 目指す夢は同じ
～大学での夢を語り合う(各プレゼミごとの自己紹介を通して)～ 3. 入学前課題の確認①
保育者に必要な国語、数学力を理解する 4. 入学前課題の確認②
幼児教育には欠かせない「絵本」を通して 5. 入学前課題の確認③
「保育者のイメージ」「保育者に必要な漢字」を通して
～保育者にとって必要な力とは～ 6. 入学前課題の確認④
自分の周辺にある「幼児教育施設」を理解する
～実習に関連して～ 7. 大学でのレポートと論文の違い～実際に経験することから～ 8. 大学での学びの方法～アクティブラーニング～ 9. マナー講座を通して①～社会人として必要な力を探る～ 10. マナー講座を通して②～実演を伴った各自の課題を知る～ 11. マナー講座を通して③～①②で経験したことをレポートにまとめる～ 12. グループワークによるプレゼンテーション力の向上 13. グループワークを通して仕上げたチーム別発表、自己評価 14. 専門ゼミを知る(2回生の研究テーマを聞く) 15. 専門ゼミを選択する(各自で見学、体験し、決定する) | <ol style="list-style-type: none"> 16. ゼミでの取組紹介と意見交換 17. 保育、子どもに関する関心事項について交流とそれに対する意見 18. 関心事項の発表と意見交流 1 児童虐待 19. 関心事項の発表と意見交流 2 子どもの貧困 20. 関心事項の発表と意見交流 3 単親世帯 21. 日本の保育制度について 1 幼児教育制度 22. 日本の保育制度について 2 保育制度 23. 初めての保育実習に向けて 24. 保育実習を終えて 25. 世界の保育制度について 1 欧米諸国 26. 世界の保育制度について 2 アジア諸国 27. 保育者の置かれている現状について 1 労働時間を中心に 28. 保育者の置かれている現状について 2 待遇を中心に 29. 保育者と保護者との関係について 30. 1年のまとめと2回生への課題、抱負 |
|--|--|

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・課題に対する取組、提出課題、発表等を総合的に評価する。

教科書等

- 教科書等
なし

● 参考書

ゼミの時間に随時紹介する。

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	反転授業	◎ ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
◎ 学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

- ・特に設けないが、随時受け付ける。

実務経験

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

ゼミナール I

大浦 知加

MS1E

単位	演・2	回数	30
年次 学期	1年・通		[保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

○ 1.情熱・使命感・責任感	○ 2.知識・技術	◎ 3.探究・主体性	○ 4.人権・共感
----------------	-----------	------------	-----------

授業内容

● 目的と概要

【前期】 保育者を目指す学生に、大学での専門的な学び、技術の習得など養成校での学習全般を理解し、同時に大学生活へのスムーズな入り口として、教員によるプレゼミ担当となり、指導する。

【後期】 本ゼミは、それぞれの得意を活かした表現活動を創り上げて共有する、コラボレーションしていく過程を学ぶ。音楽を通した様々な表現方法のあそびを共有することで、人的環境となる保育者像を理解していく。

● 到達目標

【前期】 1) 大学での授業方法、受講に際する姿勢を理解できる。

2) 大学での授業の受講をし、定められた課題に対応できる。

【後期】 1) 自らを子どもたちの人的環境と認識して動くことができる。

2) 集団活動の中で、他者を受容し、自らの得意を認識し、協働しながら高め合うことができる。

3) 音楽を通した様々な表現活動の喜びを、他者と共有することができる。

履修のルール

- ・主体的に動く
- ・公平な視点で周りを見渡す
- ・対話的にコラボレーションする

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

- ・他者の立場に立ってものごとを考える。
- ・周りの環境をよく観察する。
- ・表現舞台、テレビ・ネット等での表現方法について考察する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内にフィードバックを行う。

授業計画

1. (プレゼミ) 大学での履修とは。大学での講義の受け方 ～ノートを取るには～	16. 専門ゼミ「音楽を通した表現コミュニケーション」について学ぶ(人的環境としての表現者とは)
2. 目指す夢は同じ ～大学での夢を語り合う(各プレゼミごとの自己紹介を通して)～	17. ゼミで表現したいことを発表 (役割り分担、内容について話し合う)
3. 入学前課題の確認① 保育者が必要な国語、数学力を理解する	18. 音楽療法・音楽あそびの体験をする
4. 入学前課題の確認② 幼児教育には欠かせない「絵本」を通して	19. 2回生と実習について意見交換会
5. 入学前課題の確認③ 「保育者のイメージ」[保育者に必要な漢字]を通して ～保育者にとって必要な力とは～	20. 音楽療法・音楽あそびを保育現場で行う方法を話し合う
6. 入学前課題の確認④ 自分の周辺にある「幼児教育施設」を理解する～実習に関連して～	21. 音楽療法・音楽あそびを保育現場で行う方法のロールプレイ
7. 大学でのレポートと論文の違い～実際に経験することから～	22. 和太鼓演奏の体験をする
8. 大学での学びの方法～アクティブラーニング～	23. 和太鼓を保育現場で行う方法を話し合う
9. マナー講座を通して①～社会人として必要な力を探る～	24. 和太鼓を保育現場で行う方法のロールプレイ
10. マナー講座を通して②～実演を伴った各自の課題を知る～	25. 研究課題について検討①(表現するというを考える)
11. マナー講座を通して③～①②で経験したことをレポートにまとめる～	26. 研究課題について検討②(集団活動、発表方法について考える)
12. グループワークによるプレゼンテーション力の向上	27. 研究課題について創作・練習①(リズム・ダンスについて)
13. グループワークを通して仕上げたチーム別発表、自己評価	28. 研究課題について創作・練習②(演じる演奏を考える)
14. 専門ゼミを知る(2回生の研究テーマを聞く)	29. 研究課題について創作・練習③(息を合わせる演奏を行う)
15. 専門ゼミを選択する(各自で見学、体験し、決定する)	30. 成果の発表と振り返り

音楽療法訪問で郊外ゼミ予定

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	授業の取り組み、意欲、姿勢、発表を総合評価する。

教科書等

● 教科書等

● 参考書

授業内で紹介する。

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	◎ 反転授業	◎ ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
◎ 学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	◎ 双方向アンケート	◎ その他:

オフィスアワー

お昼休み等(研究室)

実務経験

こども園・保育園へのリトミック、生活発表会指導者として勤務。音楽教室・幼児教室では合奏やオペレッタの舞台発表指導。長年、和楽器・管弦打楽器こどもオーケストラ、舞台発表等のイベントを主催、指導。自身も和太鼓やピアノによる舞台表現家であり、音楽療法訪問も行っている。

ゼミナール I

坂本 渉

MS1E

単位	演・2	回数	30
年次 学期	1年・通		[保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

<input type="radio"/> 1.情熱・使命感・責任感	<input type="radio"/> 2.知識・技術	<input checked="" type="radio"/> 3.探究・主体性	<input type="radio"/> 4.人権・共感
------------------------------------	-------------------------------	---	-------------------------------

授業内容

● 目的と概要

大学での学び方(ノートの取り方、講義の受け方、レポートの書き方、事前学習への取り組み方法など)を、全ゼミ同様に学んでいく。その後、各ゼミに分かれて、その専門分野に応じた学びを展開していく。大学でのゼミナールでの研究方法についても学んでいく。

● 到達目標

- ・大学でのゼミナールの役割が理解できる。
- ・ゼミナールでの研究方法について理解できる。
- ・研究の手順が理解できる。
- ・「遊び」の意義について理解できる。
- ・さまざまな「遊び」に参加できる。

履修のルール

演習授業に積極的に参加すること。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

予習: 課題に必要な文献検索や素材・用具の準備を行う。

復習: 授業内容を振り返り、整理し理解を深める。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説する。また、実践の振り返りについてはグループ討議を行う。

授業計画

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> (プレゼミ) 大学での履修とは。大学での講義の受け方
～ノートを取るには～ 目指す夢は同じ
～大学での夢を語り合う(各プレゼミごとの自己紹介を通して)～ 入学前課題の確認①
保育者が必要な国語、数学力を理解する 入学前課題の確認②
幼児教育には欠かせない「絵本」を通して 入学前課題の確認③
「保育者のイメージ」「保育者に必要な漢字」を通して～保育者にとって必要な力とは～ 入学前課題の確認④
自分の周辺にある「幼児教育施設」を理解する～実習に関連して～ 大学でのレポートと論文の違い～実際に経験することから～ 大学での学びの方法～アクティブラーニング～ マナー講座を通して①～社会人として必要な力を探る～ マナー講座を通して②～実演を伴った各自の課題を知る～ マナー講座を通して③～①②で経験したことをレポートにまとめる～ グループワークによるプレゼンテーション力の向上 グループワークを通して仕上げたチーム別発表、自己評価 専門ゼミを知る(2回生の研究テーマを聞く) 専門ゼミを選択する(各自で見学、体験し、決定する) | <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション:ゼミ概要説明 進路面談(1) / 自己紹介カードの記入 進路面談(2) / 身近な環境についての理解 遊びの検討① 0～2歳児の遊びについて 遊びの検討② 3～5歳児の遊びについて 遊びの検討③ 自然環境と遊び 遊びの検討④ 伝承遊び 遊びの検討⑤ ゲーム遊び 遊びの検討⑥ 制作遊び クリスマス制作 模擬保育実践参加(1) —1回生の指導案をもとに— 模擬保育実践参加(2) —2回生の指導案をもとに— ちよたんルームの壁面制作(1) 季節感のある保育環境 ちよたんルームの壁面制作(2) お誕生日表づくり ゼミナール発表会 |
|---|---|

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	授業への参加状況、受講態度による評価(70) 課題への取り組みやミニレポートの提出状況(30)

教科書等

● 教科書等

● 参考書

授業中に適宜紹介する。

アクティブラーニングへの取り組み

<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input checked="" type="checkbox"/> グループワーク
<input checked="" type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	<input type="checkbox"/> その他:

オフィスアワー

火・水・木・金の昼休み

実務経験

幼稚園教諭、主任教諭、また、保育所保育士として勤務。

ゼミナール I

東 景子

MS1E

単位	演・2	回数	30
年次 学期	1年・通		[保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

<input type="radio"/> 1.情熱・使命感・責任感	<input type="radio"/> 2.知識・技術	<input checked="" type="radio"/> 3.探究・主体性	<input type="radio"/> 4.人権・共感
------------------------------------	-------------------------------	---	-------------------------------

授業内容

● 目的と概要

- ・大学での学び方(ノートの取り方、講義の受け方、レポートの書き方、事前学習への取り組み方法など)を、全ゼミ同様に学んでいく。その後、各ゼミに分かれて、その専門分野に応じた学びを展開していく。大学でのゼミナールでの研究方法についても学んでいく。
- ・乳幼児が園生活を楽しめる様な簡単な人形や絵本制作を実施し、学生自身が創作活動を楽しみ、創意工夫する力を身に付ける事を目的とする。

● 到達目標

- ・大学のゼミナールの役割が理解できる。
- ・ゼミナールでの研究方法について理解できる。
- ・研究の手順が理解できる。
- ・表現したい対象やテーマを考え、簡単な人形と絵本制作ができる。
- ・絵本を楽しむ対象年齢を想像しながら制作する事が出来る。

履修のルール

特に絵の具画材を使用する回では、多少汚れても構わない服装かエプロン等を持参の上受講する事。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

予習: 事前に提示された課題について、創作のヒントとなる童謡や絵本、おはなしなどの参考資料を図書館やインターネットで調べて収集する。

復習: 提供した資料を整理しながら、次回に向けて質問事項をまとめる。

課題に対するフィードバックの方法

ゼミの話し合いの中で、毎回対面で指導を行う。

授業計画

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. (プレゼミ) 大学での履修とは。大学での講義の受け方
～ノートを取るには～ 2. 目指す夢は同じ
～大学での夢を語り合う(各プレゼミごとの自己紹介を通して)～ 3. 入学前課題の確認①保育者に必要な国語、数学力を理解する 4. 入学前課題の確認② 幼児教育には欠かせない「絵本」を通して 5. 入学前課題の確認③「保育者のイメージ」「保育者に必要な漢字」を通して～保育者にとって必要な力とは～ 6. 入学前課題の確認④
自分の周辺にある「幼児教育施設」を理解する～実習に関連して～ 7. 大学でのレポートと論文の違い～実際に経験することから～ 8. 大学での学びの方法～アクティブラーニング～ 9. マナー講座を通して①～社会人として必要な力を探る～ 10. マナー講座を通して②～実演を伴った各自の課題を知る～ 11. マナー講座を通して③～①②で経験したことをレポートにまとめる～ 12. グループワークによるプレゼンテーション力の向上 13. グループワークを通して仕上げたチーム別発表、自己評価 14. 専門ゼミを知る(2回生の研究テーマを聞く) 15. 専門ゼミを選択する(各自で見学、体験し、決定する) | <ol style="list-style-type: none"> 16. 専門ゼミ 簡単な人形作りで自己紹介
～課題とテーマについて～ 17. 童謡の紹介 登場人物の人形制作① 18. おはなしの紹介 登場人物の人形制作② 19. 完成作品交流 20. 絵本の紹介 作りたい絵本のイメージを考える 21. 絵本の構想 参考資料を基に絵本の内容を考える 22. 意見交流とグループ制作 ページ分担と複製① 23. 意見交流とグループ制作 ページ分担と複製② 24. 意見交流とグループ制作 ページ分担と複製③ 25. 表紙作り 下絵を考える～試し① 26. 表紙作り 下絵制作② 27. 表紙作り 下絵制作～仕上げ③ 28. 製本作り グループで発表準備 29. 製本完成 グループで発表準備 30. ゼミ発表会 |
|--|--|

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	準備物、授業への取り組み姿勢、課題の作品や発表内容を総合的に評価する。

教科書等

● 教科書等

必要に応じてプリント資料を配布する。
購入の画材一式

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

<input checked="" type="radio"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="radio"/> 反転授業	<input type="radio"/> ディスカッション、ディベート	<input checked="" type="radio"/> グループワーク
<input checked="" type="radio"/> 学生によるプレゼンテーション	<input checked="" type="radio"/> 実習、フィールドワーク	<input type="radio"/> 双方向アンケート	<input type="radio"/> その他:

オフィスアワー

月火水金の昼休み、研究室

実務経験

小中学校の図画工作・美術と併設の特別支援学級の美術(非常勤講師・常勤講師)、社会人向けの生涯学習(木版画教室)講師

ゼミナール I

本田 和隆

MS1E

単位	演・2	回数	30
年次 学期	1年・通		[保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○ 1.情熱・使命感・責任感	○ 2.知識・技術	◎ 3.探究・主体性	○ 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

- ・大学での学び方（ノートの取り方、講義の受け方、レポートの書き方、事前学習への取り組み方法など）を、全ゼミ同様に学んでいく。
- ・保育者として社会問題について考える。
- ・保育に関わる社会問題を具体的な事例を交えて学ぶ。

● 到達目標

- ・大学でのゼミナールの役割が理解できる。
- ・ゼミナールでの研究方法について理解できる。
- ・研究の手順が理解できる。
- ・身近なことから社会課題について理解できる。
- ・社会課題解決のためのアイデアを出すことが出来る。

履修のルール

常に、自分の身の回りで起きていること、社会で起きていることに興味を持っておくようにしましょう。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

授業で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業時に確認する。

授業計画

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. (プレゼミ) 大学での履修とは。大学での講義の受け方～ノートを取るには～ 2. 目指す夢は同じ
～大学での夢を語り合う（各プレゼミごとの自己紹介を通して）～ 3. 入学前課題の確認①
保育者に必要な国語、数学力を理解する 4. 入学前課題の確認②
幼児教育には欠かせない「絵本」を通して 5. 入学前課題の確認③
「保育者のイメージ」「保育者に必要な漢字」を通して～保育者にとって必要な力とは～ 6. 入学前課題の確認④
自分の周辺にある「幼児教育施設」を理解する～実習に関連して～ 7. 大学でのレポートと論文の違い
～実際に経験することから～ 8. 大学での学びの方法～アクティブラーニング～ 9. マナー講座を通して①～社会人として必要な力を探る～ 10. マナー講座を通して②～実演を伴った各自の課題を知る～ 11. マナー講座を通して③～①②で経験したことをレポートにまとめる～ 12. グループワークによるプレゼンテーション力の向上 13. グループワークを通して仕上げたチーム別発表、自己評価 14. 専門ゼミを知る（2回生の研究テーマを聞く） 15. 専門ゼミを選択する（各自で見学、体験し、決定する） | <ol style="list-style-type: none"> 16. 福祉ゼミでの学び①
－これまでのゼミ活動 17. 福祉ゼミでの学び②
－学生の問題関心 18. 児童福祉施設の意義と課題①
－実習に向けた学び 19. 児童福祉施設の意義と課題②
－実習報告（障がい児・者系） 20. 児童福祉施設の意義と課題③
－実習報告（社会的養護系） 21. 子ども家庭福祉の動向①
－少子化対策、保育制度改革など 22. 子ども家庭福祉の動向②
－児童虐待、子どもの貧困問題など 23. ゼミ発表会テーマの検討と文献探索 24. ゼミ発表会の方法について～パワーポイント、出典など 25. グループ指導①～先行研究の検討 26. グループ指導②～結論と根拠の確認 27. グループ指導③～発表資料作成 28. 卒業論文発表①～全体指導 29. 卒業論文発表②～全体指導 30. まとめグループの成果と春休みの課題について |
|--|--|

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	試験は実施しない。
レポート	0	期末レポート提出は求めない。
その他	100	グループワーク、ディスカッションに対する取組、ゼミ発表会における成果物等を総合的に評価する。

教科書等

● 教科書等

なし

● 参考書

・随時紹介する。

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	反転授業	◎ ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
◎ 学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	◎ 双方向アンケート	◎ その他:

オフィスアワー

随時、受け付ける。

実務経験

ゼミナール I

宮本 直美

MS1E

単位	演・2	回数	30
年次 学期	1年・通		[保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

<input type="radio"/> 1.情熱・使命感・責任感	<input type="radio"/> 2.知識・技術	<input checked="" type="radio"/> 3.探究・主体性	<input type="radio"/> 4.人権・共感
------------------------------------	-------------------------------	---	-------------------------------

授業内容

● 目的と概要

【前期】 保育者を目指す学生に、大学での専門的な学び、技術の習得など養成校での学習全般を理解し、同時に大学生活へのスムーズな入り口として、教員によるプレゼミ担当となり、指導する。

【後期】 本ゼミは、子どもの発達に関わる援助や支援について自分のテーマを各自が設定して探求する。「自ら学ぶ」「互いに学び合う」を重要視する。積極的に感想や意見を交換し、ゼミでの学びを深める。

● 到達目標

【前期】 1) 大学での授業方法、受講に際する姿勢を理解できる。

2) 大学での授業の受講をし、定められた課題に対応できる。

【後期】 1) 子どもの発達における援助や支援について、各自テーマを設定し探求する。

2) 学んだことについて実践したり、実際に調査したりしながら、何が明らかになったのか考察する。

3) 自ら学んだことについて、互いに発表しあい学び合う。

履修のルール

ゼミナールでは自分の考えを積極的に発言することが望ましい。

各自、子どもの発達や援助、支援について調べたり、発達支援施設等見学を行うなど、自発的に活動することが望ましい。

予習・復習の方法「自主学習ガイド」

授業前に、各自が決めたテーマに沿った調査、調査報告書の作成を行う。各授業回ごとに行う。

学修準備時間の総合計は90時間。

課題に対するフィードバックの方法

レポートについては授業内、または授業後に説明を加え、フィードバックを行う。

授業計画

1. (プレゼミ) 大学での履修とは。大学での講義の受け方 ～ノートを取るには～	16. 本ゼミの趣旨について知る
2. 目指す夢は同じ ～大学での夢を語り合う(各プレゼミごとの自己紹介を通して)～	17. 本ゼミの趣旨に応じた各自の課題設定について発表
3. 入学前課題の確認①	18. 発表会の課題設定
4. 入学前課題の確認② 幼児教育には欠かせない「絵本」を通して	19. 発表会に向けての計画立案
5. 入学前課題の確認③ 「保育者のイメージ」「保育者に必要な漢字」を通して ～保育者にとって必要な力とは～	20. 発表会に向けての調査方法等の検討
6. 入学前課題の確認④ 自分の周辺にある「幼児教育施設」を理解する～実習に関連して～	21. 発表に向けての準備①レイアウト等詳細の決定
7. 大学でのレポートと論文の違い～実際に経験することから～	22. 発表に向けての準備②完成させる
8. 大学での学びの方法～アクティブラーニング～	23. プレ発表会
9. マナー講座を通して①～社会人として必要な力を探る～	24. 課題の発表会
10. マナー講座を通して②～実演を伴った各自の課題を知る～	25. 発表会の反省
11. マナー講座を通して③～①②で経験したことをレポートにまとめる～	26. 卒業レポートの構想発表会
12. グループワークによるプレゼンテーション力の向上	27. 卒業レポートの課題設定についての検討会
13. グループワークを通して仕上げたチーム別発表、自己評価	28. 各自の研究における具体的な方法についての発表
14. 専門ゼミを知る(2回生の研究テーマを聞く)	29. 各自の研究における具体的な方法についての検討
15. 専門ゼミを選択する(各自で見学、体験し、決定する)	30. 半期のまとめ(各自の研究テーマについて)

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	卒業レポートの構想や課題レポートの内容、授業への参加状況や態度等により総合的に判断する。

教科書等

● 教科書等

指定しない

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

<input checked="" type="radio"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="radio"/> 反転授業	<input type="radio"/> ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> グループワーク
<input checked="" type="radio"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="radio"/> 実習、フィールドワーク	<input type="radio"/> 双方向アンケート	<input type="radio"/> その他:

オフィスアワー

月・水のお昼休み

実務経験

ゼミナール I

森 大樹

MS1E

単位	演・2	回数	30
年次 学期	1年・通		[保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
<input type="radio"/> 1.情熱・使命感・責任感	<input type="radio"/> 2.知識・技術	<input checked="" type="radio"/> 3.探究・主体性	<input type="radio"/> 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

【前期】 保育者を目指す学生に、大学での専門的な学び、技術の習得など養成校での学習全般を理解し、同時に大学生活へのスムーズな入り口として、教員によるプレゼミ担当となり、指導する。

【後期】 本ゼミでは、保育の現場でコンピュータを活用することを一緒に考え、学ぶことを目的とする。下のテーマなどの幅広くコンピュータを活用した取り組みを行う。ひとつひとつの操作を覚えるだけでは良い作品はできない。何よりも大切なことは意欲と、その内容を表現するための柔軟な発想と工夫が必要である。ワードを使用してゼミアルバムの制作、パワーポイントを使用しての紙芝居、デジタルカメラやビデオカメラでの撮影手法や編集方法を学び、画像や映像の活用等を行う。作成したテーマ課題を授業時にプレゼンテーションし、相互学習をする。

● 到達目標

【前期】 1) 大学での授業方法、受講に際する姿勢を理解できる。

2) 大学での授業の受講をし、定められた課題に対応できる。

【後期】 目標は、コンピュータを使って、単に指示された内容の文書を正確に作成できるようになるだけでなく、自分で創意工夫を凝らした資料や作品も作成できるようになることである。また、ゼミとして、ひとつのことを共同で取り組む姿勢を養う。

履修のルール

授業に積極的に参加すること。グループワークを重視する。

予習・復習の方法「自主学習ガイド」

授業後には、授業時にできなかった課題を必ず最後まで完成させておくこと。また、授業時間内に完了した課題についても、もう一度復習し、学習内容を整理すること。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題に対して次回授業時に解説を行う。

授業計画

1. (プレゼミ) 大学での履修とは。大学での講義の受け方 ～ノートを取るには～	16. オリエンテーション
2. 目指す夢は同じ ～大学での夢を語り合う(各プレゼミごとの自己紹介を通して)～	17. ゼミアルバムの制作(1) 画像処理
3. 入学前課題の確認① 保育者に必要な国語、数学力を理解する	18. ゼミアルバムの制作(2) 効果
4. 入学前課題の確認② 幼児教育には欠かせない「絵本」を通して	19. 運動会メダル作成(1) 写真撮影
5. 入学前課題の確認③ 「保育者のイメージ」「保育者に必要な漢字」を通して ～保育者にとって必要な力とは～	20. 運動会メダル作成(2) 写真編集
6. 入学前課題の確認④ 自分の周辺にある「幼児教育施設」を理解する～実習に関連して～	21. 大学祭ビデオ撮影説明と練習
7. 大学でのレポートと論文の違い～実際に経験することから～	22. 大学祭ビデオ編集(1) 編集ソフトの使い方
8. 大学での学びの方法～アクティブラーニング～	23. 大学祭ビデオ編集(2) DVD オーサリング
9. マナー講座を通して①～社会人として必要な力を探る～	24. デジタルカメラの写真整理
10. マナー講座を通して②～実演を伴った各自の課題を知る～	25. 1回生終了制作指導(1) 音量調整
11. マナー講座を通して③～①②で経験したことをレポートにまとめる～	26. 1回生終了制作指導(2) タイトル挿入
12. グループワークによるプレゼンテーション力の向上	27. 1回生終了制作指導(3) レーベル・デザインと印刷
13. グループワークを通して仕上げたチーム別発表、自己評価	28. 1回生終了制作指導(4) データ書き込みとパッケージング
14. 専門ゼミを知る(2回生の研究テーマを聞く)	29. 1回生終了制作指導(5) パワーポイントでの発表準備
15. 専門ゼミを選択する(各自で見学、体験し、決定する)	30. ゼミ発表会

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	受講態度(40%)、課題等(60%)。課題への取り組み、授業態度を重視する。

教科書等

● 教科書等

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

<input checked="" type="radio"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="radio"/> 反転授業	<input checked="" type="radio"/> ディスカッション、ディベート	<input checked="" type="radio"/> グループワーク
<input checked="" type="radio"/> 学生によるプレゼンテーション	<input checked="" type="radio"/> 実習、フィールドワーク	<input type="radio"/> 双方向アンケート	<input type="radio"/> その他:

オフィスアワー

火曜～金曜の昼休み・森研究室(704)

実務経験

ゼミナール I

寄 ゆかり

MS1E

単位	演・2	回数	30
年次 学期	1年・通		[保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

- 1.情熱・使命感・責任感 ○ 2.知識・技術 ○ 3.探究・主体性 ○ 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

【前期】 保育者を目指す学生に、大学での専門的な学び、技術の習得など養成校での学習全般を理解し、同時に大学生活へのスムーズな入り口として、教員によるプレゼミ担当となり、指導する。

【後期】 本ゼミは、「音楽表現 アンサンブル」ゼミとして音楽表現の様々なあり方を考える。音楽=ピアノだけではない。1回生では、まず「自分が音楽を聴いてほっとする。」「歌うと元気が出る」とはどういうことか。実際に自身が体験することから始め、追求していく。

● 到達目標

【前期】 1) 大学での授業方法、受講に際する姿勢を理解できる。

2) 大学での授業の受講をし、定められた課題に対応できる。

【後期】 1) 提示された課題曲演奏(歌、合奏など)に、積極的に取り組める。

2) 演奏の幅を広げる(楽器の種類、音域、ジャンルなど)努力ができる。

3) 様々な音楽表現を追求することにより、幼児教育の場での音楽表現の方法を考えることができる。

履修のルール

音楽表現は技術力で「上手」「下手」と判断するのではない。取り組む姿勢と、「人に伝わる演奏をするためにはどうしたらよいか」を考えていく姿勢があることが重要である。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

事前に提示された課題については、必ず予習(曲の場合は練習)しておくこと。予習の方法は示しているが、わからない場合は放置せず、質問しながら到達できるようにしておく。

課題に対するフィードバックの方法

各自の課題については、できるだけ対面で個別に指導を行う。

授業計画

- | | |
|--|--|
| <p>1. (プレゼミ) 大学での履修とは。大学での講義の受け方
～ノートを取るには～</p> <p>2. 目指す夢は同じ
～大学での夢を語り合う(各プレゼミごとの自己紹介を通して)～</p> <p>3. 入学前課題の確認①</p> <p>4. 入学前課題の確認②
幼児教育には欠かせない「絵本」を通して</p> <p>5. 入学前課題の確認③
「保育者のイメージ」「保育者に必要な漢字」を通して～保育者にとって必要な力とは～</p> <p>6. 入学前課題の確認④
自分の周辺にある「幼児教育施設」を理解する～実習に関連して～</p> <p>7. 大学でのレポートと論文の違い～実際に経験することから～</p> <p>8. 大学での学びの方法～アクティブラーニング～</p> <p>9. マナー講座を通して①～社会人として必要な力を探る～</p> <p>10. マナー講座を通して②～実演を伴った各自の課題を知る～</p> <p>11. マナー講座を通して③～①②で経験したことをレポートにまとめる～</p> <p>12. グループワークによるプレゼンテーション力の向上</p> <p>13. グループワークを通して仕上げたチーム別発表、自己評価</p> <p>14. 専門ゼミを知る(2回生の研究テーマを聞く)</p> <p>15. 専門ゼミを選択する(各自で見学、体験し、決定する)</p> | <p>16. 専門ゼミ「音楽表現 アンサンブル」とは。ゼミでの夢を語り合う</p> <p>17. 歌唱から感じること①～選曲するために～</p> <p>18. 歌唱から感じること②～曲を歌ってみる。そこから感じること～</p> <p>19. 歌唱から感じること③～人に響く演奏をするには～</p> <p>20. 歌唱から感じること④～演奏して、気づいたこと～</p> <p>21. 歌唱から感じること⑤～気づいたことを、どう反映するか～</p> <p>22. 文献研究と歌唱、合奏①～幼児曲をもとに～</p> <p>23. 文献研究と歌唱、合奏②～幼児曲での合奏～</p> <p>24. 文献研究と歌唱、合奏③～ポップスの体験～</p> <p>25. 文献研究と歌唱、合奏④～ポップスのノリを深める～</p> <p>26. 文献研究と歌唱、合奏⑤～自分たちで合奏できる曲の選曲～</p> <p>27. 文献研究と歌唱、合奏⑥～合奏のパートを検討する～</p> <p>28. 文献研究と歌唱、合奏⑦～演奏する楽しさは～</p> <p>29. 文献研究と歌唱、合奏⑧～演奏を極めるには～</p> <p>30. 2回生に向けて、各自の研究課題を整理する。</p> |
|--|--|

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	各授業での課題と課題追求に取り組む姿勢、課題の達成度、チームでの曲への取り組み協力度など総合的に判断する。

教科書等

● 教科書等

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

○ PBL(課題解決型学習)	○ 反転授業	○ ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
○ 学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

(火)(水)(木)(金)の在室時

実務経験

音楽教室においては、3歳児からピアノ、エレクトーンまでの鍵盤指導及び管楽器、打楽器指導を中心としたアンサンブル教育も行う。また現役保育者に対する保育内容に関する実技講習などの研修を多く行っている。



講義要綱

幼児教育科 2 回生
2022 年度入学生

日本国憲法

森 征樹

LS1L

単位	講・2	回数	15
年次 学期	2年・春夏		[幼必]
学修準備時間			60

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○ 1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	3.探究・主体性	◎ 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

われわれの社会では、憲法の内容を分からなければ理解できない様々な問題が日々起こっている。この講義では、時事問題や過去の裁判例などの具体的な事例を取り上げ、現代社会における「憲法問題」をどのように読み解けばよいのかを考察する。さらに日本国憲法の基本的な構造と原理を学ぶことによって、現代社会の問題点について、自己の意見を論理的に主張する力を身につける。

● 到達目標

講義で扱う「憲法問題」、「人権問題」を考えるにあたって、最低限必要な知識を身につけるとともに、それらの問題に対して自分の意見を持って解決策を探り、自分の主張を的確に表現できるようにする。すなわち、最低限の暗記は必要だが、自身の主張を論理的に形成して(説得力のある)文章に記すようになることが大事である。

履修のルール

出席することは最低限の必要条件であり、積極的な授業への参加および予習・復習が必須である。授業で解説したところは、必ず教科書を読み込んで復習し、理解できていないところがないようにすること。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

教科書をよく読み、理解できないところを無くすようにすること。授業の中で言及する問題点について、自分の考えを持つようにすること。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーなどを使って講評する。

授業計画

1. ガイダンス／憲法とは何か
2. 人権とは何か／子どもの人権・外国人の人権
3. 新しい人権／プライバシー権・自己決定権
4. 法の下での平等／性差別とは
5. 表現の自由／なぜポルノは規制されるのか
6. 職業選択の自由(営業の自由)
7. 生存権／人間らしく生きるということ
8. 教育を受ける権利／誰が教育内容を決めるのか
9. 平和主義／戦争が起きないために何をする
10. 立法権／国会は何をするところか
11. 内閣／政府がしなければならないこと
12. 裁判所①／裁判の種類・内容
13. 裁判所②／司法審査制とは何か
14. 地方自治／住民投票で決着を!
15. 憲法改正／憲法は改正すべきなのか

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	80	筆記試験を行う。
レポート	0	
その他	20	受講態度、講義への参加姿勢、授業中課題、小テスト、など。

教科書等

● 教科書等

森英樹『大事なことは憲法が教えてくれる：日本国憲法の底力』
新日本出版社、¥1,760

● 参考書

南野森(監修)、開発社(編集)『10歳から読める・わかるいちばんやさしい日本国憲法』東京書店、¥1,408
曾我部真裕、横山真紀(編集)『スタディ憲法(第2版)』
法律文化社、¥2,750

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	反転授業	◎ ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	◎ 双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

授業開始前および終了後に質問等を受け付ける。

実務経験

英語 C

鯉坂 はるよ

LF2E

単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・春		
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

- | | | | |
|--------------|---------|----------|---------|
| 1.情熱・使命感・責任感 | 2.知識・技術 | 3.探究・主体性 | 4.人権・共感 |
|--------------|---------|----------|---------|

授業内容

● 目的と概要

[授業の目的]

四大編入を予定している学生の英語力養成を主な目的とする。過去の四大編入試験を解く中で、語彙力、文法知識を向上させ、長文読解力を身に付ける。

[授業の概要]

最初は自ら辞書を用いて、編入希望学部に合わせて英語試験問題を解いていく。解き方のコツを説明し、問題の解説も行い、復習小テストを行う。

● 到達目標

- ・英文法の知識が増えた。
- ・英文の長文読解の解き方を理解できた。
- ・語彙力が身についた。
- ・希望学部の英語試験問題傾向がわかった。

履修のルール

- ・GPA1.0以上を受講要件とする。
- ・四年制大学への編入学希望者は履修することが望ましい。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

振り返り小テストを行うので、学んだことを復習しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

小テストの後、解説を行う。

授業計画

1. 四大編入希望学部について、英語編入試験問題、四大編入までに身に付けておく英語の力
2. 社会福祉学部系の過去編入問題 文法・単語問題
3. 社会福祉学部系の過去編入問題 長文問題
4. 社会福祉学部系の問題の傾向、振り返り小テスト、解説
5. 教育学部系の過去編入問題 文法・単語問題
6. 教育学部系の問題の傾向、振り返り小テスト、解説
7. 教育学部系の過去編入問題 長文問題
8. その他の学部の編入問題の傾向、振り返り小テスト、解説、まとめ
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	編入試験過去問題を終えるごとに、振り返り小テストを行う。振り返り小テストを評価基準とする。

教科書等

● 教科書等

適宜プリント教材を配布する。

● 参考書

授業中に適宜紹介する。

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

火、水、木、金曜日の昼休み。研究室にて。

実務経験

英語 D

鯉坂 はるよ

LF2E

単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・冬		
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

1.情熱・使命感・責任感 2.知識・技術 3.探究・主体性 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

[授業の目的]

「英語C」に引き続き、四大編入を予定している学生の英語力養成を主な目的とする。過去の四大編入試験を解く中で、語彙力、文法知識を向上させ、長文読解力を身に付ける。

[授業の概要]

最初は自ら辞書を用いて、編入希望学部に合わせて英語試験問題を解いていく。解き方のコツを解説し、問題の解説も行い、復習小テストを行う。

● 到達目標

- ・英文法の知識が増えた。
- ・英文の長文読解の解き方を理解できた。
- ・語彙力が身についた。
- ・希望学部の英語試験問題傾向がわかった。

履修のルール

- ・GPA1.0以上を受講要件とする。
- ・四年制大学への編入学希望者は履修することが望ましい。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

振り返り小テストを行うので、学んだことを復習しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

小テストの後、解説を行う。

授業計画

1. 四大編入希望学部について、英語編入試験問題、四大編入までに身に付けておく英語の力
2. 社会福祉学部系の過去編入問題 文法・単語問題
3. 社会福祉学部系の過去編入問題 長文問題
4. 社会福祉学部系の問題の傾向、振り返り小テスト、解説
5. 教育学部系の過去編入問題 文法・単語問題
6. 教育学部系の問題の傾向、振り返り小テスト、解説
7. 教育学部系の過去編入問題 長文問題
8. その他の学部の編入問題の傾向、振り返り小テスト、解説、まとめ
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	編入試験過去問題を終えるごとに、振り返り小テストを行う。振り返り小テストを評価基準とする。

教科書等

● 教科書等

適宜プリント教材を配布する。

● 参考書

授業中に適宜紹介する。

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

火、水、木、金曜日の昼休み。研究室にて。

実務経験

コンピュータ・リテラシ C

森 大樹

LI2E

単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・秋		[幼選]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

1.情熱・使命感・責任感 2.知識・技術 3.探究・主体性 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

[目的] インターネットやメール、文書作成、プレゼンテーションなどコンピュータに対する情報活用能力は、将来の就業においても大切な要素のひとつである。さらに近年、各種情報がデジタル化された結果、デジタルカメラやクラウドなど、ICT環境の運用能力も必要とされるようになった。本科目では具体的な課題の演習を行い、これらの技能を自然と身に付け、同時に専門分野などへの応用ができる力を習得する。

[概要] 1年次に引き続き、ワードやパワーポイントの進んだレベルでの使い方や動画・音楽編集を学習する。作成したテーマ課題を授業時にプレゼンテーションし、相互学習をする。

● 到達目標

Windows や代表的なソフトウェアであるワード、エクセル、パワーポイントの操作方法を学び、様々なタイプの文書や表の作成がスムーズに出来るようになること。また単に例文通りに入力するだけでなく、全体の構成、体裁などについて各自が創意工夫し応用の利いた文書や表の作成、動画・音楽編集の基本ができるようになることを目標としている。

履修のルール

授業に積極的に参加すること。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

授業後には、授業時にできなかった課題を必ず最後まで完成させておくこと。また、授業時間内に完了した課題についても、もう一度復習し、学習内容を整理すること。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題に対して次回授業時に解説を行う。

授業計画

1. 音楽編集 (1) データの取り込みとトリミング
2. 音楽編集 (2) マルチトラック編集とエフェクト
3. パワーポイント演習 (1) 課題説明と制作
4. パワーポイント演習 (2) 発表
5. ポスター制作 (1) 課題説明
6. ポスター制作 (2) 課題完成と評価
7. 動画編集 (1) 課題説明とタイムライン
8. 動画編集 (2) タイムラインとエフェクト
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	授業への取り組み姿勢 (40%)、課題等 (60%)。

教科書等

● 教科書等

講義時に適宜紹介

● 参考書

講義時に適宜紹介

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
◎ 学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

火曜～金曜の昼休み・研究室 (704)

実務経験

体育理論

相奈良 律

LP1L

単位	講・1	回数	8
年次 学期	2年・秋		[幼必] [保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	◎	2.知識・技術	3.探究・主体性
		4.人権・共感	

授業内容

● 目的と概要

体育・スポーツについて講義および体験的活動(実技)を通して、教育者・保育者として健康と安全に関する知識を身につけることを目的とする。各回のテーマに基づき、講義を行い、生涯にわたって自らの健康の保持増進が図れるように理解を深める。また、子どもの発育発達をふまえてのイメージを膨らませ援助・指導に必要な知識や技能を習得する。

● 到達目標

自身の健康観や運動の重要性に気づき日常の実践活動に生かすことができる。子どもの発育発達の基礎を理解できるようになる。

履修のルール

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

授業時に配布するプリント等の資料を整理しておくこと。スポーツや体育・体力等に関する記事やニュース等を意識して読むようにすること。

課題に対するフィードバックの方法

課題等のフィードバックは、次時の授業冒頭で解説、説明する。筆記試験等は成績発表後に希望があれば開示、解説を適宜実施する。

授業計画

1. オリエンテーション、幼児体育の理論と現状、幼児の運動遊びの意義
2. 体育の歴史と文化、体育・遊びの概念
3. オリンピック・パラリンピック
4. 現代の健康づくりー栄養・運動・休養の視点からー
5. 現代の健康づくりー生活習慣の視点からー
6. 体力とは何か、体力トレーニング概論
7. 熱中症、スポーツ障害について
8. 運動指導の留意点と安全への配慮
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	70	到達目標に対応して筆記試験を行う。体育理論について用語の説明や自身の考えを問う。
レポート	0	
その他	30	授業時に提示した課題について取り組み状況や内容を総合的に評価する。

教科書等

● 教科書等

特に指定しない。必要に応じて適宜プリントを配布する。

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

授業時間前後。

実務経験

体育実技

相奈良 律

LP1P

単位	実・1	回数	15
年次 学期	2年・秋冬		[幼必] [保必]
学修準備時間			15

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	3.探究・主体性	4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

講義と実技を通して、身体運動に関する知識と実践のための方法や技術を身につけることを目的とする。学生自身が身体を動かす楽しさを体験する中で、子どもの発育発達をふまえてのイメージを膨らませ援助・指導に必要な知識や技術を習得する。また、保育者として必要な体力・運動能力の養成を図るために、運動遊びに加えて競技的なスポーツの実践を通して基礎技術の習得、ルールや特性について理解を深める。自らの健康の保持増進が図れるように理解を深めながら、心身のリフレッシュを図る。

● 到達目標

- 1) 各運動を安全かつ効果的に実施するための基本的な動きと基礎的な知識を理解する。
- 2) 技術の高低や得意不得意、好き嫌いにとらわれず、自分の持っている技術を活かして運動そのものを楽しめる能力を身につけることができる。
- 3) 運動やゲームを多く経験し、保育現場で実践できるように理解し、簡易的な運動やゲームを考案することができる。

履修のルール

- ・授業に際し、体調管理に努めること。
- ・授業時は、水分・汗ふきタオル・着替え・屋内屋外両方のシューズを常に用意しておくこと。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

- ・授業時に配布する資料を整理しておくこと。
- ・毎時、講義ノートに感想や気づきを記録する。
- ・授業内容に応じて、自宅等で練習するなど動きの確認をしておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

課題等のフィードバックは、次時の授業冒頭で解説、説明する。筆記試験等は成績発表後に希望があれば開示、解説を適宜実施する。

授業計画

1. オリエンテーション、アイスブレイキング
2. 「走」運動 (いろいろな鬼あそび)
3. 「投」運動 (基本動作の指導法、ボール運動)
4. 「跳」運動 (なわあそびの理論と実践)
5. 運動あそびの創作と発表 (グループワーク)
6. 器械運動① (マット運動の基本)
7. 器械運動② (とび箱の基本)
8. 器械運動③ (鉄棒運動の基本)
9. サーキットあそび
10. ニュースポーツ①ドッジビー
11. ニュースポーツ②ヘルスパレー
12. 表現運動 (キッズダンス、ダンス創作)
13. 運動会の理論と実践 (模擬運動会に向けた内容検討)
14. 模擬保育準備 (運動会)
15. 模擬保育実践 (運動会)・ふりかえり

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	①到達目標 1) に対応して実技試験を行う。 ②グループワークにおける発表や活動状況を評価する。 ③授業への取り組み姿勢を評価する。

教科書等

● 教科書等

特に指定しない。必要に応じて適宜プリントを配布する。

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

授業時間前後。

実務経験

小学校の現場で17年間にわたり体育の教科指導にあたった。また、野球、陸上、水泳については課外活動の指導を行い、陸上では全国大会に出場する選手を輩出した経験がある。

キャリアデザインⅡ

阪田 啓代

LC2L

単位	講・2	回数	15
年次 学期	2年・通*		
学修準備時間			60

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

◎ 1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	3.探究・主体性	4.人権・共感
----------------	---------	----------	---------

授業内容

● 目的と概要

「就職活動」とは単に働く会社(園、施設)を選ぶことではない。「正解」というものがない進路選択を、自らの生き方に照らし決断し決定するまでの探究的な活動である。本講義では、就職活動の具体的な準備と実践、様々な分野で活躍しているゲスト講師の話し等を通して、生涯を通じてのキャリア形成という視点をもちながら、進路を決定する力を身につける。

● 到達目標

- ・授業内で学んだことを日常生活で活用し、実践できる。
- ・卒業後の進路を考え、具体的な活動計画をたて、実践できる。
- ・進路決定および決定後の活動について、自身の考えを整理し、相談や報告ができる。

履修のルール

予習・復習の方法「自主学習ガイド」

予習、復習については授業内で指示する

課題に対するフィードバックの方法

課題(確認テストやレポート等)については、適宜授業の中で解説、講評する。

授業計画

1. オリエンテーション／就職活動とは何か
2. 卒業生の進路選択から学ぶ
3. 求人動向と求人の探し方ー就職フェアの歩き方ー
4. 働くことと労働契約
5. 実務実践①求人先へのアプローチの方法
6. 実務実践②履歴書、手紙の書き方
7. 実務実践③面接マナー
8. 実務実践④採用試験の模擬体験
9. 卒業後のキャリア形成①仕事を継続すること
10. 卒業後のキャリア形成②結婚・出産という転機
11. 卒業後のキャリア形成③同業他社・異業種への転職という転機
12. 研修の意味と心構え
13. 内定辞退ー早期退職防止のために一園長等の聞き取り調査よりー
14. 雇用に関する権利と義務ー労基法ー
15. まとめー私のキャリアデザインー

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	授業への取り組み姿勢、授業内課題、進学・就職活動の報告レポートなどで総合的に評価する

教科書等

● 教科書等

- ・プリント教材を配布
- ・進路就職ハンドブック

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

月～金 実習・キャリアサポート室にて随時

実務経験

2級キャリアコンサルタント技能士、国家資格キャリアコンサルタントとして、本学の進路指導を担当する部署で学生のキャリア支援を行っている。

保育内容の指導法(健康 I)

本山 司

MT1E

単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・春/夏		[幼必] [保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	◎	2.知識・技術	3.探究・主体性
			4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

現代社会の状況をふまえた幼児の心身の発達の知識 (ICT の活用含む)、その指導のための実践方法を学ぶ

● 到達目標

幼稚園教育要領等の領域「健康」のねらい及び内容の取扱いについて理解し、幼児の健やかな心と体を育てるための基本的な生活習慣や安全な生活、運動発達の特徴を理解し、適切な指導方法を身につける

履修のルール

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

- ・シラバスを参照し、事前にテキストを読んでおくこと。
- ・授業時に配布した資料を必ず整理し、まとめておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

課題等のフィードバックは、次時の授業冒頭で解説、説明する。筆記試験等は成績発表後に希望があれば開示、解説を適宜実施する。

授業計画

1. オリエンテーション、三法令から考える領域「健康」のねらい
2. 保幼小の連携・接続、領域「健康」の指導計画と評価
3. 保育内容「健康」の指導法①(運動あそび)
4. 保育内容「健康」の指導法②(生活習慣)
5. 現場における事故防止と安全管理の実際と理論
6. 保育計画のための ICT を用いた教材研究①
7. 保育計画のための ICT を用いた教材研究②
8. ICT を用いた教材研究プレゼンテーション、まとめ(最新動向)
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	50	筆記試験(50%)
レポート	0	
その他	50	学習のまとめの発表内容及び成果(50%)

教科書等

● 教科書等

1 回生時に購入した、「子どもの姿からはじめる領域・健康」を引き続き使用する。

● 参考書

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
◎ 学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

木曜日以外の昼休み(12:50~13:15)に研究室にて随時受け付ける。

実務経験

小学校教諭として17年間勤務し、保健体育や健康教育の指導経験がある。この経験をもとに教育、保育現場における健康の基本的な内容を指導する。

保育内容の指導法(人間関係)

茂野 仁美

MT1E

単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・冬		[幼必] [保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

1. 情熱・使命感・責任感 2. 知識・技術 3. 探究・主体性 4. 人権・共感

授業内容

● 目的と概要

子どもたちが他者と共に共通の目的に向かって、一緒に考え、工夫し、協力する育ちの体験を支える、領域「人間関係」の内容について学ぶ。発達や社会的背景を含め、子どもが人と関わる姿を読み取り理解し、より良い方向へ向かっていける援助を組み立てられる力をつけることを目指す。

● 到達目標

領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。
人間関係を通して培われる「非認知的能力」について理解する。
個々の子どもの人間関係における課題について、読み取る力を身につける。

履修のルール

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

授業内でのレポートや演習発表があるので、教科書をよく読むだけでなく、図書館を使用して関連の書籍を積極的に調べることを。

課題に対するフィードバックの方法

随時メールや Classroom を活用して行う。

授業計画

1. 非認知的能力と認知能力
2. 保育の基本と領域「人間関係」① 愛着や信頼関係
3. 保育の基本と領域「人間関係」② 仲間関係
4. 事例をとおして人間関係の育ちを読み解く①事例の分析
5. 事例をとおして人間関係の育ちを読み解く②分析の発表
6. ICTと人間関係
7. 「人間関係」の育ちの理解と評価
8. まとめ 非認知的能力を育む「人間関係」とは
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	授業内課題レポートと演習発表(グループワークでの態度や積極性も含む)100%

教科書等

● 教科書等

無藤隆・古賀松香『実践事例から学ぶ保育内容 社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」』北大路書房 ¥2,530(税込)
『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

● 参考書

田代和美・榎本眞実『演習 保育内容 人間関係—基本的事項の理解と指導法—』建帛社 ¥1,600 + 税

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	◎ ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
◎ 学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	◎ 双方向アンケート	◎ その他:

オフィスアワー

メールや Classroom を活用して随時

実務経験

幼稚園、保育所において、0歳から5歳児の各クラスでの勤務経験と、保育カウンセラーとして保育現場での子ども理解に関する助言の業務をもとに、指導する。

保育内容の指導法(環境)

坂本 渉

MT1E

単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・春		[幼必] [保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	◎ 2.知識・技術	3.探究・主体性	4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

子どもを取りまく様々な環境において、それらを生活やあそびに取り入れていく力を育むための知識を深め、領域「環境」にかかわる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につけることを目的とする。

● 到達目標

- 1) 領域「環境」の特性および子どもの体験との関連を考慮した教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。
- 2) グループワーク、制作等を通して環境構成および再構成する力を身につける。

履修のルール

ペアワークやグループワーク等に積極的に参加すること。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

予習：次回までに予習すべき内容と準備物について授業内で指示する。

復習：講義授業では配布プリント等の内容の整理、演習授業では実践の振り返りを行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説する。また、実践の振り返りについては個別に添削を行う。

授業計画

1. オリエンテーション／子どもの感性を育む
2. 環境構成と保育者の役割
3. 人とのかかわり—集団でのあそび—
4. 自然事象とのかかわり①生命の営みにふれる
5. 自然事象とのかかわり②風や空気を感じる
6. 自然事象とのかかわり③土や水にふれる
7. ものや道具とのかかわり①身近な素材を使ったあそび
8. ものや道具とのかかわり②科学あそび
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	70	筆記試験を行う。
レポート	0	
その他	30	授業内課題〔作品含む〕、課題発表、授業への参加状況

教科書等

● 教科書等

田宮 緑『体験する 調べる 考える 領域「環境」』
萌文書林 ¥2,200 (税込)

● 参考書

内角府・文部科学省・厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
チャイルド本社 ¥500+ 税

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

火・水・木・金の昼休み

実務経験

幼稚園教諭、主任教諭、また、保育所保育士として勤務。
この経験をもとに保育の基本を指導する。

保育内容の指導法(言葉Ⅰ)

坂本 渉

MT1E

単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・秋		[幼必] [保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	◎	2.知識・技術	3.探究・主体性
		4.人権・共感	

授業内容

● 目的と概要

領域「言葉」の指導基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を修得することを目的とする。

● 到達目標

- 1) 言葉の意義や機能について理解する。
- 2) 言葉に対する感覚を豊かにする実践方法を身につける。
- 3) 乳幼児にとっての児童文化財の意義について理解する。

履修のルール

ペアワークやグループワーク等に積極的に参加すること。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

予習：次回までに取り組むべき内容や課題について授業内で指示する。

復習：講義授業では配布プリント等の内容の整理、演習授業では実践の振り返りを行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説する。また、実践の振り返りについては個別に添削を行う。

授業計画

1. オリエンテーション／言葉の意義と機能
2. 言葉による伝え合いと文字の機能
3. 言葉の感覚を磨く遊び(0・1・2歳児)
4. 言葉の感覚を磨く遊び(3・4・5歳児)
5. 児童文化財の研究①絵本・紙芝居
6. 児童文化財の研究②手遊び・うた遊び
7. 児童文化財の研究③シアター系文化財
8. 模擬保育：児童文化財を活用した保育実践
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	70	筆記試験を行う。
レポート	0	
その他	30	授業内課題 課題発表、授業への参加状況

教科書等

● 教科書等

適宜プリント教材を配布する。

● 参考書

内角府・文部科学省・厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
チャイルド本社 ¥500+ 税

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

火・水・木・金の昼休み

実務経験

幼稚園教諭、主任教諭、また、保育所保育士として勤務。
この経験をもとに保育の基本を指導する。

保育内容の指導法(言葉Ⅱ)

坂本 渉

MT2E

単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・冬		[幼選] [保選]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	◎	2.知識・技術	3.探究・主体性
			4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

領域「言葉」の指導基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を修得することを目的とする。言葉Ⅱでは、言葉Ⅰでの学びを踏まえ、言葉の発達を理解したうえで、具体的な保育場面を想定しながら、言葉の指導法について実践的に学ぶ。

● 到達目標

- 1) 言葉の意義や機能について理解する。
- 2) 言葉に対する感覚を豊かにする方法を身につける。
- 3) 乳幼児にとっての児童文化財の意義について理解する。
- 4) 児童文化財をもとに教材づくりや実演をすることで、保育実践力を身につける。

履修のルール

ペアワークやグループワーク等に積極的に参加すること。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

予習：次回までに取り組むべき内容や課題、準備物について授業内で指示する。

復習：講義授業では配布プリント等の内容の整理、演習授業では実践の振り返りを行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説する。また、実践の振り返りについては個別に添削を行う。

授業計画

1. オリエンテーション／保育内容の指導法(言葉Ⅰ)を振り返る
2. 児童文化財の研究①ペープサート
3. 児童文化財の研究②言葉あそび
4. 児童文化財の研究③ストーリーテリング
5. 児童文化財の研究④文字を遊びに取り入れる
6. 児童文化財を用いた保育実践：立案
7. 児童文化財を用いた保育実践：①模擬保育／振り返り
8. 児童文化財を用いた保育実践：②模擬保育／振り返り
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	授業内課題〔作品含む〕(50%) 課題発表、授業への参加状況(50%)

教科書等

● 教科書等

適宜プリント教材を配布する。

● 参考書

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
チャイルド本社 ¥500+ 税

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	◎ ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

火・水・木・金の昼休み

実務経験

幼稚園教諭、主任教諭、また、保育所保育士として勤務。
この経験をもとに保育の基本を指導する。

保育内容の指導法(造形表現I)

東 景子

MT1E

単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・春		[幼必] [保選]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	3.探究・主体性	4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

- ・幼稚園教育要領（保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領）の領域「表現」のねらい及び内容について実践的に学ぶ。
- ・「表現」の中でも、造形表現を主体とした展開方法を身に付ける。
- ・主に子どもの発達年齢に応じた「はさみ」の制作と折り紙、絵の具を中心に行う。具体的には、同じ行事やテーマであっても、3歳児から5歳児の発達年齢に応じた作品例を提示し、実際に制作を行う。

● 到達目標

- ・幼稚園教育要領（保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領）の領域「表現」のねらい及び内容について理解する。
- ・造形表現の意義について理解する。
- ・発達年齢に応じた、はさみの使い方や折り紙の内容、絵の具の扱い方を理解し、保育現場で活用する力を身に付ける。
- ・幼児が造形表現で身につける力を理解し、小学校の図画工作とのつながりを理解する。

履修のルール

特に絵の具画材を使用する回では、多少汚れても構わない服装かエプロン等を持参の上受講する事。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

必要な道具と素材は告知するので、必ず事前に準備し持参する事。

課題に対するフィードバックの方法

作品鑑賞会の際にコメントをする、もしくは、課題とプリント返却時にメッセージを添える等の方法で行う。

授業計画

1. オリエンテーション／造形表現の意義—はさみの活動例—
2. 梅雨の制作（紫陽花と雨） 絵の具と折り紙制作①
3. 梅雨の制作（紫陽花と雨） はさみの制作～完成②
4. 夏の制作（海と山の生き物） 絵の具と折り紙制作①
5. 夏の制作（海と山の生き物） はさみの制作～完成②
6. 秋～冬の制作（どんぐり、トンボ） 絵の具と折り紙制作①
7. 秋～冬の制作（どんぐり、トンボ） はさみの制作～完成②
8. まとめ
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

折り紙は足りない色があれば各自で補充する事。

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	準備物、制作課題提出、作品制作意図のまとめプリントで評価する。

教科書等

● 教科書等

一年時購入済 槇英子『保育をひらく造形表現』萌文書林 ¥2,300 + 税
一年時購入済の画材一式 必要に応じてプリント資料を配布する。

● 参考書

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

各課題について確実に仕上げる。

実務経験

小中学校の図画工作・美術と併設の特別支援学級の美術(非常勤講師・常勤講師)、社会人向けの生涯学習(木版画教室)講師

保育内容の指導法(造形表現Ⅱ)

東 景子

MT2E

単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・冬		[幼必] [保選]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	3.探究・主体性	4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

保育内容と指導法(造形表現Ⅰ)で学んだ事を基にして学ぶ。

- ・幼稚園教育要領(保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領)の領域「表現」のねらい及び内容について実践的に学ぶ。
- ・「表現」の中でも、造形表現を主体とした展開方法を身に付ける。
- ・主に子どもの発達年齢に応じた「はさみ」の制作と折り紙、絵の具を中心に行う。具体的には、同じ行事やテーマであっても、3歳児から5歳児の発達年齢に応じた作品例を提示し、実際に制作を行う。

● 到達目標

- ・幼稚園教育要領(保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領)の領域「表現」のねらい及び内容について理解する。
- ・造形表現の意義について理解する。
- ・発達年齢に応じた、はさみの使い方や折り紙の内容、絵の具の扱い方を理解し、保育現場で活用する力を身に付ける。
- ・幼児が造形表現で身につける力を理解し、小学校の図画工作とのつながりを理解する。

履修のルール

特に絵の具画材を使用する回では、多少汚れても構わない服装かエプロン等を持参の上受講する事。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

必要な道具と素材は告知するので、必ず事前に準備し持参する事。
各課題について確実に仕上げる。

課題に対するフィードバックの方法

作品鑑賞会の際にコメントをする、もしくは、課題とプリント返却時にメッセージを添える等の方法で行う。

授業計画

1. 冬の制作(鬼) 絵の具と折り紙制作
2. 冬の制作(鬼のお面作り) クレパスと絵の具の制作
3. 春の制作(ひな祭り) 折り紙とはさみ制作①
4. 春の制作(ひな祭り) はさみの制作～完成②
5. 紙粘土制作おだんご、ひもづくりからの展開
6. 身近な資源で玩具制作
7. 一年の作品を綴じる
8. まとめ
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

折り紙は足りない色があれば、各自で補充する事。

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	準備物、制作課題提出、作品制作意図のまとめプリントで評価する。

教科書等

● 教科書等

一年時購入済 槇英子『保育をひらく造形表現』萌文書林 ¥2,300 + 税
一年時購入済の画材一式 必要に応じてプリント資料を配布する。

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

月火水金の昼休み、図工室か研究室

実務経験

小中学校の図画工作・美術と併設の特別支援学級の美術(非常勤講師・常勤講師)、社会人向けの生涯学習(木版画教室)講師

保育内容の指導法(音楽表現I)

大浦 知加 ほか

MT1E

単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・春夏		[幼必] [保選]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	3.探究・主体性	4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

- ・ 幼児の様々な表現方法を豊かにするための表現遊びとその環境構成を実践的に学ぶ。
- ・ 表現遊びの中でも、音楽を主体とした展開方法を身につける。
- ・ 表現遊びに必要な鍵盤演奏力の向上を目指す。
- ・ 鍵盤演奏を用いた音楽表現の指導法を習得する。
- ・ 鍵盤楽器以外の楽器や和太鼓の奏法を学びながら、保育に取り入れる指導法を学ぶ。
- ・ 音楽を取り入れた保育計画の立案について学ぶ。
- ・ よりよい保育計画案に改善できることを目指す。
- ・ 演奏を修得する上で必要な音楽理論も学ぶ。

● 到達目標

- ・ 幼稚園教育要領(保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領)の領域「表現」のねらい及び内容の取扱いについて理解する。
- ・ 音楽の側面から領域「表現」を捉え、その指導を展開できる。
- ・ 弾き歌いを用いた音楽表現活動を実施できる。
- ・ 鍵盤楽器以外、和太鼓等を用いた音楽表現活動を実施できる。

履修のルール

- ・ 音楽を使った身体遊びなども行うため、動きやすい服装で出席すること。
- ・ ピアノ練習のため、イヤホンを持参すること(スマホ等で使用しているものでよい)

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

- ・ 自分の指導法を確立できるようになるためにも、日常的に様々な方法を見つけられるような姿勢で周りを見るようにしましょう。
- ・ 弾き歌いは、日々の積み重ねが大切です。毎日、練習しましょう。

課題に対するフィードバックの方法

実技ミニチェックでは、その場で各自に応じた指導を返している。また、楽典、レポートなどは Classroom 等で各自の課題をコメントし、指導に活かしている。

授業計画

1. 領域「表現」のねらい及び内容の取扱い、幼小接続・学びの連続性における表現の発達を音楽の側面から理解する
2. こどもの音楽あそび—身体を通して表現する活動—①(リトミック等の表現)を取り入れた活動の体験
3. こどもの音楽あそび—身体を通して表現する活動—②(リトミック等の表現)を取り入れた活動を行う保育計画の立案
4. こどもの音楽あそび—身体を通して表現する活動—③(リトミック等の表現)を取り入れた活動を行う保育計画の実施
5. こどもの音楽あそび—モノとの対話から表現する活動—①(和太鼓等、楽器を使って)を取り入れた活動の体験
6. こどもの音楽あそび—モノとの対話から表現する活動—②(和太鼓等、楽器を使って)を取り入れた活動を行う保育計画の立案
7. こどもの音楽あそび—モノとの対話から表現する活動—③(和太鼓等、楽器を使って)を取り入れた活動を行う保育計画の実施
8. こどもの音楽あそび—モノとの対話から表現する活動—④(和太鼓等、楽器を使って)を取り入れた活動を行う保育計画の実施
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	50	実技試験(ピアノ・和太鼓、日常授業の取り組み状況も含む)
レポート	0	
その他	50	授業内で実施する実技ミニチェック、楽典ミニテストほか学習のまとめのレポート内容及び成果と取組状況

教科書等

● 教科書等

- 編著：神原雅之・鈴木恵津子『改訂 幼児のための音楽教育』教育芸術社 ¥2,200 (税込)
 編著：鈴木恵津子『改訂 うたっておどっておもちゃばこ1』教育芸術社 ¥2,420 (税込)
 編著：伊藤伸明『3つのコードで楽しく弾ける』ドレミ楽譜出版 ¥1,980 (税込)
 ※すべて1回生時の教科書を使用

● 参考書

平成29年度 幼稚園教育要領(最新版)、保育所保育指針(最新版)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)
 授業内で紹介する。

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	◎反転授業	ディスカッション、ディベート	◎グループワーク
◎学生によるプレゼンテーション	◎実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

お昼休み等(研究室)

実務経験

保育園・こども園・小学校・中学校・高校、専門学校音楽講師勤務の経験と、現場保育者や教員への音楽授業指導経験を生かした指導法を展開する。また長年、ヤマハ音楽教室等で3歳~大人までのピアノ演奏指導や、和楽器や管弦打楽器、様々な楽器による合奏やリトミック、音楽遊び等を行ってきた。自身も和太鼓やピアノによる舞台表現家である。

保育内容の指導法(音楽表現Ⅱ)

寄 ゆかり ほか

MT2E

単位	演・1	回数	8
年次学期	2年・秋		[幼必] [保選]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	◎	2.知識・技術	3.探究・主体性
			4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

- 保育内容の指導法(音楽表現Ⅰ)で学んだことをもとに、さらに
- ・ 幼児の様々な表現方法を豊かにするための表現遊びとその環境構成を実践的に学ぶ。
 - ・ 表現遊びの中でも、音楽を主体とした展開とその発展方法を身につける。
 - ・ 表現遊びに必要な鍵盤演奏力の向上を目指す。
 - ・ 様々な楽器を用いた合奏法を学ぶ。
 - ・ 情報機器を用いた保育計画の立案について学ぶ。
 - ・ よりよい保育計画案に改善できることを目指す。
 - ・ 演奏を修得する上で必要な音楽理論も学ぶ。

● 到達目標

幼稚園教育要領の領域「表現」のねらい及び内容の取扱いについて理解し、音楽の側面から表現を捉え、その指導計画立案、実施を通して、その指導法を身に付ける

履修のルール

- ・ 音楽を使った身体遊びなども行うため、動きやすい服装で出席すること。
- ・ ピアノ練習のため、イヤホンを持参すること(スマホ等で使用しているものでよい)

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

- ・ 自分の指導法を確立できるようになるためにも、日常的に音楽の様々な指導方法を見つけられるような姿勢で周りを見るようにしましょう。
- ・ 弾き歌いは、日々の積み重ねが大切です。毎日、練習しましょう。

課題に対するフィードバックの方法

実技ミニチェックでは、その場で各自に応じた指導を返している。また、楽典、レポートなどは Classroom 等で各自の課題をコメントし、指導に活かしている。

授業計画

1. 領域「表現」のねらい及び内容の取扱いにおける音楽表現の捉え方
2. 音楽の楽しさを様々な楽器から体験する
3. 様々な楽器の奏法を学ぶ(いい音色を鳴らす)
4. 保育現場での合奏を作る
5. 子どもと合奏する場合をイメージして合奏を完成させる
6. 音楽の楽しさを味わうことを目的とした保育計画のための情報機器を用いた教材研究
7. 合奏を発表による課題と成果を考える
8. 保育の中での行事における音楽表現のまとめ
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	40	実技試験及び筆記試験
レポート	0	
その他	60	授業内で実施する実技ミニチェック、楽典ミニテストほか学習のまとめのレポート内容及び成果と取組状況

教科書等

● 教科書等

- 編著：伊藤伸明『3つのコードで楽しく弾ける』、ドレミ楽譜出版社 ¥1,800 + 税
 編著：神原雅之・鈴木恵津子『改訂 幼児のための音楽教育』、教育芸術社 ¥2,200 (税込)
 編著：鈴木恵津子『改訂 うたっておどっておもちゃばこ 1』、教育芸術社 ¥2,420 (税込)
 ※すべて1回生時の教科書を使用

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	◎	反転授業	ディスカッション、ディベート	◎	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	◎	実習、フィールドワーク	双方向アンケート		その他:

オフィスアワー

お昼休み等(研究室)

実務経験

音楽教室においては、3歳児からピアノ、エレクトーンまでの鍵盤指導及び管楽器、打楽器指導を中心としたアンサンブル教育も行う。また現役保育者に対する保育内容に関する実技講習などの研修を多く行っている。

保育内容の指導法(総合表現)

大浦 知加

MT1E

単位	演・1	回数	15
年次 学期	2年・秋冬		[幼必] [保選]
学修準備時間			15

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	3.探究・主体性	4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

- ・三法令の領域「表現」のねらい及び内容の取り扱いについて、総合的な視点から理解する。
- ・「音楽」「言語」「身体」「造形」表現の学びの集大成として、こどもの表現の過程を理解する感性と表現力を養う。
- ・主体的に動き自分の得意な分野の力を伸ばし、対話的に他者とコラボレーションする力を育む。
- ・こどもたちの表現力を引き出し、見守り、援助することができる保育者を目指す。
- ・集団活動の中で主体的に動き協働する力や、周りを見渡す視野を養う。

● 到達目標

- ・劇作りのプロセスから、こどもが表現を獲得していく過程を理解する。
- ・見通しを立てて計画し、実行することができる。
- ・豊かな感性を養い、様々な表現力を身につける。
- ・他者とコラボレーションする力を身につける。
- ・集団活動の中で周りを見渡しながらか主体的に動くことができる。

履修のルール

- ・動きを伴うため、動きやすい服装と靴。
- ・創作時は各自「ホチキス、カッター、のり、マジック、色鉛筆」等を持ってくる。
- ・夏休みに、指示された昨年2年生劇発表動画を鑑賞しレポートを提出する。
- ・造形創作時は汚れても良い服装で。
- ・脚本係はPC要。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

- ・ダンス動画を観て参考にする。
- ・物語を読む、観る。
- ・舞台やテレビ、映画等での、役者の話し方や目線、動き方、話の起承転結を参考にする。
- ・造形創作が始まったら、休み時間や放課後等の空いている時間に制作をしても良い。

課題に対するフィードバックの方法

その場で、課題に応じた指導を返したり、補足説明をする。また、随時メールや Classroom を活用して行う。

授業計画

1. 領域「表現」のねらい及び内容の取扱いを総合的に理解する
2. 児童文化財を通した総合的表現発表の骨組みを話し合う(こどもたちに伝えるための表現方法について、クラス内でディスカッションを行い最良の方法を目指す)
3. 発表を支える児童文化財の特性を知り、創作する①(グループワーク)
4. 発表を支える児童文化財の特性を知り、創作する②(グループワーク)
5. 発表を支える児童文化財の特性を知り、創作する③(グループワーク)
6. 発表を支える音や身ぶり表現について探究する①(グループワーク)
7. 発表を支える音や身ぶり表現について探究する②(グループワーク)
8. 発表を支える音や身ぶり表現について探究する③(グループワーク)
9. コミュニケーションとして表現する方法を総合的に探究していく①(グループワーク)
10. コミュニケーションとして表現する方法を総合的に探究していく②(グループワーク)
11. コミュニケーションとして表現する方法を総合的に探究していく③(グループワーク)
12. 他クラスと劇発表を鑑賞し合い、意見交換をする
13. クラス毎にこどもに伝わる表現を話し合い改善し深めていく
14. 劇発表の振り返りと表現発表活動のまとめ
15. こどもたちと創作する劇について学ぶ

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	<ul style="list-style-type: none"> ・劇作りへの取り組み状況 ・夏休み中に昨年2年生の劇発表動画を鑑賞したレポート ・授業内ミニレポート、振り返りレポート ・創作劇発表への取状況状況(意欲・片付け含む) 上記を総合的に評価する。

教科書等

● 教科書等

平成29年度 幼稚園教育要領(最新版)、保育所保育指針(最新版)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)
 編著: 神原雅之・鈴木恵津子『改訂 幼児のための音楽教育』, 教育芸術社 ¥2,200(税込)
 編著: 鈴木恵津子『改訂 うたっておどっておもちゃばこ1』, 教育芸術社 ¥2,420(税込)
 ※すべて1年生時の教科書を使用

● 参考書

授業内で紹介する。

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	◎ 反転授業	◎ ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
◎ 学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	◎ 双方向アンケート	◎ その他: クラスで話し合い必要な材料を学生が用意・集計する

オフィスアワー

お昼休み等(研究室)

実務経験

こども園・保育園へのリトミック、生活発表会指導者として勤務。音楽教室・幼児教室では合奏やオペレッタの舞台発表指導。長年、和楽器・管弦打楽器こどもオーケストラ、舞台発表等のイベントを主催、指導。自身も舞台表現家である。

教育制度論

松浦 善満

MB1L

単位	講・2	回数	15
年次 学期	2年・秋冬		[幼必]
学修準備時間			60

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

- 1.情熱・使命感・責任感 ○ 2.知識・技術 3.探究・主体性 ◎ 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

教育制度に関する基礎的知識を身につけ、その仕組みを理解した上で現代的な課題に向き合い、主体的に解決できる力量を養う。また学校園が地域で果たすべき役割を理解し、その主体として活動できる力量を養う。

● 到達目標

教育制度の現状と課題を理解し、どのような学校園づくりをすすめるのか、自分なりの見解を表現することが出来る。具体的な教育行政の取り組みを理解し、今後の教育改革について提言することが出来る。

履修のルール

教職を志す受講生である点を鑑み、受講者間における問題意識や考え方について積極的な意見表明・交流を望む。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

各テーマ毎に授業の資料類を再読し、最終課題の作成に向けて自分なりの見解をまとめておくこと。また事前に配布する資料に関しては、目を通して予習しておくこと(それぞれ30分程度)。

課題に対するフィードバックの方法

次の課題が提起されるまでに提出物を添削し、授業内容に活かすかたちで返却して、授業内容の理解度を把握しながら進める。

授業計画

1. 教育制度の基本的理解
2. 教育法のしくみと学校園
3. 教育基本法からみる学校園
4. 教育委員会制度と地方教育行政
5. 教育行政からみる学校園の課題
6. 学校制度と経営
7. 教職員の制度
8. 地域に開かれた学校園づくり
9. 現代の教育改革をめぐる
10. 地方教育行政の取り組みに関する研究活動1
11. 地方教育行政の取り組みに関する研究活動2
12. 地方教育行政の取り組みに関する研究活動3
13. 研究活動に関する成果報告1
14. 研究活動に関する成果報告2
15. 研究活動に関する成果報告のまとめ

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	平常点20点。授業中に課す提出物30点。最終課題50点。平常点は積極的参加態度を中心に評価する。授業中に課す提出物は2種類。最終課題はグループ研究による調査活動の成果発表と感想文(自己評価等)で評価する。

教科書等

● 教科書等

特になし。毎回レジュメおよび資料を配布する。

● 参考書

授業中に適時、紹介する。

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
◎ 学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

水曜日の授業前後。7階研究室。

実務経験

特別支援教育・保育演習

宮本 直美

MB2E

単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・夏		[保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

1. 情熱・使命感・責任感 2. 知識・技術 3. 探究・主体性 4. 人権・共感

授業内容

● 目的と概要

障がいのある子どもの保育の計画を作成できるようになる。
個別支援及び子どもとのかかわりのなかで育ち合う保育実践について理解を深める。
障がいのある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。
障がいのある子どもの保育にかかわる現状と課題について理解する。

● 到達目標

障がい児保育の実際について理解する。
保護者や家族に対する援助の方法についてを理解する。
職員間の連携、関係諸機関との連携について理解する。
障がいのある子どもの保育にかかわる現状と課題について考察できる。

履修のルール

特別支援教育を履修済みとして授業を行う。様々な障がいの概要について理解しておくこと。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

初回の授業において全体の流れと到達目標について説明する。次回の講義までに、講義内容に対応する教科書の章を読み予習しておくこと。復習しておくべき課題については授業中に指示する。全30時間。

課題に対するフィードバックの方法

授業内及びC lassroomにて試験内容や回答について提示するので、各自確認し復習しておくこと。

授業計画

1. 「障がい」の概念と障がい児保育の概要
2. 発達障がいのある子どもへの支援の実際
3. 特別な配慮を要する子どもへの援助の実際
4. 療育現場における具体的な療育の取り組み
5. 個々の発達を促す生活や遊びの環境
6. 子ども同士のかかわりと育ち合い
7. 職員間の連携と協働
8. 就学相談と小学校との連携
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	授業への参加状況(グループ討議等)、ミニレポート、確認テスト、作成物等により総合的に評価する。

教科書等

● 教科書等

- ・1 回生科目、特別支援教育で使用したテキストを引き続き使用する。(尾野明美・小湊真衣・奥田訓子 編『特別支援教育・保育概論』萌文書林)
- ・副教科書 松井剛太・七木田敦 編著「実践事例を通して、具体的なかかわりを学ぶ 保育の特別支援教育」教育情報出版 ¥2,200
- ・画用紙・ラミネートフィルム等を用意すること

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

<input checked="" type="radio"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="radio"/> 反転授業	<input type="radio"/> ディスカッション、ディベート	<input checked="" type="radio"/> グループワーク
<input type="radio"/> 学生によるプレゼンテーション	<input checked="" type="radio"/> 実習、フィールドワーク	<input type="radio"/> 双方向アンケート	<input type="radio"/> その他:

オフィスアワー

月・木・金のお昼休み

実務経験

小学校現場において、特別支援教育コーディネーター及び通級指導教室担当者として、教育的なニーズのある児童への支援を行った。

保育方法論

石上 浩美

MB1L

単位	講・2	回数	15
年次 学期	2年・秋冬		[幼必] [保選]
学修準備時間			60

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

1. 情熱・使命感・責任感 2. 知識・技術 3. 探究・主体性 4. 人権・共感

授業内容

● 目的と概要

「幼稚園教育要領」などの改定にともない「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明記されたことをふまえて、保育者にはより専門的な知識と技能が求められるようになった。これをふまえ、保育5領域の具体的な指導方法、ICTを活用した保育計画の作成と実践について学修することが、この科目の大きな目的である。そして、公教育を担う保育者として適切な教育実践を行うことができるようになることをめざす。具体的には、アクティブ・ラーニング(AL)形式で様々なICTを活用した保育実践事例を紹介しながら、教育方法と技術に関する基礎を習得する。さらに、現代の保育課題を明らかにし、それらへの具体的な対処方法・方略を探究する。

● 到達目標

1. 保育内容5領域方に関する指導方法・技術について理解できる。
2. ICTを活用した保育方法・技術について理解できる。
3. 子どもの発達特性や集団特性に応じた「遊び」や「教材」を考案し実践・評価することができる。
4. 地域や家庭、異文化理解、小学校との連携の観点から保育方法、技術と支援について考察することができる。

履修のルール

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

予習：シラバスを参考に教科書指定ページの精読(60分)

復習：授業内容などを参考にノート整理・事後学修課題を行う。(60分)

※授業資料・課題提出はGoogle Classroomを活用する。

課題に対するフィードバックの方法

- ・ 授業時全体アナウンス
- ・ Google Classroom コメント

授業計画

	授業の目的・目標、内容、授業計画と評価観点・方法の説明
1. オリエンテーション	テキスト第1章
2. これからの時代における新しい幼児教育の可能性	テキスト第2章
3. 環境指導法	テキスト第3章
4. 造形指導法	テキスト第4章
5. 幼児教育における身体表現	テキスト第5章
6. 新しい時代を生きる子どもたちの音楽	テキスト第6章
7. 幼児期の生活と言葉の発達	テキスト第7章
8. 幼児の算数的活動	テキスト第8章
9. 幼児期における科学教育	テキスト第9章
10. 総合学習	テキスト第10章
11. 保育とICT	テキスト第11章
12. 外国にルーツを持つ子どもたち	テキスト第12章
13. 障害がある子どもたちの教育	テキスト第13章
14. 虐待経験の影響と求められる特別支援	テキスト第14章第15章
15. 保育計画・教育の方法と技術のまとめ	

予習(事前学修)を重視する。毎回指定されたテキストページを精読の上授業に参加すること。

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	60	筆記試験:60% 知識・理解の習熟度合いについて
レポート	0	
その他	40	毎回のミニレポート(Google Form)内容:40% 思考・判断・表現の独創性について

教科書等

● 教科書等

大浦賢治・野津直樹編著(2020)『実践につながる新しい幼児教育の方法と技術』ミネルヴァ 書房 (ISBN:9784623089642) ¥2,750

● 参考書

- ・ 文部科学省編 幼稚園教育要領解説(平成30年3月)フレーベル館 (ISBN9784577814475) ¥264
- ・ 厚生労働省編 保育所保育指針解説(平成30年3月)フレーベル館 (ISBN9784577814482) ¥352

アクティブラーニングへの取り組み

<input checked="" type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input checked="" type="checkbox"/> 反転授業	<input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input checked="" type="checkbox"/> グループワーク
<input checked="" type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

後日公表 メールおよびGoogle Classroomも常時活用

実務経験

乳幼児理解

茂野 仁美

MB1E

単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・春		[幼必] [保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

- | | | | |
|--------------|---------|----------|---------|
| 1.情熱・使命感・責任感 | 2.知識・技術 | 3.探究・主体性 | 4.人権・共感 |
|--------------|---------|----------|---------|

授業内容

● 目的と概要

乳幼児期の発達生涯の中で、短期間での劇的な変化を遂げる時期である。乳幼児期の発達課題についての学びを深め、現代の保育と保育を取り巻く問題の中での、乳幼児の理解について考察することを目的とする。

● 到達目標

乳幼児期の発達課題について習熟を深める。

現代の保育と保育を取り巻く問題の中での、乳幼児の理解を踏まえた援助や支援の概要について理解する。

履修のルール

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

演習の振り返りとして、理論と実践を結び付けられるよう、教科書をよく読むこと。

課題に対するフィードバックの方法

随時メールや Classroom を活用して行う。

授業計画

1. 保育における子ども理解
2. 子ども理解における発達の観点①遊びを通して
3. 子ども理解における発達の観点②おもちゃを通して
4. 保育における観察と記録の実際
5. 記録に基づく保育カンファレンス
6. 子どもの特別なニーズの理解と援助
7. 保育者と発達相談
8. 保護者理解と援助の基本
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	授業内課題レポート 60% 演習発表 (グループワークでの態度や積極性も含む) 40%

教科書等

● 教科書等

高嶋景子・砂上史子『新しい保育講座③子ども理解と援助』
ミネルヴァ書房 ¥2,420 (税込)

● 参考書

大浦賢治『実践につながる新しい保育の心理学』ミネルヴァ書房
¥2,200 + 税 (教育心理学で使用する教科書と同一のものです)

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
◎ 学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

メールや Classroom を活用して随時

実務経験

幼稚園、保育所において、0歳から5歳児の各クラスでの勤務経験と、保育カウンセラーとして保育現場での子ども理解に関する助言の業務をもとに、指導する。

教育相談

宮本 直美

MB1L

単位	講・1	回数	8
年次 学期	2年・冬		[幼必] [保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	◎ 3.探究・主体性	○ 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

保育者の業務が社会環境の変化を受けて、施設の子どもに対する保育からすべての子どもと保護者に対する子育て・子育て支援へと広がりを見せてきた。

そのような中で、保育者の専門性を活かした保育・教育相談の意味を理解する必要がある。子どもの発達状況に即しつつ、心理的特質や教育的課題を支援するために必要な基礎的事項を身に付け、子どもとその家庭を包括的に捉えた教育相談について理解できるようになることを目的とする。

● 到達目標

教育相談における心理学の基礎的な知識を身に付ける。

教育相談の意義と課題について理解するとともに、組織的な取り組みや連携の必要性についても理解する。

家族や家庭について、構成員の相互作用に注視しながら、一つのまとまりとして捉える視点を習得する。

履修のルール

授業時に指示する。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

予習については授業中に指示する。各自、授業で使用したプリントや授業ノート等を活用して復習しておくこと(全30時間)。

課題に対するフィードバックの方法

レポート課題や確認テストについては、後続の授業で解説する。

授業計画

1. 保育・教育相談の意義と基本的視点
2. 保育・教育相談の流れ・方法
3. 保護者との信頼関係を築くために(カウンセリングマインド)
4. 子どもの理解と親への支援の実際
5. 保育・教育相談を進めるための基本的な姿勢や技法①
6. 保育・教育相談を進めるための基本的な姿勢や技法②
7. 家族システムと教育相談
8. 保育者のメンタルヘルス
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	授業への参加状況(グループ討議等)、ミニレポート、確認テスト等により総合的に評価する。

教科書等

● 教科書等

スギ先生と学ぶ教育相談の基本 杉崎雅子 萌文書林 ¥1,870(税込)

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	◎ 双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

月・木・金の昼休み

実務経験

小学校現場で教育相談コーディネーターとして、保護者の教育相談を行った。

教育実習

板倉 史郎、本田 和隆 ほか

MB2T

単位	実・4	回数	
年次 学期	(1年夏)・ 2年夏		[幼必]
学修準備時間			

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

1. 情熱・使命感・責任感 ○ 2. 知識・技術 ◎ 3. 探究・主体性 ○ 4. 人権・共感

授業内容

● 目的と概要

- この実習は、幼稚園教諭2種免許を取得するための基礎及び応用的な実習である。実習を通じて、幼稚園教諭として必要な知識と技術を身につけ、教員としての資質を向上させることを目的としている。
- 教育実習では、幼稚園の教育活動に参加し、幼稚園教諭の業務と役割について実践的に学ぶ参加実習、教育活動にかかわる計画を立案し、部分実習、責任実習に参加する。また、そこでの実習指導者指導のもと、幼稚園教諭に必要な資質、技能を習得する。

● 到達目標

- 幼稚園の機能、社会的役割および幼稚園教諭の業務内容を理解する。
- 幼稚園教諭の姿から子どもとのかかわり方を理解する
- 子どもの発達に応じた関わり方を学ぶ
- 保育計画(保育指導案)の立案および実施できる
- 幼稚園教諭として必要な資質および知識、技術を身につける
- 幼児教育に対する考え方を深める

履修のルール

- 1 回生時「観察実習(1週間)」、2 回生時「本実習(3週間)」を行う。
- 事前指導の出席が4/5に満たない者については、本実習への参加を認めない。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

毎回提示される課題については、提出期日も含めて必ず行うこと

課題に対するフィードバックの方法

実習後に個人面談を行い、実習園の評価を開示したうえで、成果と課題について確認する。

授業計画

1. 実習ハンドブック 参照
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・実習施設による評価(75%) ・実習日誌(25%)

教科書等

● 教科書等

- 小櫃智子ほか『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,540(税込)
- 本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通) ¥750

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	◎実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

特に設けませんが、必要に応じて研究室を訪ねること。

実務経験

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

教育実習指導

板倉 史郎、本田 和隆

MB1E

単位	演・1	回数	15
年次 学期	(1年通)・ 2年春夏		[幼必]
学修準備時間			15

授業内容

● 目的と概要

本授業は、教育実習に参加するための事前・事後指導を行うことを目的とする。

講義、演習で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連づけ、子ども理解と豊かな実践力の基礎を養うこと、及び幼稚園の子どもを取り巻く環境を理解することを目的としている。幼稚園の現状の理解やそこで求められる保育者としての力量を高めるための講義、演習を行う。

● 到達目標

- ・幼稚園の教育活動を理解する
- ・幼稚園の制度的理解を深める
- ・幼稚園教諭として必要とされる保育の内容を学ぶ
- ・幼稚園教諭として求められる基礎的な知識・技能を学ぶ
- ・子どもの発達の基礎知識に基づき、保育計画（保育指導案）が作成できる
- ・実習記録が書けるようになる

履修のルール

- ・事前指導は4/5以上の出席が必須。欠席した場合は次回までに講義配付資料等を受け取りに行くこと（板倉研究室）
- ・実習手続きがされない、課題未提出の場合、実習を中止することがある
- ・全15回を2年間にわたって履修

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

毎時、提示される課題等は必ず行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

提出課題については評価を行い、必要に応じて修正、加筆することで改善を図らせる。

授業計画

1. オリエンテーション（教育実習とは）
2. 幼稚園の役割と機能、幼稚園教諭の職務の理解
3. 幼稚園の一日の流れ
4. 保育技術の習得
5. 教育実習の目標と課題（カード作成）
6. 実習記録の構成
7. 実習記録の記述方法
8. 参加・観察実習事前指導①～始めての実習に参加すること～
9. 参加・観察実習事前指導②～実習での自己課題の確認～
10. 実習振り返りによる自己課題の明確化①
11. 実習記録の改善点～本実習に向けて～
12. 教育実習の目標と課題（カード作成）
13. 教育実習事前指導①～本実習の理解～
14. 教育実習事前指導②～自己課題の確認～
15. 実習振り返りによる自己課題の明確化② まとめ

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・授業に取り組む姿勢（受講態度）(30%) ・授業における参加状況(15%) ・実習課題提出、到達状況(30%) ・実習後の振り返り、まとめ、報告(25%)

教科書等

● 教科書等

- ・小櫃智子ほか『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,400 + 税
- ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通) ¥750

● 参考書

授業内で紹介する

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	反転授業	◎ ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
◎ 学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	◎ 双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。

実務経験

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

保育・教職実践演習

板倉 史郎

MB2E

単位	演・2	回数	15
年次 学期	2年・秋冬		[幼必] [保必]
学修準備時間			60

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

- | | | | |
|--------------|---------|------------|---------|
| 1.情熱・使命感・責任感 | 2.知識・技術 | ◎ 3.探究・主体性 | 4.人権・共感 |
|--------------|---------|------------|---------|

授業内容

● 目的と概要

保育・教職に関する科目の学習及び保育実習、教育実習、学校外の活動などを通して、保育・教職に関する基礎的知識と技能が獲得できたかを確認し、保育・教職についての理解と職業意識を深める。

● 到達目標

- ・保育者、教育者として使命感、情熱を持つ姿勢が身についている。
- ・保育施設で働く上での社会性や対人関係能力について理解し、実践できる。
- ・子ども理解の意味を認識した上で、その取組方法について理解できている。

履修のルール

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

- ・配布する資料等を整理し、活用する。
- ・授業時に予習、復習について説明する。

課題に対するフィードバックの方法

講義で課すミニレポートに関しては、次回の講義で講評を行い、返却する。

授業計画

1. 科目「教職実践演習」が設けられた趣旨及び授業の目的と方法についてオリエンテーションを行う。
2. 学校の種類、教員の研修、服務など教員の使命感、責任感、教育的愛情に関する事項について教員としての職務を理解しているか。教職論の内容が定着しているかを確認の講義を行う。
3. 教員として必要な社会性や対人関係能力に関する事項について、教員の服務について多様な事例を取り上げ演習方式で学生参加の授業を行う。世代間、男女間、幼児・教員間、教員間の理解を深めるにはなにが必要か。行動特性の違いをどう把握するかについて理解を深める。
4. 現実の園や学校で生じている課題についてチームとして教員の協力・協働を深めるにはどのような態勢が必要か具体的な課題について議論し総括する訓練を行う。
5. 社会性や対人関係能力深めるため、自己紹介、父母への園の紹介(自己表現)、園児の父母の前で伝えたいことを話すために準備しておくことはなにかなどの役割演技(ロールプレイ)を行う。
6. 幼児、児童、生徒にはどのような発達上の特徴があるか。コミュニケーションをする上での留意点について幼児、児童、生徒理解や学級経営の視点から問答方式により理解を深める。
7. 教育実習参加者の報告、実習中で、失敗したこと、感激したことなど、強く意識したこと等を各自3分程度にまとめて発表する。2～6回までの内容再確認の小テストを行う。
8. 実習等を振り返り、身につけたい自分の課題を明らかにし、そのための方策を検討する。
9. 実習において遭遇した場面において、どのような対応が必要であったか検討する。
10. 子どもたちが置かれている現状について、いくつかの視点から検討し、深く学ぶ。
11. 保育施設や保育者が置かれている現状を確認し、保育者のやりがいを確認する。
12. 保・幼・小連携の必要性と取り組まれている事例、求められる実務について学ぶ。
13. 保育者に求められる専門性について、子ども、保護者、社会をキーワードに考える。
14. 保育者に求められる倫理について、普遍的な観点と現代的な観点から確認する。
15. 保護者対応の考え方について確認するとともに、基本的な姿勢について学ぶ。

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	授業への参加状況(40%)、各講義で課すミニレポート(40%)、最終レポート(20%)により総合的に評価する。

教科書等

● 教科書等

授業時に配布する。

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	◎ ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。

実務経験

学校現場において教育活動を行う中で、実践を通して様々な課題について取り組んできた。

社会的養護Ⅱ

本田 和隆

MW2E

単位	演・1	回数	15
年次 学期	2年・春夏		[保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	◎ 3.探究・主体性	○ 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

【授業の目的】

社会的養護Ⅰの講義で学んだ理論を踏まえ、家庭的養護・施設養護の具体的な実践内容と支援方法について理解を深める。5月には福祉施設実習を控えているので、実際の現場に立ってより学べるような準備をしておきたい。

【授業の概要】

社会的養護に係る児童を対象とした施設養護及び家庭的養護の実際を学ぶ。具体的には、児童の日常生活支援をはじめ、発達、教育、心理、治療、自立および家庭への支援方法と、そのための施設内外における連携方法について理解を深める。実際の事例やグループワークなどを通じて、必要とされる能力や技術の獲得、向上を目指すとともに、現場実践への具体的なイメージを持てるようにする。合わせて、社会的養護分野における保育士の専門性が果たす役割について考察する。

● 到達目標

- ・児童福祉施設（乳児院・児童養護施設・障害児施設・児童心理治療施設・児童自立支援施設）および里親家庭における養護の実際を、具体的にイメージすることが出来る。
- ・現場における課題遂行や問題解決のためのチーム・ワークの重要性と必要性を認識し、多様なメンバー構成においても、有意義な議論や協働作業を行うことが出来る。

履修のルール

5月の施設実習（実習指導や福祉施設実習）を意識して、どんなことを学んだ方が良いのか、実際の現場ではどんな役割が求められるのかについて深く考え、イメージして臨むこと。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

社会的養護Ⅰで使用した教科書を中心に予習・復習をすること。範囲については、授業時に確認する。また、授業内容に関わるニュースに関心をもっておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

都度、授業時に確認する。

授業計画

1. 社会的養護における子どもの理解
2. 施設養護の生活特性及び実際
3. 家庭養護の生活特性及び実際
4. 社会的養護における支援の計画と記録及び評価
5. 社会的養護に関わる専門技術
6. 養護内容の理解と施設実習の振り返り①
7. 養護内容の理解と施設実習の振り返り②
8. 社会的養護の課題と展望
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・本試験の評価方法は、①授業内のミニテスト（60%）、②授業参加状況や取り組み姿勢（40%）の合計点により総合評価する

教科書等

● 教科書等

芝野松次郎・新川泰弘・山川宏和編（2021）『社会的養護入門』ミネルヴァ書房。（1回生で購入済）

● 参考書

都度、紹介する。

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	◎ 反転授業	◎ ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
◎ 学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	◎ 双方向アンケート	◎ その他:

オフィスアワー

授業終了後、可能な限り対応する。

実務経験

子ども家庭支援の心理学

宮本 直美

MW1L

単位	講・1	回数	8
年次 学期	2年・秋		[保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	◎	2.知識・技術	3.探究・主体性
			4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

園などの施設で子どもに関わるうえで、子どもの発達に関する知識と共に、その子どもたちを取り巻く親なども含めた包括的な理解が求められる。この科目では、生涯にわたる発達について理解し、子どもだけではなく周りにいる大人や社会的背景を含めたうえでの子ども理解を目指す。

● 到達目標

親と子の生涯にわたる発達に関する基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性や発達課題等について理解する。
子どもの精神保健とその課題について理解する。

履修のルール

「教育心理学」「幼児と人間関係」で学んだ人とかかわりに関する発達についてよく復習し、理解したうえで受講すること。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

各会の授業内容に相当する教科書の該当箇所を事前に読んで、授業に参加すること。授業で使用したプリント等を活用して、復習しておくこと。復習課題の提出については授業中に指示する。全30時間。

課題に対するフィードバックの方法

授業内及びC lassroomにて試験内容や回答について提示するので、各自確認し復習しておくこと。

授業計画

1. 生涯発達の考え方と生涯発達から見た心の問題と家族
2. 乳幼児期から学童前期にかけての発達
3. 学童期後期から青年期にかけての発達
4. 成人期・老年期における発達
5. 子育てを取り巻く社会的状況
6. 子育ての経験と親としての育ち
7. 特別な配慮を必要とする家庭
8. 子どもの精神保健
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	40	筆記試験
レポート	0	
その他	60	授業への参加状況、授業中の振り返りや確認テストで評価する。

教科書等

● 教科書等

青木紀久代編『シリーズ知のゆりかご 子ども家庭支援の心理学』みらい ¥2,310(税込)

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	◎ 双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

月・木・金の昼休み

実務経験

子どもの食と栄養

人見 玲子

MW1E

単位	演・2	回数	23
年次 学期	2年・春秋冬		[保必]
学修準備時間			44

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

- | | | | |
|--------------|---------|----------|---------|
| 1.情熱・使命感・責任感 | 2.知識・技術 | 3.探究・主体性 | 4.人権・共感 |
|--------------|---------|----------|---------|

授業内容

● 目的と概要

栄養の基礎を理解し、「健康な食」とは何か、考える。
子どもの発達に合わせた食の支援を学び、調理実習で確認する。
食育について学ぶ。

● 到達目標

子どもの発達に応じた食の支援が行える。
食と栄養の知識を自身の健康管理に応用できる。
食育の重要性を理解して、子どもや保護者への支援が行える。

履修のルール

調理実習時はエプロン・ハンドタオルを持参すること

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

授業中配布する講義予定・演習ノートを参考に、あらかじめ教科書を読んでおく。(10分)
調理実習後は演習レポートを各自まとめておく。(20分)

課題に対するフィードバックの方法

演習ノート・演習レポートで理解度をチェックし、不足部分を授業で再確認する。

授業計画

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1. 子どもの食の現状と課題 | 16. 幼児期の食と栄養—不適切な離乳食から起こる問題 |
| 2. 栄養素の働きと代謝 | 17. 調理実習 (6) 幼児食 |
| 3. 妊娠期の栄養と授乳の支援 | 18. 調理実習 (7) 食物アレルギー |
| 4. 離乳の支援 | 19. 調理実習 (8) 間食 |
| 5. 幼児期の食と栄養 | 20. 調理実習 (9) 食育 |
| 6. 学童期・思春期の食と栄養 | 21. 栄養価計算と献立作成 |
| 7. 食育 | 22. 自由献立作成—幼児期のお弁当 |
| 8. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 | 23. 子どもの発達に合わせた食の支援 |
| 9. 食品の基礎知識と食品衛生 | 24. |
| 10. 調理実習 (1) 調乳 | 25. |
| 11. 離乳の支援—摂食機能と食べさせ方 | 26. |
| 12. 調理実習 (2) 生後5～6か月頃の離乳食 | 27. |
| 13. 調理実習 (3) 生後7～8か月頃の離乳食 | 28. |
| 14. 調理実習 (4) 生後9～11か月頃の離乳食 | 29. |
| 15. 調理実習 (5) 生後12～18か月頃の離乳食 | 30. |

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	50	年度末に筆記試験を行う。
レポート	0	
その他	50	授業時間内の小レポート・演習レポート 調理実習への参加姿勢 小レポート・演習レポート 40 演習に取り組む姿勢 10

教科書等

● 教科書等

小川雄二編著『子どもの食と栄養 第6版』建帛社 ¥2,970

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	◎グループワーク
学生によるプレゼンテーション	◎実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

実務経験

乳児保育Ⅱ

石上 浩美

MW2E

単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・夏		[保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

1. 情熱・使命感・責任感 2. 知識・技術 3. 探究・主体性 4. 人権・共感

授業内容

● 目的と概要

乳児保育Ⅰ既習内容をふまえ、乳幼児期の身体・認知・社会性などの発達特性についての理解・内容を確認する。また、実際の指導場面を想定した演習(乳児との接し方、排泄ケア・沐浴など)を通して、乳児の取り扱いについて理解し、保育者の役割や保育の意義について探求する。さらに、0歳児から2歳児の保育計画の作成・実践・評価についてPDCAサイクルを用いた知識の定着と保育技能の改善を図る。

● 到達目標

1. 乳幼児の発達過程や特性について言語的に説明・論述できる。
2. 養護と教育の一体性をふまえ、3歳未満児の生活や遊びと援助の方法および環境づくりについて考案できる。
3. 0歳から2歳児を対象とした計画の作成・模擬保育実践・評価を通して、自己評価・改善ができる。

履修のルール

2023年度開講「乳児保育Ⅰ」と共通テキストを用いる。
乳児保育Ⅰに関する内容は適宜テキストの精読・復習するのが望ましい。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

予習：シラバスを参考に教科書指定ページの精読(60分)
復習：授業内容などを参考にノート整理・事後学修課題を行う。(60分)
※授業資料・課題提出はGoogle Classroomを活用する。

課題に対するフィードバックの方法

- ・授業時全体アナウンス
- ・Google Classroom コメント

授業計画

1. オリエンテーション	授業の目的・目標、内容、授業計画と評価観点・方法の説明
2. 乳児保育における計画と記録	テキスト第14章
3. 0歳児保育の実践	テキスト第16章・沐浴演習
4. 1歳児保育の実践	テキスト第17章・遊びのワーク
5. 2歳児保育の実践	テキスト第18章・遊びのワーク
6. 心の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮	テキスト第19章
7. 長期的な指導計画と短期的な指導計画	テキスト第22章
8. 集団の指導計画と個別の指導計画・まとめ	テキスト第23章
9.	
10.	
11.	
12.	
13.	
14.	
15.	

予習(事前学修)を重視する。毎回指定されたテキストページを精読の上授業に参加すること。

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	60	筆記試験：60% 知識・理解の習熟度合いについて
レポート	0	
その他	40	毎回のミニレポート(Google Form)内容：40% 思考・判断・表現の独創性について

教科書等

● 教科書等

大浦賢治編著(2023)『実践につながる新しい乳児保育—ともに育ち合う保育の原点がここに—』ミネルヴァ書房 (ISDN:9784623094707) ¥2,640
(乳児保育Ⅰと共通テキスト)

● 参考書

- ・文部科学省編 幼稚園教育要領解説(平成30年3月) フレーベル館 (ISBN9784577814475) ¥264
- ・厚生労働省編 保育所保育指針解説(平成30年3月) フレーベル館 (ISBN9784577814482) ¥352

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	<input checked="" type="radio"/> 反転授業	ディスカッション、ディベート	<input checked="" type="radio"/> グループワーク
学生によるプレゼンテーション	<input checked="" type="radio"/> 実習、フィールドワーク	<input checked="" type="radio"/> 双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

後日公表 メールおよびGoogle Classroomも常時活用

実務経験

子育て支援

宮本 直美

MW1E

単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・春夏		[保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	◎ 3.探究・主体性	4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

保育士による子育て支援の特性や実践的な事項（支援の具体的内容・方法・技術、事例検討の実際など）について学び、保育の専門性を活かした子育て支援に関する実践力を養うことを目的とする。

● 到達目標

1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。
2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。

履修のルール

「子ども家庭支援論」の内容は学習済みであることを前提に授業を行う。
履修上の注意については、最初の授業時に指示する。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

今回の講義までに、講義内容に対応する教科書の章を読み予習しておくこと。復習しておくべき課題については授業中に指示する。全30時間。

課題に対するフィードバックの方法

レポート課題や確認テストについては、後続授業で解説する。

授業計画

1. 保育士が行う子育て支援の特性
2. 子育て支援の計画と環境構成
3. 子育て支援の具体的手段
4. 子育て支援の技術
5. 子育て支援の実際①保育所等における子育て支援
6. 子育て支援の実際②子どもの虐待の予防と対応
7. 子育て支援の実際③多様なニーズを抱える子育て家庭の理解と支援
8. 子育て支援の実際④要保護児童等の家庭に対する支援
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	授業の内容から課題を設定し、レポートを課す。到達目標の観点から評価を行う。授業への参加状況、ミニレポート、確認テスト等により総合的に評価する。

教科書等

● 教科書等

二宮祐子『子育て支援 15 のストーリーで学ぶワークブック』萌文書林
¥1,980 (税込)

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

月・木・金の昼休み

実務経験

保育実習Ⅰ（福祉施設）

板倉 史郎、本田 和隆 ほか

MW2T

単位	実・2	回数	
年次 学期	2年・春集		[保必]
学修準備時間			

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○ 1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	◎ 3.探究・主体性	4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

本実習は、保育士資格を取得するための実習である。実習を通じて保育士として必要な知識と技術を見につけ、保育士として必要な資質を向上させることを目的としている。

保育実習Ⅰ（福祉施設）では、福祉施設の活動に参加し、実習指導者の指導のもと、保育士の業務と役割について実践的に学ぶ。また、活動に関わる計画、子どもや利用者の発達に応じた関わり方を学ぶ。

● 到達目標

- ・ 児童福祉施設の機能、社会的役割および保育士の業務について理解する
- ・ 保育士の姿から利用者との関わり方の実際を学ぶ
- ・ 保育計画（自立支援計画）の立案を学ぶ
- ・ 保育士として必要な資質および知識・技術を身につける
- ・ 保育に対する考え方を深める

履修のルール

- ・ 保育実習指導Ⅰ（福祉施設）への事前指導の出席が4/5に満たない者については、本実習への参加を認めない。
- ・ 宿泊が伴う場合、宿泊費などは自己負担となる。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

実習に必要な手続きや書類は期限内に必ず実施、提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

実習後に個人面談を行い、実習園の評価を開示したうえで、成果と課題について確認する。

授業計画

1. 実習ハンドブック 参照
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・ 実習施設による評価 (75%) ・ 実習日誌 (25%)

教科書等

● 教科書等

- ・ 本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」（幼保共通）¥750
- ・ 小櫃智子ほか『幼稚園・保育所実習 パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,400 + 税

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

特に設けませんが、必要に応じて研究室を訪ねること。

実務経験

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

保育実習指導 I (福祉施設)

板倉 史郎、本田 和隆

MW1E

単位	演・1	回数	15
年次 学期	(1年秋冬)・ 2年春		[保必]
学修準備時間			15

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○ 1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	◎ 3.探究・主体性	4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

本授業は、保育実習 I (福祉施設) の参加するための事前・事後指導を行うことを目的とする。

講義、演習で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連づけ、子ども理解と豊かな実践力の基礎を養うこと、及び福祉施設を取り巻く環境を理解することを目的としている。福祉施設の現状の理解やそこで求められる保育者としての力量を高めるための講義、演習を行う。

● 到達目標

- ・実習の目的を理解し、実習課題を明確にする
- ・福祉施設の制度的理解を深める
- ・福祉施設を利用する利用者と家族の生活を理解し、必要とされる支援の概要を学ぶ
- ・保育士として求められる基礎的な知識、技能の活用方法を学ぶ
- ・利用者の発達の基礎知識に基づき、レクリエーション案が作成できる
- ・実習記録が書ける

履修のルール

- ・事前指導は 4/5 以上の出席が必須。欠席した場合は次回までに講義配付資料等を受け取りに行くこと (板倉研究室)
- ・実習手続きがされない、課題未提出の場合、実習を中止することがある

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

毎時、提示される課題等は必ず行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

提出課題については評価を行い、必要に応じて修正、加筆することで改善を図らせる。

授業計画

1. オリエンテーション (福祉施設実習とは)
2. 福祉施設実習の必要性
3. 実習目的を基にした実習生カードの指導、記入
4. 実習目的に基づく自己課題の明確化
5. ソーシャルスキルに関わる演習
6. 福祉施設実習記録の書き方①目標の立て方、記録の書き方を中心に
7. 福祉施設実習記録の書き方②考察の書き方を中心に
8. 保育計画指導案の立て方
9. 実習先の制度的理解
10. 福祉施設での保育士に必要とされる専門性
11. 実習に関わる演習①レクリエーションの指導について
12. 実習に関わる演習②日常生活での関わりについて
13. 実習直前指導
14. 実習の振り返りによる自己課題の明確化
15. 実習報告会

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・授業に取り組む姿勢 (受講態度) (30%) ・授業における参加状況 (15%) ・実習課題提出、到達状況 (35%) ・実習後の振り返り、まとめ、報告 (20%)

教科書等

● 教科書等

- ・小櫃智子ほか『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,540 (税込)
- ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通) ¥750

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	反転授業	◎ ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
◎ 学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。

実務経験

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

保育実習Ⅱ

板倉 史郎、本田 和隆 ほか

MW2T

単位	実・2	回数	
年次 学期	2年・夏集		[保選]
学修準備時間			

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

○ 1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	◎ 3.探究・主体性	4.人権・共感
----------------	---------	------------	---------

授業内容

● 目的と概要

本実習は、保育実習Ⅰ（保育所・福祉施設）の内容をふまえた応用実習である。乳児、障害児も対象とした、実習経験の集大成となる責任実習である。実習を通じ、保育士として必要な資質、技能を習得するだけでなく、家族や地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解、判断力を養い、子育てを支援するために必要な能力を養うことを目的としている。

● 到達目標

- ・保育士として必要な資質、技能を習得する
- ・子どもの発達に応じた教材選択ができる
- ・教材研究の姿勢を身につける
- ・保育計画（保育指導案）を立案、実施し、子どもの発達に応じた関わりだけでなく、子ども一人一人への配慮を考えることができる
- ・子ども家庭福祉ニーズを知り、子育て支援の実際を理解する
- ・子どもの最善の利益についての考察を深め、保育観を養う

履修のルール

- ・保育実習指導Ⅱへの事前指導の出席が4/5に満たない者については、本実習への参加を認めない。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

- ・実習に必要な手続きや書類は期限内に必ず実施、提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

- ・実習後に個人面談を行い、実習園の評価を開示したうえで、成果と課題について確認する。

授業計画

1. 実習ハンドブックほか 参照
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・実習評価 (75%) ・実習記録の内容 (25%)

教科書等

● 教科書等

- ・小櫃智子ほか『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,400 + 税
- ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」（幼保共通）¥750

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	◎実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

特に設けませんが、必要に応じて研究室を訪ねること。

実務経験

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

保育実習指導Ⅱ

板倉 史郎、本田 和隆

MW2E

単位	演・1	回数	15
年次 学期	2年・春夏		[保選]
学修準備時間			15

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○ 1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	◎ 3.探究・主体性	4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

【授業の目的】

本授業は、保育実習Ⅱに参加するための事前、事後指導を行うことを目的とする。

【授業の概要】

講義、演習で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連付け、子ども理解と豊かな実践力の応用を養うこと、子どもを取り巻く環境を子育て支援、地域支援の立場から観察し、保育実践を行う。

● 到達目標

- ・子どもの発達や成長を理解した実習記録が書ける。
- ・子どもの発達を見据えた指導計画案が立案できる。
- ・実習先の制度的理解、施設の役割が理解できる。
- ・子育て支援、地域支援の目的、目標が理解できる。
- ・保育者として必要な力を身に着けている。

履修のルール

- ・事前指導は4/5以上の出席が必須。欠席した場合は次回までに講義配付資料等を受け取りに行くこと(板倉研究室)。
- ・実習手続きがされない、課題未提出の場合、実習を中止することがある。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

毎時、提示される課題等は必ず行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

提出課題については評価を行い、必要に応じて修正、加筆することで改善を図らせる。

授業計画

1. オリエンテーション(保育実習Ⅱの位置づけと取組)
2. 実習目的に合わせた自己課題の明確化
3. 実習手続きと実習生カード作成
4. 保育者から見た実習日誌の書き方
5. 実習生に求められる力
6. 多角的に見る実習とその記録の書き方
7. 応用的な計画(保育案)の立案
8. 保育計画案の実施
9. 保育計画案の改善ポイント
10. 子育て支援と保育環境
11. 保育者に必要とされる専門性
12. 保育所の役割と地域支援
13. 実習直前指導
14. 実習の振り返りによる自己課題の明確化
15. 実習報告会まとめ

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・授業に取り組む姿勢(受講態度)(30%) ・授業における参加状況(15%) ・実習課題提出、到達状況(35%) ・実習後の振り返り、まとめ、報告(20%)

教科書等

● 教科書等

- ・小櫃智子ほか『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,400 + 税
- ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通) ¥750

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	反転授業	◎ ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
◎ 学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。

実務経験

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

保育実習Ⅲ

板倉 史郎、本田 和隆 ほか

MW2T

単位	実・2	回数	
年次 学期	2年・夏集		[保選]
学修準備時間			

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

<input type="radio"/> 1.情熱・使命感・責任感	<input type="radio"/> 2.知識・技術	<input checked="" type="radio"/> 3.探究・主体性	<input type="radio"/> 4.人権・共感
------------------------------------	-------------------------------	---	-------------------------------

授業内容

● 目的と概要

本実習は、保育実習Ⅰ（保育所）の内容をふまえた応用実習である。実習経験の集大成となる指導実習である。実習を通じ、福祉施設職員に必要な資質、技能を習得するだけでなく、家族や地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解、判断力を養い、子育てを支援するために必要な能力を養うことを目的としている。

● 到達目標

- ・保育士として必要な資質、技能を習得する。
- ・子どもの発達に応じた教材選択ができる。
- ・教材研究の姿勢を身につける。
- ・自立支援計画を立案、実施し、子どもの発達に応じた関わりだけでなく、子ども一人一人への配慮を考えることができる。
- ・子ども家庭福祉ニーズを知り、子育て支援の実際を理解する。
- ・子どもの最善の利益についての考察を深め、保育観を養う。

履修のルール

- ・保育実習指導Ⅲの出席が4/5に満たない者は実習への参加を認めない。
- ・課題は期日厳守で必ず行うこと。
- ・児童館実習を行うものは「児童館の機能と運営」「児童館の活動内容と指導法」を同時に履修すること。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

- ・実習に必要な手続きや書類は期限内に必ず実施、提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

- ・実習後に個人面談を行い、実習園の評価を開示したうえで、成果と課題について確認する。

授業計画

1. 実習ハンドブック 参照
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・実習施設による評価 (75%) ・実習日誌 (25%)

教科書等

● 教科書等

本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通) ¥750

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	◎実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。

実務経験

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

保育実習指導Ⅲ

板倉 史郎、本田 和隆

MW2E

単位	演・1	回数	15
年次 学期	2年・春夏		[保選]
学修準備時間			15

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

<input type="radio"/> 1.情熱・使命感・責任感	<input type="radio"/> 2.知識・技術	<input checked="" type="radio"/> 3.探究・主体性	<input type="radio"/> 4.人権・共感
------------------------------------	-------------------------------	---	-------------------------------

授業内容

● 目的と概要

【授業の目的】

本授業は、保育実習Ⅲに参加するための事前、事後指導を行うことを目的とする。

【授業の概要】

講義、演習で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連付け、子どもや障害者理解と豊かな実践力の応用を養うこと、および学童保育、障害者施設などを利用する利用者を取り巻く環境を理解することを目的としている。保育実習指導Ⅲでは、実施される保育実習Ⅲの実習のための事前・事後指導を行う。児童館や障害者施設での現状を理解し、そこで求められる保育の力量を高めるための講義・演習を行う。

● 到達目標

- ・保育実習Ⅲの内容に即した事前準備ができる。
- ・実習先の制度的理解、施設の役割が理解できる。
- ・学童保育や障害児・者施設の制度的理解を深める。
- ・学童保育、障害児・者施設を利用する利用者の背景も理解し、必要とされる支援の方法を模索できる。
- ・学んだ知識に基づき、保育計画やレクリエーション案が立案できる。

履修のルール

- ・児童館実習者は「児童館の機能と運営」「児童館の活動内容と指導法」を履修すること。
- ・本授業は、保育実習Ⅲに参加するための事前、事後指導を行う。事前指導は4/5以上の出席で保育実習Ⅲに参加できる。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

毎時、提示される課題等は必ず行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

提出課題については評価を行い、必要に応じて修正、加筆することで改善を図らせる。

授業計画

1. オリエンテーション（保育実習Ⅲの位置づけと取組）
2. 実習目的に合わせた自己課題の明確化
3. 実習手続きと実習生カード作成
4. ソーシャルスキルに関わる演習①グループディスカッション
5. ソーシャルスキルに関わる演習②実習に必要な力
6. 実習日誌（記録）の書き方
7. 実習日誌（記録）に必要なことを書くために
8. 応用的な計画（レクリエーション案や保育案）の立案
9. 実習先の制度的理解
10. 保育者に必要とされる専門性
11. 実習生として福祉施設で学ぶこと
12. 施設の役割と地域支援
13. 実習直前指導
14. 実習の振り返りによる自己課題の明確化
15. 実習報告会 まとめ

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・授業に取り組む姿勢（受講態度）(30%) ・授業における参加状況(15%) ・実習課題提出、到達状況(35%) ・実習後の振り返り、まとめ、報告(20%)

教科書等

● 教科書等

本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通) ¥750

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

<input checked="" type="radio"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="radio"/> 反転授業	<input checked="" type="radio"/> ディスカッション、ディベート	<input checked="" type="radio"/> グループワーク
<input checked="" type="radio"/> 学生によるプレゼンテーション	<input checked="" type="radio"/> 実習、フィールドワーク	<input type="radio"/> 双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。

実務経験

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

器楽活用法 I

寄ゆかり ほか

MW2L

単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・冬		[保選]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

- | | | | |
|--------------|---------|----------|---------|
| 1.情熱・使命感・責任感 | 2.知識・技術 | 3.探究・主体性 | 4.人権・共感 |
|--------------|---------|----------|---------|

授業内容

● 目的と概要

- ・保育に必要な音楽技術と知識、ピアノ等鍵盤楽器他、打楽器などの演奏法を習得する。幼児教育では、合奏や音楽あそびを多く取り入れるため、様々な楽器の演奏法を習得し、それぞれの楽器のリズム・配置・アレンジなどを工夫でき、幼児に指導できるようになることを目指す。

● 到達目標

- ・幼児保育における合奏・音楽遊びの指導が出来る。指導計画が立案できる。
- ・ピアノ習熟度に合わせた形で、弾き歌いコード伴奏のアレンジが出来る。

履修のルール

- ・「保育内容の指導法(音楽表現Ⅰ・Ⅱ)」受講済みであることが望ましい。
- ・楽器演奏の妨げとならないよう、爪は短く切っておく。

予習・復習の方法「自主学習ガイド」

- ・合奏曲などは、事前に自主練習をして授業に臨むこと。
- ・授業時に提示された課題は、必ず復習しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

課題レポート等については、個別指導を行う。また GoogleClassroom にて回答を行う。

授業計画

1. 幼児曲の合唱①(春) / 歌唱指導の指導計画面案
2. 幼児曲の合唱②(夏) / 音楽遊びの指導計画面案
3. 一段譜によるコード伴奏 / 音楽指導計画面案の実施
4. コード伴奏の変奏
5. 遊びの中の音楽①(楽器を使用しない)
6. 遊びの中の音楽②(ピアノを使用しない)
7. ピアノ弾き歌い、ヘッドアレンジによる合奏作成
8. ピアノ弾き歌い、合奏曲練習
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	60	実技試験(ソロ30点、グループ合奏30点・・・授業時の取り組み状況も含む)
レポート	0	
その他	40	ミニチェック、課題レポート等の取り組み状況、グループ活動への参加状況等総合的に判断する。

教科書等

● 教科書等

プリント等配付(貼付できるノートは各自で準備、毎回持参すること。)

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	◎ 反転授業	ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

随時

実務経験

ヤマハ音楽教室にて、アンサンブル指導を行う。

こども音楽療育演習

茂野 仁美

MA2E

単位	演・1	回数	8
年次 学期	2年・夏秋集		[保選]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

○ 1.情熱・使命感・責任感	◎ 2.知識・技術	3.探究・主体性	4.人権・共感
----------------	-----------	----------	---------

授業内容

● 目的と概要

- ・様々な楽器を演奏し音楽療育プログラム案の中で活用できる。
- ・手遊び、音楽身体遊び、歌唱を音楽療育プログラム案に取り入れ実践できる。
- ・音楽療育の対象者に合わせた音楽プログラムが作成できる。
- ・音楽療育の対象者に合わせた音楽プログラムが実践できる。

● 到達目標

- ・様々な楽器を演奏し音楽療育プログラム案の中で活用できる。
- ・手遊び、音楽身体遊び、歌唱を音楽療育プログラム案に取り入れ実践できる。
- ・音楽療育の対象者に合わせた音楽プログラムが作成できる。
- ・音楽療育の対象者に合わせた音楽プログラムが実践できる。
- ・音楽プログラムの作成と実践において、障がいの種別での配慮する点を理解している。

履修のルール

- ・本科目受講にあたっては、こども音楽療育概論の単位を習得済みであること。
- ・本科目は「こども音楽療育実習」と同時開講である。「こども音楽療育士」資格取得希望の学生は、両方とも受講すること。
- ・実際に障がいの子どもたちと関わる場合もあるので、体調管理には留意すること。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

- ・授業時には、演奏や教材研究などの課題を提示する。必ず行って、次の授業に臨むこと。
- ・グループワークも多いため、各人が提示された課題は必ず行っておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

随時メールや Classroom を活用して行う。

授業計画

1. はじめに
2. 音楽療育での楽器の活用法①—小物楽器を中心に
3. 音楽療育での楽器の活用法②—音楽療法用楽器
4. 手遊び・歌遊び・身体遊びを使用した発達援助の方法と実践
5. 障がい種別による音楽療育の方法
6. 発達援助をふまえた、音楽プログラムの作成
7. 障害児者施設での演習セッション①セッションの事前設営
8. 障害児者施設での演習セッション②セッションの実行と振り返り
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験		
レポート		
その他	100	・授業内でのグループ発表達成状況 (25%) ・授業時に提示する課題の提出状況と到達度 (25%) ・チームの一員としてのグループワーク (施設での演習) への取り組み状況 (50%)

教科書等

● 教科書等

授業時にプリントを配付する。

● 参考書

授業時に紹介する。

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

メールや Classroom を活用して随時

実務経験

障がい児のための音楽療法サークルの運営と実践のほか、小学校の支援学級に在籍の児童を対象に音楽療法のセッションを行ってきた。

こども音楽療育実習

大浦 知加

MA2P

単位	実・1	回数	15
年次 学期	2年・夏秋集		[保選]
学修準備時間			15

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

○ 1.情熱・使命感・責任感	○ 2.知識・技術	○ 3.探究・主体性	○ 4.人権・共感
----------------	-----------	------------	-----------

授業内容

● 目的と概要

- ・「こども音楽療育概論」で学んだ知識、技術を基礎として、音楽療育の実践を行い、必要な技法を習得する。
- ・「こども音楽療育演習」で学んで作成した様々な対象者に合わせて作成したプログラムをもとに、実践する。
- ・療育や保育現場において、発達を援助するための効果的な音楽の奏法を習得する。
- ・保育の現場での実習を行い、音楽による具体的な援助法を学び、自らの振り返りをおこなうことにより、実習を質の向上をはかる。

● 到達目標

- ・現場に合わせた音楽プログラムを作成することができる。
- ・現場にあわせた音楽プログラムを実施することができる。
- ・療育や保育現場における、発達を援助するための効果的な音楽奏法を用いることができる。
- ・プログラムを実施するための演奏技術を身につける。

履修のルール

- ・「こども音楽療育概論」の単位を履修済みであること。
- ・「こども音楽療育演習」を並行して受講すること。
- ・本科目では、実習前指導、実習、事後指導を含めた科目である。
- ・事前事後指導のみでの単位取得は不可。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

- ・授業時には、演奏や教材研究などの課題を提示する。必ず行って、次の授業に臨むこと。
- ・グループワークも多いため、各人が提示された課題は必ず行っておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業内にフィードバックする。また、随時メールや Classroom を活用して行う。

授業計画

1. 音楽療育の手順①(対象者と目標の査定)
2. 音楽療育の手順②(プログラムの作成)
3. 現場観察実習①—セッション全体構成を理解する—
4. 現場観察実習②—予想される子どもたちの行動から—
5. 改善案をもとにしたプログラム案を作成する
6. 作成したプログラムのロールプレイを行う
7. 音楽療育体験実習①(保育所・幼稚園—統合保育)—子どもの発達に応じた音楽療育の展開を学ぶ—
8. 音楽療育体験実習②(地域ワークショップ)—場に応じた音楽療育の展開を学ぶ—
9. 音楽療育体験実習③(地域ワークショップ)—音楽療法用楽器を用いた展開を学ぶ—
10. 音楽療育体験実習④(地域ワークショップ)—手遊び、身体遊びを使用した展開を学ぶ—
11. 音楽療育参加実習①(こども園—統合保育)—様々な年齢に応じた音楽療育の展開を学ぶ—
12. 音楽療育参加実習②(こども園—統合保育)—音楽療法楽器を用いた歌あそびの展開を学ぶ—
13. 音楽療育施設実習①(発達支援)—様々な発達に応じた音楽を通じた援助を学ぶ—
14. 音楽療育施設実習②(発達支援)—音楽療法楽器を用いた様々な発達援助に応じたセッションの実践—
15. 実習の振り返りと実習報告書作成

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・実習での参加状況(70%) ・プログラム・実習振り返りレポート(30%)

教科書等

● 教科書等

- ・音楽療育学外実習 一部、交通費自己負担

● 参考書

授業内で紹介する。

アクティブラーニングへの取り組み

○ PBL(課題解決型学習)	○ 反転授業	○ ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
○ 学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート	○ その他:

オフィスアワー

お昼休み等(研究室)

実務経験

音楽療法士として施設や病院への訪問演奏、障がいを持つ子どもへの音楽療法等を行っている。

ゼミナールⅡ

鯉坂 はるよ

MS2E

単位	演・2	回数	30
年次 学期	2年・通		[保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

<input type="radio"/> 1.情熱・使命感・責任感	<input type="radio"/> 2.知識・技術	<input checked="" type="radio"/> 3.探究・主体性	<input type="radio"/> 4.人権・共感
------------------------------------	-------------------------------	---	-------------------------------

授業内容

● 目的と概要

子どもの発達を踏まえながら、発達に沿った絵本やレクリエーションを考えることを目的とする。実習で、発達・年齢に応じてどのような絵本を読んだらよいか、どのような遊びがふさわしいか検討する。絵本について調べ、各自発表し、その内容について意見交換を行う。発達に沿った遊びについても調べ、グループで考え発表する。2年間の学びを基に、卒業制作として、絵本を作成し、卒業発表会で発表する。

● 到達目標

- 1) 発達に沿った絵本について理解する
- 2) 発達に沿ったレクリエーションについて理解する
- 3) グループワークにより、協調性が身に付いた。
- 4) 自分が考えたねらいに沿った絵本が卒業制作として作成できた

履修のルール

グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションに積極的に参加すること。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

発表する絵本やレクリエーションについて調べ、発表できるように準備すること。発表後、復習し、実習でどのような絵本を読み、遊びを行うか考えると共に、卒業制作でどのような絵本を作成するか考えること。

課題に対するフィードバックの方法

発表後、ディスカッションするとともに、コメントする。

授業計画

1. ガイダンス、卒業制作（絵本作成）について	16. 絵本の構想を練る
2. 発達に沿った絵本（0歳児） （プレゼンテーション、ディスカッション）	17. 絵本の登場人物を考える
3. 発達に沿ったレクリエーション（0歳児） （グループワーク、プレゼンテーション）	18. 絵本のストーリーを考える
4. 発達に沿った絵本（1歳児） （プレゼンテーション、ディスカッション）	19. 絵本の材料を考える
5. 発達に沿ったレクリエーション（1歳児） （グループワーク、プレゼンテーション）	20. 絵本の下書きを作成する
6. 発達に沿った絵本（2歳児） （プレゼンテーション、ディスカッション）	21. 絵本の構想を発表する（プレゼンテーション） 意見交換（ディスカッション）
7. 発達に沿ったレクリエーション（2歳児） （グループワーク、プレゼンテーション）	22. 絵本の構想の修正
8. 発達に沿った絵本（3歳児） （プレゼンテーション、ディスカッション）	23. 絵本の表紙作成
9. 発達に沿ったレクリエーション（3歳児） （グループワーク、プレゼンテーション）	24. 絵本の前半箇所作成
10. 発達に沿った絵本（4歳児）（ディスカッション）	25. 絵本の中盤箇所作成
11. 発達に沿ったレクリエーション（4歳児） （グループワーク、プレゼンテーション）	26. 絵本の後半箇所作成
12. 発達に沿った絵本（5歳児）（ディスカッション）	27. 絵本の裏表紙作成
13. 発達に沿ったレクリエーション（5歳児） （グループワーク、プレゼンテーション）	28. 卒業制作（絵本）の仕上げ
14. 発達に沿った絵本・レクリエーションの振り返り	29. 2年間の学び、卒業制作（作成した絵本）の振り返り
15. 卒業制作である絵本作成について考える	30. 卒業制作（作成した絵本）の発表（プレゼンテーション）

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	授業に取り組む姿勢、課題、卒業制作により、総合的に評価する。

教科書等

● 教科書等

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input checked="" type="checkbox"/> グループワーク
<input checked="" type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	<input type="checkbox"/> その他:

オフィスアワー

火、水、木、金のお昼休み。研究室にて。

実務経験

ゼミナールⅡ

石上 浩美

MS2E

単位	演・2	回数	30
年次 学期	2年・通		[保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
<input type="radio"/> 1.情熱・使命感・責任感	<input type="radio"/> 2.知識・技術	<input checked="" type="radio"/> 3.探究・主体性	<input type="radio"/> 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

1. 子どもの身体・認知・言葉の発達段階についての既習知識・技能を確認しながら、深化・探究する。
2. 子どもの発達段階・特性をふまえたオリジナル児童文化教材を協同で考案・作成する。
3. 子どもの発達段階・特性を踏まえたオリジナル児童文化教材を用いた実践計画を協同で作成・実践し、PDCA サイクルによる相互評価を行う。

● 到達目標

1. 乳幼児期の子どもの身体・認知・言葉の発達段階における特徴について説明できる。
2. 子どもの発達段階・特性をふまえたオリジナル児童文化教材を協同で考案・作成できる。
3. 子どもの発達段階・特性を踏まえたオリジナル児童文化教材を用いた実践計画を協同で作成・実践し、PDCA サイクルによる相互評価ができる。

履修のルール

協同の意義を意識しながら互いに協力する

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

- 予習：発達心理学の基礎知識確認・教材作成準備（60分）
 復習：授業内容をふまえた制作物のブラッシュアップ（60分）
 ※ Google Classroom を活用する。

課題に対するフィードバックの方法

- ・ 授業時全体アナウンス
- ・ Google Classroom コメント

授業計画

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：本ゼミナールの目的・計画・評価方法 2. 発達研究 (1) 身体・認知発達に関する基礎知識の確認 3. 発達研究 (2) 言葉・社会性発達に関する基礎知識の確認 4. 発達研究 (3) 障がいのある子どもの発達に関する知識の確認 5. 教材研究 (1) 先行研究内容調査（文献など） 6. 教材研究 (2) 先行研究内容調査（実践事例など） 7. 教材研究 (3) 先行研究内容報告（口頭発表） 8. 教材研究 (4) 先行研究内容報告をふまえたディスカッション 9. オリジナル児童文化教材研究 (1) 全体計画立案・グルーピング 10. オリジナル児童文化教材研究 (2) オリジナル教材づくりの準備① 11. オリジナル児童文化教材研究 (3) オリジナル教材づくりの準備② 12. オリジナル児童文化教材づくりの実践 (1) チーム演習 13. オリジナル児童文化教材づくりの実践 (2) チーム演習 14. オリジナル児童文化教材づくりの実践 (3) チーム演習 15. オリジナル児童文化教材づくりの実践 (4) チーム演習 | <ol style="list-style-type: none"> 16. オリジナル児童文化教材づくりの実践 (5) チーム演習 17. 中間発表：各チームによる口頭発表 18. オリジナル児童文化教材づくりの実践 (6) ブラッシュアップ① 19. オリジナル児童文化教材づくりの実践 (7) ブラッシュアップ② 20. オリジナル児童文化教材づくりの実践 (8) ブラッシュアップ③ 21. オリジナル児童文化教材模擬保育実践発表・相互評価 (1) 22. オリジナル児童文化教材模擬保育実践発表・相互評価 (2) 23. オリジナル児童文化教材模擬保育実践発表・相互評価 (3) 24. オリジナル児童文化教材を使った模擬保育実践発表リフレクション 25. ゼミナール発表会に向けて (1) ゼミナール発表会用ポスター制作 26. ゼミナール発表会に向けて (2) プレゼンテーション方法の検討 27. ゼミナール発表会に向けて (3) プレゼンテーション資料作成 28. ゼミナール発表会参加 29. ゼミナール発表会リフレクション 30. 総括—ゼミナールⅡを通して学んだこと |
|---|--|

- ・ 状況に応じて各回の順序・内容は変更することもあります。
- ・ オリジナル児童文化教材づくり材料費は個人負担（実費）です。
- ・ 身近にあるもの（材料）を活用してください。

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・ ミニレポート：30% ・ オリジナル児童文化教材を用いた模擬保育実践発表：30% ・ ゼミナール発表会プレゼンテーション内容：40%

教科書等

● 教科書等

資料など Gppgle Classroom にて共有

● 参考書

多数あるので適宜紹介

アクティブラーニングへの取り組み

<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input checked="" type="checkbox"/> グループワーク
<input checked="" type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向アンケート	<input type="checkbox"/> その他:

オフィスアワー

後日公表 メールおよび Google Classroom も常時活用

実務経験

ゼミナールⅡ

板倉 史郎

MS2E

単位	演・2	回数	30
年次 学期	2年・通		[保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

<input type="radio"/> 1.情熱・使命感・責任感	<input type="radio"/> 2.知識・技術	<input checked="" type="radio"/> 3.探究・主体性	<input type="radio"/> 4.人権・共感
------------------------------------	-------------------------------	---	-------------------------------

授業内容

● 目的と概要

- ・幼児教育を学んだ2年間の集大成として、各自の研究テーマに応じた卒業論文を作成するための研究を行、卒業論文にまとめる。
- ・保育者の資質や能力について、研究、検討し、進路に活かす。

● 到達目標

- ・研究することの意味を理解できる。
- ・自らの学びを論文で表現する力を身につけている。

履修のルール

各ゼミの専門研究を中心とし、進める。ゼミごとの計画については、授業時に説明する。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

- ・課題については、当日までにやり遂げる
- ・自分の意見や考えをもって、ゼミに参加する。

課題に対するフィードバックの方法

面談で知らせる。

授業計画

1. 今年度の計画と関心事項について	16. 夏休みの課題報告1 実習について
2. 卒業論文テーマについて	17. 夏休みの課題報告2 就職活動について
3. (卒業) 論文作成の方法と注意点	18. 卒業生の論文を読み、論文作成の参考にする
4. 論文の読み方、資料の検索方法	19. 保育・子どもを巡る状況の発表1 児童虐待、卒論作成
5. 初めての福祉施設実習について	20. 保育・子どもを巡る状況の発表2 子どもの貧困、卒論作成
6. 施設実習の振り返りと教育実習に向けて	21. 保育・子どもを巡る状況の発表3 単親世帯、卒論作成
7. 教育実習の振り返り	22. 保育施設の現状について1 一制度を中心に、卒論作成
8. 卒業論文テーマの掘り下げと骨子作成	23. 保育施設の現状について2 一子どもの実態を中心に、卒論作成
9. 卒業論文骨子の検討	24. 保育施設の現状について3 一保護者を中心に、卒論作成
10. 社会に出る意味と自己実現	25. 保育施設の現状について4 一保育者を中心に、卒論作成
11. 卒論テーマと方向性の発表とアドバイス会1 テーマ設定を中心に	26. 保育施設の現状について4 一世界に目を向けて、卒論作成
12. 卒論テーマと方向性の発表とアドバイス会2 資料収集について	27. 卒業論文のまとめ方 一考察とは、卒論作成
13. 卒論テーマと方向性の発表とアドバイス会3 考察に関する考え方	28. プレゼンテーションの意味と方法 一卒論発表に向けて、卒論作成
14. 最後の実習について	29. プレゼンテーションファイルの作成
15. 夏休みの課題について	30. 卒業論文発表

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	試験は実施しない。
レポート	0	期末レポート提出は求めない。
その他	100	・卒業論文、それに対する取組、卒論発表、提出課題等を総合的に評価する。

教科書等

- 教科書等
なし

● 参考書

- ・ゼミの時間に随時紹介する。

アクティブラーニングへの取り組み

<input checked="" type="radio"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="radio"/> 反転授業	<input checked="" type="radio"/> ディスカッション、ディベート	<input checked="" type="radio"/> グループワーク
<input checked="" type="radio"/> 学生によるプレゼンテーション	<input type="radio"/> 実習、フィールドワーク	<input type="radio"/> 双方向アンケート	<input type="radio"/> その他:

オフィスアワー

- ・特に設けないが、随時受け付ける。

実務経験

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

ゼミナールⅡ

大浦 知加

MS2E

単位	演・2	回数	30
年次 学期	2年・通		[保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

<input type="radio"/> 1.情熱・使命感・責任感	<input type="radio"/> 2.知識・技術	<input checked="" type="radio"/> 3.探究・主体性	<input type="radio"/> 4.人権・共感
------------------------------------	-------------------------------	---	-------------------------------

授業内容

● 目的と概要

- ・ 幼児教育を学んだ2年間の集大成として「和太鼓・劇・音楽あそび」等から全員で話し合った内容の表現発表研究を進める。
- ・ 最終的に、年度末に行う卒業発表会の形でまとめる。
- ・ 様々な表現方法の学びを通して、人的環境となる保育者像を明確にする。

● 到達目標

- ・ 研究することの意味を理解できる。
- ・ 自らをこどもたちの人的環境と認識し、様々な方法により表現する力を身につけている。
- ・ 他者を受容し、自らの得意を認識し、協働しながら高め合うことができる。
- ・ 集団活動の中で「公平な視野を持ち」「主体的に動き」「コラボレーション」することができる。

履修のルール

- ・ 主体的に動く
- ・ 公平な視点で周りを見渡す
- ・ 対話的にコラボレーションする

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

- ・ 他者の立場に立ってものごとを考える。
- ・ 周りの環境をよく観察する。
- ・ 表現舞台、テレビ等での表現方法について考察する。
- ・ 練習をする。

課題に対するフィードバックの方法

授業内にフィードバックする。また、随時メールや Classroom を活用して行う。

授業計画

1. ガイダンス・舞台表現、発表についての講義	16. 学園際への取組みを中心に(チーム別練習②改善を加えていく)
2. 音楽療法・音楽あそびを実践する方法を発表し合う	17. 学園際への取組みを中心に(全員で仕上げていく)
3. 音楽療法・音楽あそびプログラムを組み立てる	18. アリーナ舞台構成の検討と設置
4. 音楽療法・音楽あそびをロールプレイする	19. 1回生と実習について意見交換会
5. 音楽療法・音楽あそびプログラムを改善していく	20. ゼミ発表への取組み(総合表現的視点から舞台構成を話し合う)
6. 音楽療法・音楽あそびの実践を行う	21. ゼミ発表への取組み(役割分担を話し合う)
7. 和太鼓演奏の基本を学ぶ	22. ゼミ発表への取組み(チーム毎ディスカッションを行う)
8. 和太鼓演奏の体験(リズムを叩く)	23. ゼミ発表の取組み(構成に合った選曲をする)
9. 和太鼓演奏の体験(口唱歌でたたく)	24. ゼミ発表の取組み(チーム別練習①内容を創作する)
10. 和太鼓演奏の創作(口唱歌リズムを創作)	25. ゼミ発表の取組み(チーム別練習②合わせて演奏をする)
11. 和太鼓演奏の演習(チームで練習する)	26. ゼミ発表の取組み(チーム別練習③改善を加えていく)
12. 和太鼓演奏の実践発表を行う	27. ゼミ発表の取組み(全員で練習を重ねる)
13. 学園際への取組みを中心に(役割分担を話し合う)	28. アリーナ舞台構成の検討をする
14. 学園際への取組みを中心に(チーム毎ディスカッションを行う)	29. アリーナ舞台構成の設置をする
15. 学園際への取組みを中心に(チーム別練習①内容を創作する)	30. ゼミ発表会(発表、振り返り)

音楽療法訪問で郊外ゼミ予定

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	授業の取組み、意欲、姿勢、発表を総合評価する。

教科書等

● 教科書等

● 参考書

授業内で紹介する。

アクティブラーニングへの取り組み

<input checked="" type="radio"/> PBL(課題解決型学習)	<input checked="" type="radio"/> 反転授業	<input checked="" type="radio"/> ディスカッション、ディベート	<input checked="" type="radio"/> グループワーク
<input checked="" type="radio"/> 学生によるプレゼンテーション	<input checked="" type="radio"/> 実習、フィールドワーク	<input checked="" type="radio"/> 双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

お昼休み等(研究室)

実務経験

こども園・保育園へのリトミック、生活発表会指導者として勤務。音楽教室・幼児教室では合奏やオペレッタの舞台発表指導。長年、和楽器・管弦打楽器こどもオーケストラ、舞台発表等のイベントを主催、指導。自身も和太鼓やピアノによる舞台表現家であり、音楽療法訪問も行っている。

ゼミナールⅡ

坂本 渉

MS2E

単位	演・2	回数	30
年次 学期	2年・通		[保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

<input type="radio"/> 1.情熱・使命感・責任感	<input type="radio"/> 2.知識・技術	<input checked="" type="radio"/> 3.探究・主体性	<input type="radio"/> 4.人権・共感
------------------------------------	-------------------------------	---	-------------------------------

授業内容

● 目的と概要

子どもの育ちと、年齢に応じた環境への関わりを理解し、保育環境の構成の意味や保育者の役割について学ぶとともに、学生自身が実際に自然や身の回りにある素材を用いた遊びを体験することを通して、子どもが身近な環境にかかわって遊ぶことの意味を体験的に理解することを目的とする。

● 到達目標

- 1) 各年齢児の発達を考慮した遊びを計画することができる。
- 2) 模擬保育実践を通して、保育者として相応しい配慮や援助の方法について理解することができる。
- 3) 遊びや制作等の実践を通して環境構成および再構成する力を身につける。

履修のルール

演習授業に積極的に参加すること。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

予習：課題に必要な文献検索、資料作成ならびに素材・用具の準備を行う。
 復習：授業内容を振り返り、整理し理解を深める。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説する。また、実践の振り返りについてはグループ討議を行う。

授業計画

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション／概要説明 2. ステンシル①素材集め 3. ステンシル②構成およびコラージュ作り 4. 個人面談①進路指導 5. 個人面談②実習直前指導 6. 素材の検討①点材・線材 7. 素材の検討②面材・塊材 8. 素材の検討③自然物 9. 素材の検討④人工物 10. 学外学習 [伊賀市陶芸教室] ①陶芸に関する基礎知識 11. 学外学習 [伊賀市陶芸教室] ②轆轤の使い方 12. 学外学習 [伊賀市陶芸教室] ③土を練る 13. 学外学習 [伊賀市陶芸教室] ④作品制作 14. 遊びの検討① 1・2 歳児対象 15. 遊びの検討② 3 歳対象 | <ol style="list-style-type: none"> 16. 遊びの検討③ 4・5 歳児対象 17. 遊びの検討④小学生対象 18. 遊びの実践①室内遊び 19. 遊びの実践②戸外遊び 20. 遊びの実践③制作遊び 21. 遊びの実践振り返り①考察 22. 遊びの実践振り返り②遊びの発展を考える 23. 模擬保育実践についての指導案の検討 24. 模擬保育実践についての指導案の作成 25. 卒業制作①発表方法の検討 26. 卒業制作②準備物の検討 27. 卒業制作③準備物の作成 28. 卒業制作④撮影リハーサル 29. 卒業制作⑤撮影・編集 30. ゼミナール発表会 |
|--|---|

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	授業への参加状況、受講態度による評価 (50) ゼミナール発表会への取り組みや関連課題の提出状況 (50)

教科書等

● 教科書等

● 参考書

授業中に適宜紹介する。

アクティブラーニングへの取り組み

<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input checked="" type="checkbox"/> グループワーク
<input checked="" type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	<input type="checkbox"/> その他:

オフィスアワー

火・水・木・金の昼休み

実務経験

幼稚園教諭、主任教諭、また、保育所保育士として勤務。

ゼミナールⅡ

島田 和秀

MS2E

単位	演・2	回数	30
年次 学期	2年・通		[保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

<input type="radio"/> 1.情熱・使命感・責任感	<input type="radio"/> 2.知識・技術	<input checked="" type="radio"/> 3.探究・主体性	<input type="radio"/> 4.人権・共感
------------------------------------	-------------------------------	---	-------------------------------

授業内容

● 目的と概要

人間の体を生物学の観点から学びその知識を保育に生かし、指導できるようにする。子どもの成長にとって幼児期に十分に遊ぶことが、好奇心や探求心を育て主体性や頑張る力、学ぶ意欲につながっていく。子どもたちの遊びの中での成長を科学的に探求していく。また、各自の目的に即してテーマを設定し、資格取得を進める。

● 到達目標

子どもの体の発達と遊びについて、各自テーマを設定して探究する。
子どもと一緒に遊ぶ機会をつくり、同じ目線に立って遊ぶ中で子どもたちの成長の芽を見つける。
自ら学んだことについて、お互いに発表しあい学びあう。
興味関心を持った分野を研究し、知識と技術を習得するために資格を取得する。

履修のルール

授業に積極的に参加すること。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

授業前に、各自が決めたテーマに沿った調査、調査報告書の作成を行う。
各授業回ごとに行う。
学修準備時間の総計は90時間。

課題に対するフィードバックの方法

レポートについては授業内、または授業後に説明を加え、フィードバックを行う。

授業計画

- | | |
|----------------------------|------------------------------|
| 1. 本ゼミの趣旨について知る | 16. 半期の成果についての発表会 |
| 2. 資格取得に向けたリサーチ | 17. 各自のテーマにおける再調査についての発表 |
| 3. 卒業レポートのテーマ設定について | 18. 各自のテーマにおける再調査についての検討 |
| 4. 卒業レポートのテーマ設定(各自) | 19. 各自のテーマの再調査の進捗状況の発表 |
| 5. 卒業レポートのテーマ設定の発表 | 20. 各自のテーマの再調査後の発表 |
| 6. 卒業レポートの構想について | 21. 各自のテーマの再調査後の検討 |
| 7. 卒業レポートの構想について(各自) | 22. ゼミ発表会に向けての準備①構成についての検討 |
| 8. 卒業レポートの構想発表会 | 23. ゼミ発表会に向けての準備②個性について決定 |
| 9. 卒業レポートの構成についての検討会 | 24. ゼミ発表会に向けての準備③レイアウト等詳細の検討 |
| 10. 各自の研究における具体的な方法についての発表 | 25. ゼミ発表会に向けての準備④レイアウト等詳細の決定 |
| 11. 各自の研究における具体的な方法についての検討 | 26. ゼミ発表会に向けての準備⑤お互いの発表への助言 |
| 12. 各自のテーマにおける調査についての発表 | 27. プレゼミ発表会 |
| 13. 各自のテーマにおける調査についての検討 | 28. ゼミ発表会の準備 |
| 14. 半期のまとめ(各自の研究テーマについて) | 29. ゼミ発表会のためのリハーサル |
| 15. 半期の成果についてのプレ発表会 | 30. ゼミ発表会 |

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	各自設定したのテーマの調査状況及び、レポートの作成状況。 卒業レポートとレポートの要約の提出。

教科書等

● 教科書等

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

<input checked="" type="radio"/> PBL(課題解決型学習)	<input checked="" type="radio"/> 反転授業	<input checked="" type="radio"/> ディスカッション、ディベート	<input checked="" type="radio"/> グループワーク
<input checked="" type="radio"/> 学生によるプレゼンテーション	<input checked="" type="radio"/> 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

月・木・金のお昼休み

実務経験

ゼミナールⅡ

本田 和隆

MS2E

単位	演・2	回数	30
年次 学期	2年・通		[保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

<input type="radio"/> 1.情熱・使命感・責任感	<input type="radio"/> 2.知識・技術	<input checked="" type="radio"/> 3.探究・主体性	<input type="radio"/> 4.人権・共感
------------------------------------	-------------------------------	---	-------------------------------

授業内容

● 目的と概要

幼児教育を学んだ2年間の集大成として、各自の研究テーマに応じた卒業論文をまとめ、年度末に行うゼミ発表会でその成果を発表する。特に、子ども家庭福祉や社会福祉に関わる自らの問題意識を深め、課題解決に向けた提案力を身につける。実施内容は、①学生同士のディスカッション、②現場職員との交流、③地域や福祉現場の視察である。

● 到達目標

- ・講義で得た知識を身近な課題として理解できる。
- ・研究することの意味を理解し、提案力を身につけることができる。
- ・自らの学びを論文にまとめ、プレゼンテーションする力を身につけている。

履修のルール

常に、自分の身の回りで起きていること、社会で起きていることに興味を持っておくようにしましょう。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

授業で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業時に確認する。

授業計画

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> ゼミの流れと問題意識の共有 卒業論文作成の流れと書き方①—文献検索編 卒業論文作成の流れと書き方②—執筆編 卒業論文作成の流れと書き方③—プレゼン編 児童福祉施設で学ぶ視点①—保育・幼児教育施設との違い 児童福祉施設で学ぶ視点②—実習での学び 専門職とは—実習での学びから考える 社会福祉の課題①—子ども家庭福祉 社会福祉の課題②—高齢者福祉 社会福祉の課題③—障害者福祉 社会福祉の課題④—生活困窮者支援 社会福祉の課題⑤—地域共生社会とは 卒業論文構想の検討①—前半学生 卒業論文構想の検討②—後半学生 夏休み課題の提示—卒業論文構想 | <ol style="list-style-type: none"> 卒業論文構想発表①—全体指導 卒業論文構想発表②—全体指導 課題解決に向けた実践①—保育・幼児教育施設 課題解決に向けた実践②—NPOの意義 卒業論文個別指導①—問題意識と背景 卒業論文個別指導②—先行研究の検討 卒業論文個別指導③—調査結果の検討 卒業論文個別指導④—結論と根拠の検討 卒業論文個別指導⑤—引用・参考文献の表記方法 卒業論文発表①—全体指導 卒業論文発表②—全体指導 卒業論文発表③—全体指導 卒論発表の方法について—パワーポイント、出典など まとめ①—社会を良くするための提案 まとめ②—社会を良くするための提案 |
|---|--|

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	試験は実施しない。
レポート	0	期末レポート提出は求めない。
その他	100	・卒業論文、それに対する取組、卒論発表、提出課題等を総合的に評価する。

教科書等

● 教科書等

なし

● 参考書

・随時紹介する。

アクティブラーニングへの取り組み

<input checked="" type="radio"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="radio"/> 反転授業	<input checked="" type="radio"/> ディスカッション、ディベート	<input checked="" type="radio"/> グループワーク
<input checked="" type="radio"/> 学生によるプレゼンテーション	<input checked="" type="radio"/> 実習、フィールドワーク	<input type="radio"/> 双方向アンケート	<input type="radio"/> その他:

オフィスアワー

随時、受け付ける。

実務経験

ゼミナールⅡ

宮本 直美

MS2E

単位	演・2	回数	30
年次 学期	2年・通		[保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

<input type="radio"/> 1.情熱・使命感・責任感	<input type="radio"/> 2.知識・技術	<input checked="" type="radio"/> 3.探究・主体性	<input type="radio"/> 4.人権・共感
------------------------------------	-------------------------------	---	-------------------------------

授業内容

● 目的と概要

子どもの発達には様々な要因が考えられ、また保育者を含む周りの環境も大きく影響する。発達に課題のある子ども達にとって、周りの環境が与える影響はとて大きい。本ゼミでは、子どもの発達に関わる援助や支援について自分のテーマを各自が設定して探求する。「自ら学ぶ」「互いに学び合う」を重要視する。積極的に感想や意見を交換し、ゼミでの学びを深める。

● 到達目標

下記3点を到達目標とする。

1. 子どもの発達における援助や支援について、各自テーマを設定し探求する。
2. 学んだことについて実践したり、実際に調査したりしながら、何が明らかになったのか考察する。
3. 自ら学んだことについて、互いに発表しあい学び合う。

履修のルール

各自自分の課題を明確にして、授業に取り組むこと。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

授業前に、各自が決めたテーマに沿った調査、調査報告書の作成を行う。

各授業回ごとに行う。

学修準備時間の総計は90時間。

課題に対するフィードバックの方法

レポートについては授業内、または授業後に説明を加え、フィードバックを行う。

授業計画

- | | |
|----------------------------|------------------------------|
| 1. 本ゼミの趣旨について知る | 16. 半期の成果についての発表会 |
| 2. 本ゼミの趣旨に応じた各自の課題設定について発表 | 17. 各自のテーマにおける再調査についての発表 |
| 3. 卒業レポートのテーマ設定について | 18. 各自のテーマにおける再調査についての検討 |
| 4. 卒業レポートのテーマ設定(各自) | 19. 各自のテーマの再調査の進捗状況の発表 |
| 5. 卒業レポートのテーマ設定の発表 | 20. 各自のテーマの再調査後の発表 |
| 6. 卒業レポートの構想について | 21. 各自のテーマの再調査後の検討 |
| 7. 卒業レポートの構想について(各自) | 22. ゼミ発表会に向けての準備①構成についての検討 |
| 8. 卒業レポートの構想発表会 | 23. ゼミ発表会に向けての準備②構成について決定 |
| 9. 卒業レポートの構成についての検討会 | 24. ゼミ発表会に向けての準備③レイアウト等詳細の検討 |
| 10. 各自の研究における具体的な方法についての発表 | 25. ゼミ発表会に向けての準備④レイアウト等詳細の決定 |
| 11. 各自の研究における具体的な方法についての検討 | 26. ゼミ発表会に向けての準備⑤お互いの発表への助言 |
| 12. 各自のテーマにおける調査についての発表 | 27. プレゼミ発表会 |
| 13. 各自のテーマにおける調査についての検討 | 28. ゼミ発表会の準備 |
| 14. 半期のまとめ(各自の研究テーマについて) | 29. ゼミ発表会のためのリハーサル |
| 15. 半期の成果についてのプレ発表会 | 30. ゼミ発表会 |

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	各自設定したのテーマの調査状況及び、レポートの作成状況。 卒業レポートとレポートの要約の提出。

教科書等

● 教科書等

指定しない

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

<input checked="" type="radio"/> PBL(課題解決型学習)	<input checked="" type="radio"/> 反転授業	<input checked="" type="radio"/> ディスカッション、ディベート	<input checked="" type="radio"/> グループワーク
<input checked="" type="radio"/> 学生によるプレゼンテーション	<input checked="" type="radio"/> 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

月・木・金のお昼休み

実務経験

ゼミナールⅡ

森 大樹

MS2E

単位	演・2	回数	30
年次 学期	2年・通		[保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

<input type="radio"/> 1.情熱・使命感・責任感	<input type="radio"/> 2.知識・技術	<input checked="" type="radio"/> 3.探究・主体性	<input type="radio"/> 4.人権・共感
------------------------------------	-------------------------------	---	-------------------------------

授業内容

● 目的と概要

本ゼミでは、保育の現場でコンピュータを活用することを一緒に考え、学ぶことを目的とする。下のテーマなどの幅広くコンピュータを活用した取り組みを行う。ひとつひとつの操作を覚えるだけでは良い作品はできない。何よりも大切なことは意欲と、その内容を表現するための柔軟な発想と工夫が必要である。ワードを使用してゼミアルバムの制作、パワーポイントを使用した紙芝居、デジタルカメラやビデオカメラでの撮影手法や編集方法を学び、画像や映像の活用等を行う。作成したテーマ課題を授業時にプレゼンテーションし、相互学習をする。授業の最後には、(1)卒業制作としてビデオ編集、または、(2)卒業論文のどちらかを仕上げる。

● 到達目標

目標は、コンピュータを使って、単に指示された内容の文書を正確に作成できるようになるだけでなく、自分で創意工夫を凝らした資料や作品も作成できるようになることである。また、ゼミとして、ひとつのことを共同で取り組む姿勢を養う。

履修のルール

授業に積極的に参加すること。グループワークを重視する。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

授業後には、授業時にできなかった課題を必ず最後まで完成させておくこと。また、授業時間内に完了した課題についても、もう一度復習し、学習内容を整理すること。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題に対して次回授業時に解説を行う。

授業計画

- | | |
|----------------------------------|------------------------------|
| 1. オリエンテーション | 16. 附属幼稚園運動会メダル (3) 制作②印刷 |
| 2. 就職活動に向けての取り組み | 17. 卒業制作 (1) 課題説明 |
| 3. ゼミアルバムの制作①画像処理 | 18. 卒業制作 (2) 課題テーマ設定 |
| 4. ゼミアルバムの制作②効果 | 19. 卒業制作 (3) ビデオカメラでの撮影方法 |
| 5. プロジェクター絵本①パワーポイント概要 | 20. 卒業制作 (4) 動画の取り込み方法 |
| 6. プロジェクター絵本②効果のつけ方 | 21. 卒業制作 (5) 動画編集①基本操作 |
| 7. プロジェクター絵本③操作実演 | 22. 卒業制作 (6) 動画編集②素材取り込み |
| 8. デジタルカメラの活用 (1) 基本操作 | 23. 卒業制作 (7) 動画編集③カット編集 |
| 9. デジタルカメラの活用 (2) 構図と撮影計画 | 24. 卒業制作 (8) 動画編集④エフェクト |
| 10. デジタルカメラの活用 (3) PCでの取り込みと加工処理 | 25. 卒業制作 (9) 動画編集⑤音声編集 |
| 11. ビデオ編集 (1) 編集ソフトの使い方 | 26. 卒業制作 (10) 動画編集⑥タイトル編集 |
| 12. ビデオ編集 (2) DVD オーサリング | 27. 卒業制作 (11) 動画完成 |
| 13. ビデオ編集 (3) デザイン | 28. 卒業制作 (12) プレゼンテーション作成 |
| 14. 附属幼稚園運動会メダル (1) 写真撮影 | 29. 卒業制作 (13) プレゼンテーション・ハーサル |
| 15. 附属幼稚園運動会メダル (2) 制作①写真加工 | 30. ゼミ発表会 |

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	受講態度 (40%)、提出物 (20%)、ゼミ内での役割 (20%)、卒業制作 (20%) の総合評価とする。

教科書等

● 教科書等

授業時に指示する。

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

<input checked="" type="radio"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="radio"/> 反転授業	<input checked="" type="radio"/> ディスカッション、ディベート	<input checked="" type="radio"/> グループワーク
<input checked="" type="radio"/> 学生によるプレゼンテーション	<input checked="" type="radio"/> 実習、フィールドワーク	<input type="radio"/> 双方向アンケート	<input type="radio"/> その他:

オフィスアワー

火曜～金曜の昼休み・森研究室 (704)

実務経験

ゼミナールⅡ

寄 ゆかり

MS2E

単位	演・2	回数	30
年次 学期	2年・通		[保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

○ 1.情熱・使命感・責任感	○ 2.知識・技術	◎ 3.探究・主体性	○ 4.人権・共感
----------------	-----------	------------	-----------

授業内容

● 目的と概要

本ゼミでは、「音楽表現 アンサンブル」ゼミとして音楽表現の様々なあり方を考える。1 回生後期から、実際に各自が体験した音楽表現のあり方を、どう感じ、どう追求していくのか。文献研究や、各自の「曲を聴いて感じたこと」「人の心に響く演奏をするには」から得られた表現力をもとに、考える。また「人の心に響く演奏」を作り上げるための舞台設定、脚本等も研究し、最終は自分たちで卒業発表会を計画、立案、実施を行うことを卒業課題とする。

● 到達目標

- 1) 提示された課題曲演奏(歌、合奏など)に、積極的に取り組める。
- 2) 演奏の幅を広げる(楽器の種類、音域、ジャンルなど)努力ができる。
- 3) 様々な音楽表現を追求することにより、幼児教育の場での音楽表現の方法を考えることができる。
- 4) 舞台発表のための必要な知識(設定、装置、背景、構成等)を習得するための学習姿勢がある。
- 5) 卒業発表会の計画立案から実施までをチームで協力しながらできる。

履修のルール

音楽表現、特に合奏や合唱を行うためには、チームでの「調和」が重要です。演奏力だけではなく、自分が表現できる方法を身につける姿勢を持って、授業に臨んでください。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

事前に提示された課題については、必ず予習(曲の場合は練習)しておくこと。また卒業発表には、ゼミ生各自が「自分たちで作る」という意識と自覚を持って、進めてください。

課題に対するフィードバックの方法

共に向上させられるよう、課題が出た場合にその場で指導する。

授業計画

- | | |
|--|---|
| 1. 春期課題「自分のお勧め曲」パワポプレゼンテーション(個人)発表① | 16. 卒業発表会に向けて①(舞台に必要な仕事とは) |
| 2. 春期課題プレゼンテーション(個人・グループ演奏)発表② | 17. 卒業発表会に向けて②(チームでの役割) |
| 3. プレゼンテーション発表から感じたことディスカッション | 18. 卒業発表会に向けて③(演奏形態と選曲) / 学園祭演奏練習 |
| 4. 様々な演奏形態の紹介①(春期課題で探求したもの) | 19. 卒業発表会に向けて④(選曲の吟味) / 学園祭演奏練習 |
| 5. 様々な演奏形態の紹介②
(春期課題で探求したものを自分たちに置き換える) | 20. 卒業発表会に向けて⑤(担当者別ディスカッション) / 学園祭演奏練習 |
| 6. 様々な演奏形態の紹介③
(春期課題で探求したものを参考に新しい形態を考える) | 21. 卒業発表会に向けて⑥ / 学園祭演奏練習 |
| 7. 音楽で自分を活かせる
～選曲のための環境を考える～ | 22. 卒業発表会～構成をもとに舞台を作り上げる～
各セッション担当決め |
| 8. グループで演奏(合唱、合奏)形態を考える①～選曲～ | 23. 卒業発表会への取り組み①舞台構成の検討 |
| 9. グループで演奏(合唱、合奏)形態を考える②～演奏～ | 24. 卒業発表会への取り組み②舞台のイメージ共有 |
| 10. グループで演奏(合唱、合奏)形態を考える③～練習の方法～ | 25. 卒業発表会への取り組み③イメージに沿った楽器構成の検討 |
| 11. グループで演奏(合唱、合奏)形態を考える④～合わせる～ | 26. 卒業発表会への取り組み④構成に沿った楽曲選曲 |
| 12. グループで演奏(合唱、合奏)形態を考える⑤～息を合わせる～ | 27. 卒業発表会への取り組み⑤演奏練習、各担当パートによる |
| 13. グループで演奏(合唱、合奏)形態を考える⑥
～曲のジャンルを考える～ | 28. 卒業発表会への取り組み⑥
演奏を極めることによる自分の成長を見つめる |
| 14. ゼミ演奏を仕上げる①～人に聴かせられる演奏に～ | 29. 卒業発表会への取り組み⑦演奏の喜びとは |
| 15. ゼミ演奏を仕上げる②～振り返りと改善～ | 30. 卒業発表会、振り返り、まとめ |

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・各授業での課題と課題追求に取り組む姿勢、課題の達成度、チームでの曲への取り組み協力度、卒業発表会に関する計画から発表までのあらゆる面での取り組み姿勢など総合的に判断する。

教科書等

● 教科書等

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	◎ 反転授業	◎ ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
◎ 学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	◎ 双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

(火)(水)(木)(金)の在室時

実務経験

音楽教室においては、3歳児からピアノ、エレクトーンまでの鍵盤指導及び管楽器、打楽器指導を中心としたアンサンブル教育も行う。また現役保育者に対する保育内容に関する実技講習などの研修を多く行っている。

MEMO



大阪千代田短期大学

〒586-8511 大阪府河内長野市小山田町1685

TEL 0721(52)4141(代 表)

0721(52)6800(実習・キャリアサポート室直通)

FAX 0721(52)4747

<https://www.chiyoda.ac.jp>

学籍番号

氏名